

教育委員会の教科用図書採択に係る会議の議事録

第1回 教育委員会の教科用図書採択に係る会議

答申受理

音楽、国語、保健、道徳、地図

会議録

1 日時

令和5年7月11日（火） 会議開始時刻18：00 会議終了時刻20：55

2 会場

市役所 14階 大会議室

3 出席者

○教育委員

教育長	阿形	博司
教育長職務代行者	藤本	禎男
委員	森崎	陽子
委員	波床	昌則
委員	石元	和代

○教科用図書採択事務局

事務局長	利根	功一	（教育局長）
事務局次長	前北	博文	（学校教育部長）
事務担当課長	岩本	信哉	（学校支援課長）
	西谷	宣昭	（学校教育課長）
	竹内	圭	（教育研究所長）
事務局員	岩崎	朝蔵	（教育研究所専門教育員）

○選定委員

選定委員長	横町	真紀
選定委員	北山	圭子
選定委員	貴志	雅代
選定委員	湯川	泰成
選定委員	三宅	秀夫
選定委員	市川	圭造

4 議事

阿形教育長

それでは、議案第14号について説明をお願いします。

利根事務局長

はい、教育長。議案第14号は、「令和6年度に和歌山市立小学校及び義務教育学校前期課程で使用する教科用図書の採択について」ご審議いただくものです。これより、令和6年度に和歌山市立小学校及び義務教育学校前期課程で使用する教科用図書採択のための臨時教育委員会 第1回採択審議をお願い

いたしたく存じます。

これまで、教育委員会は、和歌山市立小学校、中学校及び義務教育学校教科用図書の採択に関する条例に基づき、令和5年5月8日付で選定委員会に対し、当該教科書の選定について諮問を行いました。選定委員会におかれましては、各教科・種目ごと全ての教科書について熱心な調査・研究・審議を行い、審議結果を答申としておまとめくださいました。本日は、同条例第3条の規定に基づき、選定委員会から答申をいただきます。これを受け、教育委員会では、今後、8月31日までに、令和6年度に和歌山市立小学校及び義務教育学校前期課程で使用する教科用図書の採択を行います。教育委員におかれましては、和歌山市立小学校、中学校及び義務教育学校教科書採択基本方針を踏まえ、採択権者の責務として、市の子供にとって最も適切な教科書を採択するためのご審議をお願いするものでございます。よろしくお願ひいたします。

それでは、これより事務局の説明は、教育研究所長 竹内に行かせます。

竹内教育研究所長

本日の採択会議日程について、ご説明を申し上げます。これより、選定委員会の答申を受け、音楽、国語、保健、道徳、地図の順にご審議をいただきます。ご答申は、選定委員長に続き、選定委員から教科・種目ごとに、1社ずつ行っていただきます。そのあと質疑応答のお時間を設けたいと存じます。質疑応答が済み次第、選定委員には退出していただきます。選定委員の退出後、教育委員の皆様にはご審議をお願いいたします。

それでは、はじめに和歌山市立小学校、中学校及び義務教育学校教科用図書選定委員会 横町真紀選定委員長より、ご答申をいただきたいと存じます。横町選定委員長、よろしくお願ひいたします。

横町選定委員長

和歌山市立小学校、中学校及び義務教育学校教科用図書選定委員会委員長 横町真紀です。教科用図書選定委員会においてこれまで審議してきたことを答申としてまとめ、報告いたします。

和歌山市教育委員会 教育長 阿形 博司 様

令和6年度に和歌山市立小学校及び義務教育学校前期課程で使用する教科用図書の選定について（答申）

令和5年5月8日付和教研第100号において、和歌山市教育委員会 阿形 博司 教育長から、令和6年度に和歌山市立小学校及び義務教育学校前期課程で使用する教科用図書の選定についての諮問がありました。

これを受け、和歌山市立小学校、中学校及び義務教育学校教科用図書選定委員会は、教科・種目ごとの全ての教科書について調査研究を進め、同月8日から5回にわたり審議を重ねてきました。

ついては、ここに、審議結果を「令和5年度和歌山市立小学校、中学校及び義務教育学校教科用図書選定委員会答申」として取りまとめ、「令和5年度和歌山市立小学校、中学校及び義務教育学校教科用図書選定委員会答申資料」を添えて答申します。

令和5年7月11日

和歌山市立小学校、中学校及び義務教育学校教科用図書選定委員会 委員長 横町真紀

なお、教科・種目ごとの答申は、教科・種目専門の選定委員より、資料に基づきながら行います。

阿形教育長

熱心なご審議ありがとうございました。答申を確かに拝受いたします。

音楽科

竹内教育研究所長

ここからは、教科・種目ごとの答申及び答申資料のご説明をいただきます。はじめは、音楽の答申及び答申資料のご説明をいただきます。音楽は、教育出版、教育芸術社です。委員のみなさまは、お手元の答申資料をご覧ください。ご答申は北山選定委員にお願いいたします。それでは、教育長よろしくお願いたします。

阿形教育長

北山選定委員、音楽の答申及び答申資料のご説明を、教育出版から順にお願いいたします。

北山選定委員

選定委員の北山です。音楽の答申をいたします。音楽は2社ございます。選定委員として調査・審議し、まとめた内容を、1社ずつ申し上げます。恐れ入りますが、教科書をお手元にご準備いただけますでしょうか。

(教育出版)

答申

<p>ダイナミックな写真を使用し、児童の興味・関心を高めるような工夫がなされている。 主要部分と選択可能なオプション部分の教材を組み合わせたり、教科横断的な教材を配列したりするなど、弾力的な運用が可能な教科書である。</p>
--

目次をご覧ください。導入部分、主要部分、選択可能なオプション部分により構成されています。導入部分では、第2学年以上にスキルアップのコーナーを設け、常時活動で取り組むことができるように示しています。主要部分は、全学年8つの題材で構成されています。共通教材を「にっぽんのうた みんなのうた」として題材構成の外に置いていることが多いのも特徴です。ダイナミックで歌詞に忠実な写真を掲載し、第3学年以上では、共通教材のうち1曲は6ページ使用しています。また、音楽づくりの教材も、「音のスケッチ」として題材構成の外に置き、テーマを決めて系統的に丁寧に扱っています。オプション部分では、教科横断的に扱える教材や、曲集部分に多くの教材を掲載しています。次に、第3学年以上では、巻末の折り込みを開くとリコーダーの運指をどのページからでも確認できることや、第1学年の鍵盤ハーモニカ導入部での鍵盤表示の工夫等、個別最適な学びや発展的な学習等の手助けとなるように作られています。また、二次元コードが「学びりんく」として随所に掲載され、動画やワークシート、資料が示されています。鑑賞教材の動画が多く、演奏と共に楽譜を掲載し、演奏していると

ころを色分けして追っていくというような取扱いをしているものもあります。そのほかにも、早い時期から高い技術を学習したり、発展的な内容を取り入れたりし、指導者の選択で実態に合わせて弾力的に運用することができる教科書になっています。

(教育芸術社)

答申

【共通事項】を軸に、表現教材と鑑賞教材を関連付けて配列し、何を学ぶのかを明確に示した題材構成となっている。

系統的に題材を配列し、スモールステップで段階的・系統的に学ぶことができる教科書である。

巻頭に「学びの地図」を領域・分野別に示し、1年間の学習を視覚化するとともに、学習指導要領で示されている学習内容を児童にも分かりやすい言葉で示しています。それと共に、巻末で、「振り返りのページ」も設定しています。また、学習の手順を「見つける」「考える」「歌う・演奏する・つくる」の三つのアイコンで説明し、学習のまとめごと、振り返りのコーナーを設けて、学習内容を確実に身につけていけるよう工夫されています。次に目次をご覧ください。各学年ともに、四つの題材群に分かれて教材を配置し、低学年10、中学年9、第5学年8、第6学年7の題材数で構成されています。各題材においては、ねらいに沿って表現と鑑賞の教材をバランスよく配置し、各教材を結び付けて学習するように構成されています。また、共通教材を「こころのうた」と位置付け、まとめて掲載しています。共通教材は、題材構成の中で学ぶ扱いとなっています。次に、ほとんどの右ページ右上二次元コードが提示され、全ての歌唱・器楽教材の音源を聞くことができます。音楽づくりの教材では、素材を操作して音楽をつくり、それを再生することができるよう工夫されています。また、楽曲に関する資料館やJASRACの児童向けサイト等とリンクされていて、幅広い活用ができるようになっています。そのほかにも、メッセージやコラム等を多く掲載し、私たちの生活や社会と音楽との関わりを考えることができることも特徴です。

以上、各社の特徴的なところを中心に述べさせていただきました。これで調査・審議内容についての報告を終わらせていただきます。

阿形教育長

ありがとうございました。それでは、北山委員から音楽の2社についてご報告いただいたのですが、何かご質問等ございましたら出していただけたらと思います。

森崎委員

教育芸術社のほうで、一番目に付いたのは、各歌のところに「見つける・考える・演奏する・歌う」というものが全て付けられているのですが、教える側にとって、また学ぶ子供たちにとって、非常に効果的であると捉えてよろしいのでしょうか。

北山選定委員

はい。非常に道筋がわかりやすく、指導する側にとっても、学習する児童にとっても、この題材の中

で「何をどのように学んでいけばいいのか。」ということがつかみやすいというふうに考えています。

森崎委員

教育出版のほうがとてもきれいな写真で、教育芸術社は絵のほうに内容が盛り込まれていて、どちらを選ぶべきかすごく悩んでいましたが、お答えいただいたので。

藤本委員

ありがとうございます。教育出版は、かなりダイナミックであることを選定委員がおっしゃっていたのですけれども、共通教材の部分が見開きの3ページで富士山の写真になっていて、びっくりするほど改善されていて、前に見せてもらった時より、かなり良さが出ているなと思いました。次の教育芸術社ですけれども、二次元コードが使われていることは分かったのですけれども、それ以外で大きく改善されている部分があれば教えていただきたいです。

北山選定委員

教育芸術社は、おっしゃられましたように、題材構成等については従来からすごく力を入れて作っているところですので、大きな流れとしてはあまり変わっていないというふうに考えます。やはり、学習指導要領の目指す子供像であるとか、付けたい力であるとかがより明確に織り込んで、言葉として表したり、子供たちに伝わるような表現をしたりしているのは、前よりも少し変わってきているかなと感じました。活動文の「考える・見つける・歌う・演奏する・つくる」というところは、今までなかった表記になっています。今までは、楽曲があって、その題材で学ぶことについて、項目を上げて「これはどうですか」というような感じで「このようにしましょう」というような形で、子供たちに問いかけたり、提示したりという表記だったと思うのですが、今回は先程おっしゃられましたように、全てを通して「見つける・考える・歌う・演奏する・つくる」というふうに、統一しているところが変わってきているかなというふうには思います。

阿形教育長

ほかに何かございませんでしょうか。それでは北山選定委員にはご退席していただきます。ありがとうございました。

音楽の審議に入る前に事務局に伺います。教科書展示会において音楽について何か意見はありましたか。

竹内教育研究所長

展示会での音楽についての意見はございませんでした。

阿形教育長

それでは音楽の審議に入りたいと思います。委員の皆様一人お一人、教科書を見ていただいて審議していきたいと思います。お考えや感想等ご意見を出していただいてご審議していただきたいと思えます。よろしくお願いたします。音楽は2社になっています。今日で決めてしまうのではなくていろいろご意見を出していただいて、教育出版それから教育芸術社、二つの会社ですので、できればどちらか

1社にある程度絞っていただいて最終決定は今日しないにしてもそんな形がいいのですが、もし無理であれば2社のままでも構いません。ほかの教科は多いところもあるので2、3社にしたいのですが、音楽は2社ですので次の審議でも可能です。

波床委員

教育芸術社のほうが楽しいと思います。音楽は情操を育てる、歌唱、演奏、鑑賞力を楽しみながら付けていく。そういう教科書としてどちらがいいと考えたとき、教育出版と比較すると教育芸術社のほうは、そういった目標に沿って楽しく学習できると思います。例えば、1年に「あいあい」、3年に「ミッキーマウスマーチ」、4年になったらほかの教科にも出てくる「ごんぎつね」、6年には「翼をください」等、こういった教材選定は子供たちにとって楽しいのではないかと、また音楽が好きになるのではないかと思います。そういう意味で教育芸術社だと思います。今回も引き続きそれでいいと思います。

阿形教育長

ありがとうございます。教育芸術社は現在使われている教科書なのですが、楽しく学べるという点でいうと引き続きというご意見です。

石元委員

どちらもいいなと思ってしまいますが、どちらかというところ、教育出版のほうは写真が多くてイメージがわいていいと思うが、堅いかなと感じました。教育芸術社はイラストが多かったり、カラーが多かったり、子供たちもパッと見たときにとっつきやすいという気がしました。

阿形教育長

先ほど北山委員からもありましたが、教育出版のほうは写真が結構ダイナミックに使われています。それに対して教育芸術社はスモールステップといえますか、基礎基本を大事にしている感じがします。それから、二次元コードがどちらもあるのですが、教育芸術社は割と場所が決まっているので見つけやすいということもあります。英語の歌も入っています。ほかにも音楽とは直接関係ないが、表紙も上の学年になるといろいろな多種多様な人が見えてきて、1年からみていくとだんだん増えていて、見ていて楽しいというのがあります。

森崎委員

今回、教科書選定において四つの視点で考えてみました。一つ目は4年前に社会に開かれた教育課程で改訂の方向として、「どのように学ぶか」が今までより大切になりました。そして、アクティブラーニングの視点から学習過程の改善として「主体的・対話的で深い学び」の実現が示されました。特に、深い学びは各教科の特性に応じた見方・考え方を働かせながら知識相互に関連付けてより深く理解したり、情報を精査して考えや考えをもとに想像したりすることに深い学びの実現をと解説されています。後半に入り、そこらの焦点がどの教科書も非常に見方・考え方を強く出されていると感じました。主体的・対話的はやりやすいが、深い学びは非常に難しいと感じています。深い学びをどのように工夫して展開されようとしているかに一つ焦点を当てました。二つ目はICT機器の活用が深い学びにどのように効果的に活用されているかという点です。三つ目は小学校の教科書は、各教科の基礎となるものなので、

導入段階にある1、2年生の進め方がいかに丁寧になされているか、歌いやすく工夫されているかという点です。四つ目は第4期教育振興基本計画が今後5年間の目指す方向性がこの間出されました。「持続可能な社会の創り手の育成」と「日本社会に根差したウェルビーイングの向上」が挙げられています。ウェルビーイングとはもちろん心身の健康と幸福です。教育を通じて達成すると掲げられているので、人との関わりとか心の思いやりであるとかをいかに大事にしているかという視点です。この4点について、十分ではありませんが自分なりに考えました。

音楽に関しては、深い学びを考えたとき、「考える・みつける・歌う」ことが毎回出されていることにとっても興味深く感じました。「みつける」では歌の特徴からどう教えたらいいかということをもどの歌にも示している。「考える」とは情景や心情を理解しながらイメージして歌うようにする。「歌う・演奏する」は声の出し方や楽器の出し方など技術面で配慮することがわかりやすく丁寧に書かれています。質問させていただき、教える側も教えられる側も音楽のねらいを深めるのに非常に役立つとお聞きしましたので、教育芸術社を推薦させていただきます。

藤本委員

前回の採択の時は2社を見させてもらって、すぐに教育芸術社となって、かなり2社に差があると思ったわけですが、今回見させていただいて、共通教材のダイナミックな写真、それを見せての歌詞を書いているところからいうと子供たちにとってインパクトがあると思います。それだけでなく、鍵盤ハーモニカとかリコーダーの使い方の部分の指先の写真などそういったところでもかなり良くなってきていると思いました。内容的には教育芸術社のほうが良いと思っているが、頑張りを評価して教育出版のほうが子供たちにいいと思いました。

阿形教育長

教育出版もかなり改訂を重ねている。写真の使い方を外に出せるのでこれを見ながらできますし、リコーダーなど写真をたくさん載せて重要視している。

音楽はそろそろこの辺りでしめようと思います。教育出版のほうがいいというご意見もありますし、教育芸術社のほうがというご意見もあります。2社残しましょうか。もし、どっちと言えるのであれば出しておいていただければと思いますがいかがですか。

なかなか1社に絞るのは難しい感じなので、2社残してもう少し審議したいと思います。問題ありませんか。もう一度一人一人研究していただいて、どちらの教科書が本市の子供たちに適切か考えていただいて、後日の採択会議で1社を採択したいと思います。

国語科

竹内教育研究所長

国語科の答申及び答申資料のご説明をいただきます。国語科は、東京書籍、教育出版、光村図書です。委員のみなさまは、お手元の答申資料をご覧ください。ご答申は貴志選定委員にお願いいたします。それでは、教育長よろしくお願いたします。

阿形教育長

貴志選定委員、国語科の答申及び答申資料のご説明を、東京書籍から順にお願いいたします。

貴志選定委員

選定委員の貴志です。国語科の答申をいたします。国語科は3社ございます。選定委員会として調査・審議し、まとめた内容を1社ずつ申し上げます。

(東京書籍)

答申

各単元の「言葉の力」で学習のポイントを明記し、確かで豊かな言葉の力を付けるために何をどのように学ぶかをスモールステップの構造で明確に示している。デジタルコンテンツを多く取り入れ、言葉を通して現代的諸問題や情報を扱う力の獲得を目指している教科書である。

全学年で、子供キャラクターとマスコットキャラクターが登場し、単元のねらいや学習のヒントを載せ、主体的に学習を進めることができます。「話す・聞く」の単元では、動画を視聴でき、単元導入や話し合い活動に有効です。「書く」単元は、1、2年生は身の回りや生活科と関連し、3、4年生は他教科との関連を重視、5、6年生は意見文を書く教材があり、全て動画を視聴できます。「読む」単元の冒頭には、扉のページが見開きの2ページあり、単元の目標と作品へ誘う文を載せており、学習意欲がわきます。学習の流れは、「見通す」「取り組む」「ふり返る」のスモールステップ式の流れが確立されており、特に「取り組む」の内容は、具体的で丁寧に示しており、指導の手順がわかりやすいです。「読む」教材は子供の身近に起こり得るようなものがあり、意欲的に取り組みます。説明文教材は、全学年の下巻において、「書く」単元へとつなげています。ローマ字の学習は3年で8ページ。「キーボードで入力してみよう」もあり、丁寧に扱っています。デジタルコンテンツが充実しており、各学年とも個に応じた指導やオンライン授業にも対応できます。最後に、6年平和教材として、「模型のまち」が掲載されていることを付け加えておきます。以上です。

(教育出版)

答申

子供たちの身近な問題や、現代社会に向き合う教材を通して、多様で活発な言語活動に取り組み、他教科や実生活で生かせる言葉の力を身に付けることができる。学習ステップを手引きに、子供が主体的に取り組むことができる教科書である。

巻頭に「〇年生で学ぶこと」を示し、1年間で何を学ぶのかがわかります。全学年にふくろうと子供キャラクターが登場し、学習のヒントや疑問を投げかけて、単元のねらいに導いています。「話す・聞く」の単元では、3、4年生は「読むこと」や「書くこと」へつなげた単元を、5年生はディベート、6年生はパネルディスカッション形式の学習を設定しています。「書くこと」の単元は、1、2年生は生活科に関連した教材を、3、4年生は、社会科や総合的な学習の時間に関連した教材、5、6年生は、説明文の学習後に書いたり意見文を取り入れたりしています。以上のように、「話すこと・聞くこと」「書くこと」の単元は他教科や実生活に役立てることができると考えます。次に、「読む」単元には扉のページ

があり、単元の末尾には、「たしかめよう」「くわしくよもう」「まとめよう」「つたえあおう」の順に学習の手引きを示し、「ふり返ろう」では、項目がチェックでき、主体的な学習を目指しています。3、4年生の説明文は、2教材載せてあり、一つ目の教材には学習の手引きが示されています。3年上巻には、コンピュータ入力の学習も取り入れています。デジタルコンテンツ「まなびリンク」は、作者や筆者の情報が得られたり、NHK for School の動画資料を視聴できたり、確かな学びにつながると考えます。

(光村図書)

答申

各学年とも系統的に多様な取り組みができ、様々な言語活動を通して豊かな言葉の力が子供たちに育めるように編集されている。教材は各学年の発達段階に応じて学習意欲を喚起させる教材が多く、子供たちの主体的な学習を企図した教科書である。

「話す・聞く」の教材は、各学年においてグループ活動を多く取り入れ、2年生から4年生までは発表形式の学習へ、5、6年生は、スピーチ形式へと構成されています。「書く」の単元は、1、2年生は生活科に関連した教材を、3、4年生は地域、5、6年生は、ユニバーサルデザインなどを、発達段階に応じた教材を使っています。「読む」単元には、「見通しをもとう」で問いと目標が示され、「とらえよう」「ふかめよう」「まとめよう」「ひろげよう」の順に学習の手引きを示し、「ふりかえろう」では、具体的な項目で振り返りができるようになっています。1、2年生の説明文教材は、「読む」から「書く」へとつなげた単元構成であり、3年生から6年生までの上巻の説明文教材は2教材がセットになっており、確かな学び、多様な取組ができます。平和教材が充実しています。3年「ちいちゃんのかげおくり」、4年「一つの花」、5年「たずねびと」と伝記「やなせたかしーアンパンマンの勇気」。6年は説明文「平和のとりでを築く」を掲載しています。また、「伝統的な言語文化」の教材も充実しています。以上のように、物語教材、説明文教材共に長年親しまれた教材が掲載されており、多様な学習展開が期待できます。以上です。

阿形教育長

報告いただいた内容について、何かご質問等ございましたらよろしくお願いたします。

波床委員

国語の中で読解力というものに重心、重点を置いて考えたときに、この三つの教科書ですと、読解力を育てる、育むための教科書としては、差異があるといえますか、どれが使いやすいとか、そういったことでお気付きの点ございますか。

貴志選定委員

そんなに大きな差異はないように思いますが、物語教材として、東京書籍は30、教育出版は28、光村図書は30だったように思います。

阿形教育長

物語の扱っている数が、教育出版がちょっと少なかったということですね。

貴志選定委員

はい。

阿形教育長

確か28で、残りの2社は30だそうです。

森崎委員

小さなことですが、東京書籍の1年生のところに、「たたいてみよう」というのがあります。これほどのように効果があるのでしょうか。

貴志選定委員

例えば、「き・っ・て（手をたたきながら）」とか。

森崎委員

つまるところ。

貴志選定委員

「た・ぬ・き（手をたたきながら）」ならつまらない。「が・っ・こ・う（手をたたきながら）」とか、低学年ですので、このように動作をしながら発音し、そしてそれを「書く」ということへつなげているのかなと思います。

森崎委員

ありがとうございます。

石元委員

読解力というふうにさっき出たんですけど。私、記述力、書く力もすごく子供たち、自分の子供ですけど、弱いなと思っていて、大学受験とかが結構書かされるような入試に変わってきていると聞くんですけど、「読むこと」から「書くこと」へ自然と進んでいくには、どの教科書が一番いいのかなと思ったりするんですけども。何かもし違いとかあったら教えてほしいなと思うんですけども。

阿形教育長

「読む」から「書く」に対して、研究された中で、もし特徴的なものございましたら教えていただければと思います。

貴志選定委員

そんなに差異はなかったように思います。各社とも、低学年は身の回りのことから始まり、3、4年生から総合的な学習の時間など始まりますので、そういう領域とか地域に関係した題材を見つけて「書

く」。それから、5、6年生になりますと、現代社会において問題になっておりますSDGsとか、どうしたら素敵に暮らしていけるかというような観点で「書く」ということで、各社ともそういうふうな低中高の振り分けになっていると思います。その中で、東京書籍はデジタルコンテンツの数が多くて、導入のときにそれを活用することもできると思います。でも、光村図書も低学年では、説明文の「読む」教材から「書く」という単元へつなげたり、そういう工夫もしていると調査いたしました。

石元委員

ありがとうございます。

藤本委員

光村図書のときに、物語教材、それから説明文教材共に長年親しまれた教材が掲載されており、というふうに言われたかと思うんですけども、この「長年」を光村図書やほかの会社であったとしても、教材が変わっておらない部分がありますよね。その部分の良さと教えるときのメリットとデメリットを教えてくださいたいと思います。

貴志選定委員

長年載っています教材は、こんな感じで、例えば、「大造じいさんとガン」だったら、「大造じいさんの心情の変化を読み取ろう」が一番のめあてというふうに取り組んできた先生が多いと思うのですが、それをもとにして朗読をしたり新聞を書いたり、いろいろな取組ができると思います。やはり共通の教材として各社載っている教材もあります。この教材はこのめあてだ、ということではなくて、それは教員の取組の工夫でいろいろな取組ができると思います。それがいいところであると思うんですが、デメリットは少ない。でも、この教材はこうするべきだと考える先生はいないと思います。長年載っている教材であっても、いろいろ取組はできると思います。

藤本委員

ありがとうございます。

阿形教育長

ありがとうございます。ほか、何かご質問等ございませんか。物語教材が、教育出版が28、後は30だったと思うんですけど、そのうち共通のものというのはだいたいいくつぐらいあったんでしょうか。もし資料があれば教えてください。

貴志選定委員

1年生は「大きなかぶ」、2年生は「お手紙」、3年生は「モチモチの木」、4年生は「ごんぎつね」、5年生は「大造じいさんとガン」、6年生は「海の命」ですけども、教育出版は「海の命」の代わりというか、「川とノリオ」という教材を載せております。それから光村図書は「海の命」の「命」が漢字です。東京書籍は、「海のいのち」の「いのち」がひらがなになっています。それから記述も、光村図書「海の命」の238ページ。東京書籍は193ページ。ここをちょっと読んでみます。「太一はあらしさえもはね返すくっ強な若者になっていたのだ。太一は、そのたくましい背中に、母の悲しみさえも背負おうと

していたのである。」のあとに、光村図書は次の一行が書き加えられています。「母が毎日見ている海は、いつしか太一にとっては自由な世界になっていた。」ここが、光村図書には入っていて東京書籍には入っていない文言ということで、同じ物語教材ですけども、少し違っております。

阿形教育長

はい、分かりました。こういう、例えば作品の一行を加えるとか削るとか、そういうのは、私ちょっと国語詳しくないので分からないんですけど、ほかのところに教科書会社によって、こういうことはあるんですか。

貴志選定委員

「大きなかぶ」もちょっと文言が違っていたような気がします。

阿形教育長

やっぱりちょっとあるんですね。分かりました。

あまり関係ないのかも分からないんですけど、「スイミー」という教材ありますよね。東京書籍が1年生の最後に出てきて、光村図書は2年生で出てきます。もちろん習っている漢字とかは、習っていないのはひらがなで出てるんですけど。昔私も自分が教えたときは確か2年生だったと思うんですけど、もともと2年生にあった教材が1年生におりてきている。こんなもたまにあるんですか。

貴志選定委員

私も実際に子供と授業していて、初めてでした。今回は、教育長がおっしゃったように、光村図書は2年生。東京書籍は1年生の終わりですよ。教育出版は1年生です。

阿形教育長

読み物として最後に出てきてるかな。

貴志選定委員

そうですね。1年生でも2年生でも簡単な劇をしたりして、取り組むことはできると思います。

阿形教育長

分かりました。何かほかございますか。それではないようですので、貴志先生どうもありがとうございました。

阿形教育長

国語の審議に入る前に、事務局に伺います。展示会で国語について何か意見がありましたか。

竹内教育研究所長

国語については2件のご意見がありました。資料4「令和5年度教科書展示会に関するアンケート結果」の10ページと15ページのご意見になります。

阿形教育長

どちらも現在の教職員か退職した教職員の方となっていますね。それではこれから国語の審議に入ります。先生方それぞれでご覧になってお考えになっていただいたことを出していただければと思います。

なお、国語は3社なので、できたら2社に絞れたらと思っておりますので、そのことも踏まえてお願いいたします。

波床委員

やはり私は国語力の基本は読解力だと思っております、最近になりますけど、和歌山大学教育学部の先生がある講演をなさって、その中で今の生徒さんたちは複文というものが出てくるとなかなか理解できないんだという指摘をなさっていたりして、ちょっと大丈夫かなど。そのような講演を聞きまして、やはり国語力を付ける基本は読解力で、その読解力がないとほかの勉強についても基礎が欠けてしまうことになるんじゃないかなという、私はそのような影響があるのではないかなと思っております。

その意味では三つの教科書を比べたときに、物語の教材の数というより、重要なのは、一つの物語を読ませるときに、それを題材としてどのように読むのか、あるいはどのように教材からその教材の意図するところをくみ取るのか、そういうふうな課題設定といえますか、それが十分になされているかという点ではないのかなと思っております。

そういう観点からいきますと、東京書籍は低学年から高学年に向けて、年齢が高くなっていくにつれて、成長を考えて読ませる教材を十分選別しているということと、ほかの教科書と共通している教材と対比させたとき、課題設定が非常に豊富でよく考えさせるものになっているのではないかと私は気付いたものですから、東京書籍を推薦したいと思えます。

例えば選定委員がおっしゃっていた6年生の「海の命」という物語、これは東京書籍と光村図書が扱っておりますけども、その課題設定を対比して見比べてみますと、明らかに東京書籍のほうが視点の豊富さが際立っていることに気付くわけです。その意味で先ほど石元委員がおっしゃった読解力から記述力へという基礎、出発点がそういう形で読解力が十分深まるにつれて記述力も書きたいと思う内容も豊富になっていくものですから、それが育つ内容になっているのではないかと思います。その意味で東京書籍を第1順位と推薦させていただきたいと思えます。

第2順位を仮に置くとすれば、やはり光村図書ではないかなと思えます。先ほど申し上げましたように、教育出版で読解力を重点と置いたときに少し3社の教科書の中では見劣りするのではないかと思うことが大きな理由です。以上です。

阿形教育長

ありがとうございます。課題設定や読解力の視点、色々見つけるときに、視点が豊富そういう観点から東京書籍、次は光村図書、そういうご意見だったと思いますが、ほかの先生方いかがでしょうか。

藤本委員

私も2社を選ぶとしたら、東京書籍と光村図書と考えております。東京書籍は説明文教材、これが充実しているのと、現在の課題に合った説明文の内容が多いということで。それと各学年の段階において、順序立てて難しい説明文になっていると。こういう流れで四つの教材が配置されているというところで、

読んでいて素晴らしい内容だと思いました。

6年生の『「永遠のごみ」プラスチック』の内容とか、そういう今日的な課題がかなり載せられているので、いいなというふうに思いました。そして3年生、貴志選定委員もおっしゃられたのですが、学習指導要領で必ず3年生でローマ字を読む、ローマ字で書くということが、きちんと国語科でやりなさいよと書かれているんですけども、少し光村図書のところが、3年生の上のところだけの記述になっておまして、そこが弱いかなと考えております。ですから1番は東京書籍、2番に光村ということで考えました。以上です。

阿形教育長

ありがとうございます。ローマ字は東京書籍で3年生以上は全部後ろに載っております。今デジタルでいろいろとタブレットも使うようになってきておまして、もちろんひらがなで入力してもいいんですけども、ローマ字は東京書籍のほうが、充実しているなというご意見です。他いかがですか。

石元委員

私も先生方がおっしゃったように、東京書籍と光村図書どちらもいいなと思っておまして、私が小さい頃から読んでいた内容があるので、子供と一緒に読んだときに、「あっ、またこのお話なんだね」という感じで、「お母さんのときはね」という話が、共通の内容のお話を読めるということが幸せだなというふうに思うのと、両方でいいなと思うのは、見通しを持つとうというところで、捉えよう、深めよう、まとめよう、広げようといって、きっとこのような内容で学校では進んでいくのか、先生が問いかけてくれるのかなと思うんですけども、それがよく子供が宿題で持って帰ってくるんですね。例えば、「この文章から問いを二つ見つけて書いてきてねと先生に言われたよ。」と、それを一生懸命子供が探んですけど、「やっぱりお母さん、分からないわ。」と「一緒に読もうか。」となって、私も一緒に読むんですけども、一体先生はどういったことを問うてくれているのかなと思って、そういうときにこの見通しを持つとうというこのページとか、東京書籍だったらこの取り組むというページを私も一生懸命読んで、子供を導いてみようかなと思ったんですけども、その内容が分かりやすいので、親の助けにもなるのかなと思って。ちょっと親の意見で申し訳ないですけども、そこがこの教科書いいなと思いました。

森崎委員

私も第一候補が東京書籍と光村図書です。東京書籍のほうは、1年時に焦点を置いたのですが、読む・書く・話す・聞く・書く・読む・書くという、この進め方がとても丁寧で、スモールステップで進められているということが一つです。それからICT機器の活用が、東京書籍だけがどの教科書もそうですが、ICTのグループを組んでおられていて、それで検討されているということ、効果的な動画も使われていました。

それから光村図書のほうは、先ほど質問できなかったのですが、問いを持つとうという、自分の考えや思いを持つことから始められてます。光村図書はどちらかというところと聞く話すに重点を置いているかなと思いました。答申では1年では聞く話す、2年生から4年生までではグループ活動から発表形式の活動、5年生から6年生ではグループからスピーチ形式へとつながるように丁寧に構成されているということでした。以上のことから、子供の主体的な活動を大切にしているのではないかなと思いました。どちらか1位は付けられずに、両方とも候補で考えておりました。以上です。

阿形教育長

皆様のご意見を聞いておりますと、光村図書と東京書籍、この2社に絞ったらどうかというご意見ですが、そのような形でよろしいでしょうか。

それでは本日は東京書籍と光村図書の2社に一度絞らせていただいて、次回の審議に入っていきたいと思っておりますので、また先生方のほうで2社の教科書について見ていただいて、どちらの教科書のほうが本市の子供たちに適切なのかということで、次回で採択していきたくと思っておりますが、それでよろしいでしょうか。

委員一同

はい。

保健

竹内教育研究所長

保健の答申及び答申資料のご説明をいただきます。保健は、東京書籍、大日本図書、大修館書店、文教社、光文書院、Gakkenになります。委員のみなさまは、お手元の答申資料をご覧ください。答申は湯川選定委員にお願いいたします。それでは、教育長よろしくお願いたします。

阿形教育長

湯川選定委員、保健の答申及び答申資料のご説明を、東京書籍から順にお願いいたします。

湯川選定委員

選定委員の湯川です。保健の答申をいたします。

保健の教科書は6社でございます。選定委員会として調査・審議し、まとめた内容を1社ずつ申し上げます。初めに、東京書籍です。

(東京書籍)

答申

学習活動の展開（「気づく・見つける」「調べる・解決する」「深める・伝える」「まとめる・生かす」）が、ステップを踏みながら学習課題を解決できるように工夫されている。さらに、学習内容に関連した資料を各項末に掲載し、学習を家庭や地域に広げていくことができる教科書である。
--

各項に「ステップ1」～「ステップ4」の活動を設定し、活動を通じて思考力・判断力・表現力を育成することができるようにしています。3、4年の13ページをご覧ください。「ステップ1」では、児童の生活場面を想起させる写真をダイナミックに配置し、身近な例から健康課題を見付けることができるように工夫されています。14ページをご覧ください。冒頭で「学習の課題」を明示し、「ステップ1」の活動を行った後で、「学習の課題」を確認することで、「学習の課題」をより自分のこととして捉えら

れるようにしています。「ステップ4」では、学習を踏まえて自分の生活を見直す活動を設け、学習したことを実生活で生かせるようにしています。児童が思考・判断・表現したことを書くための記入スペースが適切な箇所に設けられています。各項末に、学習内容に関連した情報を資料として掲載し、児童が知りたい情報を豊富に掲載しています。「マタニティマーク」「ハートプラスマーク」「ヘルプマーク」などの支え合いのためのマークや、こころの健康・いじめ、感染症予防、コンピュータと健康、ネット犯罪などが紹介されており、現代的な課題について配慮されています。

次に大日本図書です。

(大日本図書)

答申

児童の興味・関心を引き出し、スムーズに学習に入ることができるように工夫されている。また、学習の流れ（「つかもう」「話し合おう」「生かそう」）が明示されていて、「主体的・対話的で深い学び」が実現できる教科書である。

全ての単元で自らの課題を発見し、主体的に取り組み、資料から読み取る、友達と話し合うなど、対話を通して思考を広げて深めていく活動を通して、深い学びが実現できるように配慮されています。3、4年生の25ページをご覧ください。単元とびらに、3年生では簡単なゲームを掲載し、児童が学習の課題に気づき、身の回りの生活に関係のあることだと知り、4年生では手形を比べて体の発育を実感できるようにされていて、学習への意欲付けが図られています。26ページをご覧ください。導入の活動「つかもう」では、児童に身近な題材を取り上げることで主体的に学習に取り組めるようにしています。また、「考えよう」「話し合おう」「調べよう」などの活動の中で、グループ活動等、多様な活動を促す構成になっています。随所に「鉛筆マーク」があり、課題に対してや学習したことを活用して、自分の考えや感じたことなどを記載できるようにしています。家庭や地域において保健で学習したことを活用できるように「家・地域でほけん」を設け、さらに、「もっと知りたい」や「ミニちしき」などで学びを広げ深めることができるようにしています。巻末資料「はってん」ではSDGsと保健との関わりを示し、持続可能な社会の担い手の育成を目指しています。

次に大修館書店です。

(大修館書店)

答申

3ステップのシンプルな学習過程で構成しているため、学習の流れが分かりやすく、児童が主体的に学習を進められる。また、友達と話し合い、互いの考えを共有する対話的な活動を豊富に用意しているので、思考力・判断力・表現力を育成できる教科書である。

小学校学習指導要領体育科の目標を踏まえて、保健の見方・考え方を働かせて、課題を見付け、その解決を進める学習過程となるように紙面が構成されています。3、4年の10ページをご覧ください。キャラクターとの対話を通して健康の大切さや健康についての考え方に触れることで、主体的な学びをスタートさせることができるようにしています。学習目標の達成のために、「課題をつかもう」→「話し

合おう」「考えよう」「調べよう」→「生かそう・伝えよう」の3ステップとなっています。各時間の学習課題を「きょうの課題」として示し、学習すべき内容を明確にしています。また、学習活動の中に「話し合おう」「考えよう」という協働学習の働きかけがされていて、他者との対話を通して自分の考えを広げたり深めたりできるようにしています。毎時間の学習の最後に設けた「まとめ 生かそう・伝えよう」では、自分の生活を見直すなどして自己の課題を修正できる活動を適宜設定しています。「生活の中のほけんをさがそう!」「なぜほけんを学ぶのかな?」では、生活の中にある健康や安全に目を向けることで、健やかな身体を養うことの重要性について、理解できるようにしています。また、「ほけんの学び方」では、友達の考えを尊重し、グループで協力しながら取り組む学習のポイントを説明し、自他の敬愛と協力を重んずる態度を育成することができるようにしています。

次に文教社です。

(文教社)

答申

各章のとびらで、イメージしやすい写真や説明を配置し、スムーズに学習を開始できるようにしている。また、キャラクターの吹き出しを多く取り入れ、学習内容や学習活動が分かりやすく、児童が興味をもって主体的に学習に取り組むことができる教科書である。

3、4年の20ページをご覧ください。単元の初めには、学習の見通しをもって学習に入れるように、児童にとって分かりやすく、馴染みがあってイメージしやすい場面を記載しています。22ページをご覧ください。各時間の初めに、男女の子供キャラクターが会話しながら学習を進めることによって、協力が大切であることを意識させ、自分の課題として考えることができるようにしています。保健の先生、警察官などの大人のキャラクターを通して、基礎・基本を理解し、その内容を習得することができるようにするとともに、児童自身が自主的に創造的に学習しようとする意欲がいつそう高まるようにしています。課題について考えたことを全体やグループで深めていく活動よりも、個人思考で完結する構成の単元が多くなっています。単元の終わりに、「もう一歩先の自分へ」として、記述する欄を設け、思考力・判断力・表現力を自然と身に付けることができるよう工夫しています。「Episode」「もっと考えよう課」コーナーを設け、学習内容に深みを持たせています。5、6年生では、自然災害への対処を自助・共助・公助の観点から理解し、より実践的な行動を取るものの大切さを意識させています。37ページをご覧ください。章末には、「宣言しよう!」として、宣言を記載するページを設け、学習したこと、理解したことを踏まえ、その過程を自分や友達と考え、伝え合うことでこれからの生活や学習に生かせる工夫をしています。

次に光文書院です。

(光文書院)

答申

1 時間を見開きの 2 ページで学習することを基本とし、「導入」「学習課題」「学習活動」「まとめ」「活用」を、学習の流れに沿って配置し、学習の流れが一目で分かるように工夫している。また、言語活動の充実を図るために、話し合い活動や記述する活動を多く取り入れ、自分の考えを広げたり、深めたりしていくことができる教科書である。

意欲的で自発的な学びにつながるように「巻頭特集ページ」があり、保健の学習内容が身近に感じられるように、人気のスポーツ選手やクリエイターのメッセージが掲載されています。また、「学習の進め方を知ろう」のページで、学習の進め方や課題解決学習において大切にしたいことを確認できるようにしています。各章ごとのとびらに学習内容のイメージがつかめる漫画を掲載し、児童の学習意欲や学びに向かう力を促進する工夫をしています。3、4年の8ページをご覧ください。学習の導入として「見つけよう」を毎時間設け、児童がこれから学ぶ内容を自分のこととして捉えられるように、これまでの経験をもとに考えたり、自分の生活を振り返って健康課題に気付いたりできる活動を設定しています。11ページをご覧ください。各単元のまとめとなる基礎的・基本的事項は文頭に★マークを付けて示したほか、大事な用語や文は太字で目立たせ、目に入りやすくしています。各単元末の「学んだことを生かそう」で、学習内容を自分の生活に生かす視点を用意することで、児童が自分ごととして学習内容を活用できる構成にしています。「話し合おう」という活動や「学んだことを生かそう」の項目で他者に伝える活動を提示することで、対話的な学習となるよう促しています。「広げよう 深めよう」や各単元に設定されたデジタル資料で、児童が興味・関心に沿って学習内容について深く学べるようにしています。

次に Gakken です。

(Gakken)

答申

各章のとびらで、大きな写真や絵を取り入れるとともに、「学習の進め方」と「学習の課題」を明示している。また、各時間を見開きの2ページで構成し、学習の流れが分かりやすく、児童が親しみを持って主体的に学習に取り組むことができる教科書である。

冒頭に健康と夢との関わりを明示し、保健学習への興味・関心を高めるようにしている。続いて、身近なことを中心とした保健の学習や健康への実践が、周りの人や世界中の人の健康につながっていることを見渡せるようにしています。3、4年生の8ページをご覧ください。全ての時間において、1ページ単位の三つのピースを完成させる形式で構成しています。「①自分で考える」→「②友達やみんなと考える」→「③身につけたことを生かす」という決まった学習の流れを繰り返すことで、思考力・判断力・表現力を身に付けることができるようになっていきます。1単位時間見開きの2ページを基本構成とし、「学習の進め方」を最初に明示するなど、見通しをもって学習できるようにしています。各章のとびらで、学習内容の全体像を示し、各時間の最初のページに「学習の課題」を設け、その時間で学習する課題を明示しています。生活との結びつきを感じられるように、実験や体験的な活動を重視し、随所に取り入れています。17ページをご覧ください。「かがくの目」を随所に設け、興味・関心を高め、科学的な理解に結び付けられるよう、「見えないものを見える化」した資料を掲載しています。また、「ほけんのはこ」を各時間の最後に設け、より学びを広げたり、深めたりすることができるようにしています。

「もっと知りたい・調べたい」で、児童の探究心に応え、学習したことを広げたり、深めたりできるように詳しい資料を豊富に掲載しています。5、6年生「心の健康」では、スクールカウンセラーへの相談が4例載せられており、不安や悩みを抱えたときはスクールカウンセラーに相談できるということを具体的にするきっかけになっています。最後に、各社ともユニバーサルデザインに配慮して編集されています。以上で説明を終わります。

阿形教育長

それではご報告いただいた内容について、質問等ございましたら、お願いしたいと思います。

藤本委員

3年生、4年生2学年で8時間程度あったんですね。それが5年生、6年生2年間で16時間程度という形に学習指導要領なっていると思うんですけど、今、文教社では4ページから6ページ1単位時間で行って、後のところで説明していただいたところでは、見開きの2ページを1単位時間で扱うとなると、計算すると8時間、4時間では3年生も4年生も教科書が終わらない状況になる。こういったところではどういうふうに扱えばいいのか教えていただけたらありがたいです。

湯川選定委員

おそらく4ページ見開きの2ページの形をとるが、6ページのときもあります。それはおそらく家庭学習でこの本を持って帰ってもう少し詳しく見たい、調べたいときの資料も載せているということだと思います。1時間で6ページは難しい。やはり、基本は4ページ見開きの2ページという形で構成されています。

阿形教育長

ありがとうございます。ほか、いかがでしょうか。特にご質問ございませんか。それでは、湯川委員どうもありがとうございました。ご退出いただきます。

それでは事務局に伺いますが、展示会において保健について何かご意見ありましたでしょうか。

竹内教育研究所長

保健については1件のご意見がありました。先ほどの「アンケート結果」の9ページです。

阿形教育長

わかりました。それでは、保健の審議に入りたいと思います。保健につきましては6社ございまして、2冊ずつになっています。できれば2社に絞りたいのですが、無理であれば3社でも結構です。それぞれ委員のみなさまが教科書をご覧になって思われたこととか、調べて、いろんなお考えがあると思いますので、お出しいただけたらと思います。ご審議よろしく申し上げます。

波床委員

藤本委員の選定委員へのご質問にもありましたけれども、やはり時間的な問題もあつたりして、保健の科目については、重要な点をシンプルに教えていくということがどうしても必要になるのではないかと

などと思います。

その意味では、大修館書店のものがやはり非常にシンプルで、かつ教えやすいのではないかなと思いますし、それから自宅学習が仮に期待されているのだとしたら、資料というものも大修館書店のものは充実しておりますので、その意味で大修館書店を第1順位に推薦を、私としてはさせていただきたいと思っています。その他の第2順位につきましては、なかなか難しいところがあって、どれを第2順位にしたらいのかというのは迷うところで、はっきりとそこまでちょっと検討できていないというのが率直な現在の状況です。以上です。

阿形教育長

指導する時間数自体が保健は少ないので、先ほどから出ていますように、やはり内容をどう子供に指導するか、どの教科書がより効果的かということ、そういうことも視点になるかと思います。限られた時間数の指導になりますので。

藤本委員

私もやはり6ページ全てを1時間、45分でするのは難しいということを思っております。6社ともページ数は一つも変わらない状況になっております。そうした中で、先ほど私も湯川選定委員に尋ねたところで、資料として後で確認するとか、家に持ち帰って話をするとか、そういった小さいときに「どうやった?」とか、そういうようなところを聞くという「家庭での使用」というのも考えましたところ、私はやはり資料と内容が良いのが、東京書籍と大修館書店になるのではないかなというところで、もし2社ということになりましたら、東京書籍と大修館書店が、そういった意味で資料の豊富さ、それから配置というのも考えられた良い内容ではないかなと思っております。以上です。

阿形教育長

例えば大修館書店、それから東京書籍、大修館書店は波床委員がおっしゃっているのですが、できるだけシンプルに、でもシンプルではないものについては資料がより効果的なもの、家で自分で学習したりするときに、いかに効果的かとかそういったご意見だったと思います。

森崎委員

私も二つの候補で、東京書籍と大修館書店を候補にあげたいと思っております。

東京書籍のほうは、3、4年生では保健の学習がとてもわかりやすい。

答申では「課題を見つけ、解決に向けた学習過程を通して生涯にわたって心身の健康増進するための資質能力を育成できるようにしている」とありますが、32ページの手根骨の関係であったり、33ページの思春期の内容であったりは、とても丁寧に書かれています。それから、小学校5、6年生の話し合い、主体的な学びとして、興味あるもので、のめり込むものである必要性があって、身近なことを課題として捉えているということ。それからICT機器もふんだんに使ってあって、36ページの台風や竜巻のところ、それから受動喫煙の動画辺りはとても興味深いものでした。実験などの写真も大きくて見やすく、各項目のはじめにSDGsの関連がありました。大修館書店はやはり、小学3、4年生は32、33ページの体における変化であったり、35ページの骨の成長と変化であったり、38ページの運動効果と骨との関係であったり、5、6年生では「体育の窓」で運動とスポーツの経験とところの

発達、大修館書店ならではの内容だと思います。

石元委員

私も大修館書店がいいなと思って見せてもらったんですけども、随所に写真が、藤井聡太さんとか羽生結弦さんとか、子供たちの憧れの存在の人が載っていて、たぶん子供たちが、すぐにパッと見て読みやすい本になっているのかなと思います。また、熱中症の対策とか、交通事故の対策とか、あと家に帰ってからも親子で一緒に読んで、話して、勉強になる本だなと思って、とても良い教科書だなと思いました。

阿形教育長

ありがとうございます。大修館書店がみなさんの評価が高いです。あと、東京書籍が出ております。

私も大修館書店が上手く作られているなと思いましたし、あと、光文書院についても、パターンが割と決まっています。それから、最初に漫画を使って子供の興味・関心を引くような工夫をされているので、光文書院も割と良いのかなと、先ほど出たようなスポーツ選手とかいろんな方のメッセージというものもございますので。

どうでしょうか。2社でいくか3社でいくかというところですけども、大修館書店はみなさんおっしゃっているので、大修館書店を残す。それから、東京書籍と光文書院をどうするかですけども、6社ですので、3社くらい残しておいてもと私個人的には思っているんですけども、いかがでしょうか。

波床委員

はい。

藤本委員

はい。結構です。

阿形教育長

そうしましたら、保健につきましては、大修館書店、それから東京書籍、そして光文書院、この3社を残させていただいて、次回でこの中から1社を採択したいと考えておりますので、またそれぞれの委員の方々に中身について少しまた研究していただきたいと思います。それでよろしいでしょうか。

委員一同

はい。

道徳

竹内教育研究所長

道徳の答申及び答申資料のご説明をいただきます。道徳は、東京書籍、教育出版、光村図書、日本文教出版、光文書院、Gakkenです。委員のみなさまは、お手元の答申資料をご覧ください。答申は三宅選定委員にお願いいたします。それでは、教育長よろしくお願いたします。

阿形教育長

三宅選定委員、道徳の答申及び答申資料のご説明を、東京書籍から順にお願いいたします。

三宅選定委員

選定委員の三宅です。道徳の答申をいたします。道徳は6社ございます。選定委員会として調査・審議し、まとめた内容を1社ずつ申し上げます。

(東京書籍)

答申

各学年の教科書では、自己を見つめ、他人を思い、社会と関わり、生命や自然を尊ぶことができる「心の力」を育む構成となっている。学習の流れを導入教材で学習の進め方と授業の様子を具体的に示すことで、授業にスムーズに接続することができる教科書である。また、読み物教材とは異なった形式の教材を開発し、様々な活動の中で議論させることを促し、児童の多様な考えを引き出すよう工夫されている。

現代的な課題に取り組む五つのユニットにより、道徳的価値に迫ることを通して「いじめをしない、許さない心」などを育て、「心の力持ち」になる工夫がされています。各教材とも、冒頭に教材のタイトルとともに学習のテーマ、いわゆる主題を示し、児童が何を学習するかという見通しをもって学習に臨めるよう工夫されています。教材末に、ねらいに迫るための中心発問を示す「考えよう◎」と学んだことを今後の生き方に生かしていくための発問例「考えよう○」の二つの発問例が示されています。児童にとっては自ら考えを進めやすく、教師にとっても柔軟に授業展開を考えることができるよう工夫されています。巻末には「考えるためのツール」(心のメーター、心情スケール、心の地図)が3例載っている。自分の考えを可視化できる「心のメーター」等を活用することで、友達のと比較し、自分の心を深く見つめることができるよう工夫されています。防災教育として、東日本大震災、2、4、5年と鹿児島豪雨、6年が1教材ずつ、平和学習としては、6年「東京大空襲の中で」が掲載されています。本県の教材は掲載されていません。

(教育出版)

答申

道徳で学習する課題の中から、「いじめをなくす」「生命を尊重する」「情報と向き合う」など、重点テーマとして位置付けている。教材ごとに、いくつかの発問で構成した「学びの手引き」を設け、児童に問題解決的な学習や体験的な学習を促すことにより、主体的に考え、議論しながら道徳的価値についての学びを深められるよう工夫された教科書である。

教材の冒頭にその教材で扱う内容項目をわかりやすい言葉で示した学習のテーマとキャラクターによる導入で活用できる言葉「導入の問いかけ」があり、教材末に設けた「考えよう」「やってみよう」「深めよう」「つなげよう」で構成された「学びの手引き」により、問題解決的な学習や体験的な学習を促し、道徳的な課題について多面的・多角的に考えることができるよう工夫されています。「考えよう」では、

授業の展開段階で活用できる発問例が二つ設けられています。その中で、道徳的価値に深くかかわる中心発問は、☆マークをつけ、「特に考えてほしい」発問としています。本県の教材は、5年「稲むらの火」。防災教育として、東日本大震災のことが2、3、4、6年に1教材ずつ入っています。

(光村図書)

答申

全学年とも、年間を三つのまとまりに分け、内容項目A～Dの四つの視点が、まとまりごとに重点を置いて配置されている。現代的な課題については、「いじめ問題」「情報モラル」「環境」「共生」の四つのテーマを取り上げ、二つの教材とコラムを組み合わせた「ユニット」を形成して位置付けられ、確かな学習経験となるよう配置された教科書である。

全学年の教材の冒頭には、教材タイトルとともに「主題」とキャラクターによる児童への「呼びかけの言葉」が示され、児童の経験や考えを引き出すことで、主体的に学習に取り組むことができるよう配置されています。全学年を通して、教材末の「学習のてびき」には「考えよう・話し合おう」が設けられ、教材を通して何を学ぶか意識できるよう太字で「めあて」が示されている。その上で、自分や日常生活に結び付けたり、問題を解決するためにどうすればよいのかを考えたりする「発問例」が二つから三つ置かれ、一つには◎がつけられています。また、「つなげよう」では、教科で学習する内容との関連付けや関連する図書の紹介などが示されています。全学年を通して、体験的な学習「演じて考えよう」が設けられており、役割演技を通して、児童が実感を持って道徳的価値について考えが深められるように工夫されています。防災教育として、阪神淡路大震災、4、5、6年と東日本大震災、3、5年が1教材ずつ掲載されています。本県に関連する教材は、6年「エルトゥール号ー友好の始まり」が掲載されています。

(日本文教出版)

答申

本冊と別冊「道徳ノート」の2分冊構成である。重要テーマ「いじめの防止」について、いじめに関する複数の教材を「心のベンチ」と組み合わせ「人との関わり」としてユニット化することで、互いを理解し、認め合える人間関係を育むことができる教科書である。和歌山県の郷土資料が多い。別冊として、教材ごとに作成された「道徳ノート」には、その巻頭において使い方が示され、授業中の書く活動や振り返りに活用できる。

冒頭には「主題名」を明示し、児童が道徳的価値と関連付けて思考を進めることができるように配慮されています。また、「あらすじ」と「登場人物の絵と名前」が掲載されているので、児童が自我関与して考えやすい、また挿絵も鮮明で、効果的で、児童の思考を進める手助けになっています。一つの教材に「導入の発問例」「考えてみよう」という思いや考えを問う中心発問例、「見つめよう・生かそう」の三つの発問例が簡潔に示されているため、教師は指導構想に柔軟に生かすことができます。児童は自ら考えを進められるよう工夫されています。問題解決的な学習や体験的な学習に適している教材には、「ぐっと深める」が新設され、主体的・対話的で深い学びの手立てとして、役割演技や動作化を写真で具体

的に示されており、授業展開で参考にできる一つとなっています。防災教育として、阪神淡路大震災、3、4、5年と東日本大震災2、5年、6年が一つずつ掲載されています。また、平和学習として4年「かわいそうなぞう」、5年「母さんの歌」、6年心のベンチ「平和に向けて」があります。本県の教材としては、3年「やさしさのバトン」、4年「お父さんのじまんーいなむらの火祭りー」6年「エルトゥール号ー日本とトルコのつながりー」が掲載されている。

(光文書院)

答申

各教材の冒頭に「導入」、末尾に「考えよう」(展開)「まとめよう」(終末)「ひろげよう」(発展)を設置し、1時間の授業の目的や流れを明確に示している。児童の思いや考えが素直に引き出されるよう、「みんなでやってみよう!」「へこんでも立ち直る」といった体験的な活動を取り入れている。児童が経験や生活の中から、「問い」をもって道徳的価値を理解し、実生活へ意欲的に生かそうとできるよう配慮された教科書である。

各学年に3主題ある重点主題の中でも、「いじめを生まない心」「命をかがやかせる」については、6年間の見通しをもって取り組む工夫がされています。問題解決的な学習を企図し、教材の冒頭には教材タイトルとともに、「主題」と導入で活用できる「問い」を設定し、目的意識を明確にした上で学習に取り組めるよう工夫されています。教材末には「まとめよう」として、学習した内容を振り返る活動が示されています。また、「ひろげよう」として、学んだことを他教科や学校での活動、家庭生活、地域社会につながりをもたせていくポイントや言語活動との関連も踏まえ、教材と関連する本を読める読書活動や、あるいは考えたことを書いて言語化する活動が示されています。巻末には、児童に贈る言葉「ことばのたからもの」で相田みつをの書が掲載されています。防災教育として、東日本大震災、3、4、5、6年と熊本地震、6年が1教材ずつ掲載されています。平和学習は3年「命どうたから」、6年「羽ばたけ、折り鶴」が掲載されています。本県の教材としては、5年で那智勝浦町のシンボルマーク、6年で濱口梧陵が紹介されています。

(Gakken)

答申

児童が主体的に課題を発見し、多様な考え方や感じ方に触れながら自己の考えを深めていけるよう、教材の文章と挿絵・写真を中心にすっきりと工夫されている。各学年とも、内容項目の異なる2教材を連続して学ぶ「いのち」「多様性」「キャリア」の三つのユニット教材として組み合わせることで、多様な学びの展開ができる教科書である。全学年「命の教育」を最重点テーマとして、複数教材を連続して学習することで、広い観点で多面的・多角的に深く学ぶことができる構成になっている。

教材冒頭には、内容項目の視点と教材タイトルを記載しています。また、児童の「問い」、問題意識を大切にするため、本文中に主題名を記載しない構成・展開になっています。教材末に、「考えよう」のコーナーを設け、自己を見つめるきっかけとなる投げかけや行為についての考えや理由を問う二つの発問例が示されています。教師にとっては柔軟に授業構想を考えやすく、児童にとっても自ら思考できるよ

う配慮されています。道徳的価値について多面的・多角的に学べるよう、「深めよう」が教材の随所にあつて、深く価値に迫っていくための手立てとして取り上げられています。各学年とも、自分につなげて考え体験できるよう、学び方のページ「心のパスポート」において、役割演技等体験的な活動が図られるよう工夫されています。防災教育として、阪神淡路大震災、3、4年と3年での熊本地震が一つずつ、東日本大震災が二つ、新潟中越地震が一つ掲載されています。本県の教材は掲載されていません。どの社もデジタルコンテンツが多彩で、教師も児童も活用することで主体的な学びへとつながっていく配慮はどの社もされています。以上で、道徳の説明を終わります。

阿形教育長

ありがとうございました。それでは6社の報告をいただきましたが、何かご質問ありましたら。

森崎委員

役割演技と言っていましたが、相手の立場に立って物事を考える効果があるのでしょうか。

三宅選定委員

授業の中心発問の後、子供たちが実際に自分事として考えられるような手立てとして登場人物になりきって考えることで、どのような価値を見出せるか、子供たちの考えを深める手立てとして、役割演技は特に低学年では重要で、高学年でももちろん行う。教材によっては活用可能です。

波床委員

最近の道徳問題として一つは新型コロナ感染症に伴う差別問題です。また、最近では、社会の中で強く意識されている。LGBTQの問題があるわけで、最近の道徳問題として取り上げるべきだと社会の中で認識されていると思います。今回の教科書の中でそれらの意識がある教科書会社というのはどれでしょうか。

三宅選定委員

コロナ関連の教材が2社ありました。LGBTについても問題意識をもって子供たちに考えさせながら、個性の伸長等であるような内容を多く取り上げた教材があります。どの社というのは、今はわかりません。

波床委員

各社とも共通認識となっていないということは、あるとは思いますが、小学生の段階でこのような問題をどうやってどのような形で扱ったらいいのか難しいところがあるのだと思いますが、その点についてあまり意識がなくてこれから先の問題だと考えている教科書が多いのであれば、違うのではないかと私自身は思います。このようなことを特別に意識して考えている教科書会社はあまりないですか。

三宅選定委員

私も全て見たのですが、いち早くコロナについて取り上げた教材もコラムの中にありましたし、教材でなくても、差別意識や偏見に対する、それについて考えさせるコラムとして取り上げられていたり、

男女平等、LGBT、個性の伸長など取り上げたような内容は大事にされていると思います。情報モラルについてもどの社もどの学年でも学べる配慮がありました。

藤本委員

道徳が昭和33年に生まれました。それからずっと長年領域的な扱いでやっと教科になった。特別な教科道徳になった一つに、大きなところにいじめ問題があると思います。この6社見せていただいて、あるところは1学期はいじめ問題、2学期はそれに関連した内容、3学期にも内容に踏み込んだものがあります。そういう重点化されたところと、ユニットとして一つ塊があったと思うが、そういった意味では選定委員としてどのように考えていますか。

三宅選定委員

大津市で起こったいじめの自殺問題が大きなきっかけで、教科化された道徳。特別な教科になったわけです。そんな中で、どの社もいじめを大きく捉えた教材はあります。直接的にいじめと関わる教材もありますが、付随して例えば命の尊重とか友情信頼、思いやりをからめながらユニット化されて、いじめを大きく取り上げて、いじめの大きな塊単元として子供たちに考えさせるというのは、どの教科書も今使われているものもそうですが、深く大事にいじめと生命尊重とを大きくつなげて、深く子供たちに考えさせる教材が多く取り上げられていると思いました。

阿形教育長

ありがとうございます。ほかにありますか。ないようですので三宅選定委員ありがとうございました。審議に入る前に、展示会で出た意見はありましたか。

竹内教育研究所長

道徳については2件ご意見がありました。アンケート結果の10ページと16ページが道徳のご意見です。

阿形教育長

退職された方と現職の方みたいです。それでは道徳の審議に入りたいと思います。6社ありますので、できたら2社ないし3社に絞りたいと思います。それでは思われていること、感想をいただきたいと思います。

森崎委員

第一候補として二つあげさせていただきます。一つは光村図書です。自分のこと相手のこと、いのち、自然、冒頭に思ったことを話す、話していることを聞く、友達の話聞く、どんな考えかなと理解しようとするなど、とても細やかに書かれています。2年生では、心を通わず、友達と話し合う。34ページ、心を通わせて仲良くするために自分のことを伝えよう。3年生ではよいクラスにするために。5、6年生では相手の気持ちを考えて言葉を使う、話し合う。「命の大切さ」「いのちのうた」「命のつながり」とどれをとってもいいと思います。徹底して心を通わず方法や手段、コツをきめ細かに年齢に合わせて取り上げているのがいいなと思いました。

もう一つが東京書籍です。写真がとても美しいのと、動画が効果的に出されています。また「される側が強い力をもってだめといえるようにしよう。」それから、3年生では「嫌だと思ったら、思い切って嫌だと伝えるように。」4年生になってからは、「第三者の立場から、一緒になっては笑わない、いじめNOの空気を作る」、そして、5年生では「いじめ側になっている自分、している立場から。」「自分が拒否する」、「周囲の人の立場になる」、「いじめ側になる自分がいる。」というようにいくつかの角度からいじめについて取り組んでいる。そして最終的には社会的ルールとしていじめをどのように位置付けているのか、どういうものかを考えさせています。このような点から一番候補に二つです。

二番目候補にも二つあります。2位の候補としては光文書院です。自然のこと、みんなのこと。身近なこと。自分のこと。話がすごく多くて、全て4ページで終わっています。そして、2年生のいじめを生まないこと、もやもやしている気持ちをどうやって解決するか。先ほど、答申にもありましたように、へこんでいる気持ちを立ち直らせる。心のキャッチボール。色々な方法で、最終的には生きるということを考えさせるようになっています。

2位候補にもう一つありまして、道徳ノートがある日本文教出版です。1年から6年までの「心のベンチ」というのがとてもいいなと思いました。伸直りしたとき、けんかをしたときの気持ち。1年生にはわかりやすいものになっています。命ということで写真がとてもきれいで命の大切さを感じさせることができます。2年生になってからは自分を守る、大切なものを演じ合ったりして考えさせています。先ほど質問させていただいて、ロールプレイが効果的だとお答えがあったのですが、やらせ的事になるのではと不安も若干残っていますが、やはり3年になっても「心のベンチ」、心の声に耳を傾けて、されて嬉しいこと、嫌なことも「心のベンチ」がとても効いているように思いました。最後に94歳の小学生の方の教材も印象に残っています。1位に二つ、2位に二つで、四つ挙げさせていただきました。

阿形教育長

光村図書、東京書籍、光文書院、日本文教出版がいいなということですが、ほか、いかがですか。

石元委員

二ついいなと思ったのがあります。光村図書と日本文教出版がいいと思っていて、光村図書は、どの学年もヨシタケシンスケさんの漫画や絵と文字が書かれてあって、どの子供も大好きでみんな知っている。子供たちが喜んで見るだろうなと。ヨシタケシンスケさんの語りかける「なんだろうなんだろう」とこれ本当にいつも絵本で語りかけるような言葉になっている。巻末学びの記録シール、幼稚園の子が喜ぶだろうと思うのですが、低学年の子も歯磨きシールなど、シールを貼って達成感を感じたり、最後1年間、3学期とか1学期とかシールを貼っていくことによって最後どんな気になったか、達成感を得られていいなと思いました。

日本文教出版は、さっき委員もおっしゃっていたように、道徳ノートがすごくいいなと思っていて、先生から教わる受動的なのではなく、グループで話し合ってみる、自分で考えた気持ちとか思ったことをこのノートに、1年生はたくさん書くのが難しいかと思うんですが、少しずつ自分の心の中の気持ちを文字にしてみるというのは時間がかかると思うんですけど、授業も時間がかかって先生も大変かなと思いますが、とてもいい教科書だと思いました。

波床委員

私は、第1順位が日本文教出版で、第2順位が東京書籍でいいのかなと思うのですが、光村図書とか教育出版もいいので、第2順位についてはそれほどどれという自信がないですけど、第1順位は日本文教出版だと思います。

道徳の力の付け方として、やはり同じクラスと同級生と意見を交換して、そんなふうを考えているのかという気が非常に大事なんじゃないかなと思っておりまして、そういう工夫ができるのが日本文教出版だと思います。それを道徳ノートにも反映できるのが良いと思います。グループ討論を意図した教科書であるというのが、第一に日本文教出版を推薦する理由です。

それから第二に、先ほど選定委員に対する藤本委員からのご質問にもあったように、いじめ問題について比重を軽くするのはやはりまだまだ早いといいますか、これからさらに問題を掘り下げていかなければいけない時代だと思いますので、そういった道徳教材が充実しているのは、日本文教出版だと思っております。やはり、いじめの3層構造4層構造みたいなものというのは、しっかり生徒たちに自覚させて、自分が直接いじめの加害者だけでなく、いじめという局面に立ち会ったときに傍観しているだけでも自分の心に残って後悔することが出てくるんだよというのは教えないといけないことで、もっと言えば、行動におこさないといけないんだ。見ていて目をつむっていていいのかと、それでいいのかと議論させる必要があると思います。そういうふうなグループ討論が関わってくるが、第一の点に関連するのですが、日本文教出版がいいと思うところです。日本文教出版でやや気になるのが、命の大切さがややこの教科書が弱いと感じさせるところがありまして、やはり何もかも命の大切さから出発すると考えると、その辺りを先生が何らかの形で補充しないといけないのではないかと思います。以上が、日本文教出版を第1順位として推す理由です。

藤本委員

私も日本文教出版が第1位です。やはりいじめ問題、生命の大切さ。いじめ問題が重大と考えると、多角的・多面的に扱ってるのは日本文教出版だと思います。それと、授業をするにおいて、今若い先生方は楽しくトライしてくださっているので、大変いいなと見せていただく場面が多いのですが、板書の仕方、工夫してロールプレイもいいなと思っています。私のあげるところは、道徳的価値を考えさせる上で、中心発問というのは大切であると。その中心発問に付随するイラスト、それから写真がものすごく大切だと思うのですが、そういった意味では、日本文教出版の中心発問に対するイラスト写真がすばらしいと思っています。それからもう一つ、3年生163ページ「やさしさのバトン」が新たに掲載されたわけなんです。市役所職員山崎さんの内容が書かれていて、関係しているのが附属小学校のことであるが、和歌山県内の身近なところがたくさん載っているというのが、我々の身近なところで教材があるというのがいいかなと思いました。そういったことで日本文教出版を推させていただきます。

阿形教育長

ありがとうございます。ただいま名前が挙がっている会社が、日本文教出版、光村図書、東京書籍、光文書院となっています。私は、日本文教出版。今、先生方がおっしゃったように、一つはいじめが教材数として多い。物語の登場人物で主要な人物が名前が一番最初に出ていて、考えやすいのではないかと。二つはノートがあって、書く。それを使ってやりやすいのではないかと、「やさしさのバトン」をはじめ、県下のものがあるというのは親しみをもって使いやすい。そういった面で日本文教出版がいい。

どうでしょう。日本文教出版、東京書籍、光文書院もあるのですが、三つくらいに絞りたいのです

が、日本文教出版はみなさんから良いという意見が出ているのですが、あと2社。回数的には光村図書、東京書籍が2回出ているので、もう少しご意見あればお願いします。ありませんか。

それでは、1位候補、2位候補という形で言っていた方もいらっしゃるのですが、日本文教出版、光村図書、東京書籍の3社でよろしいでしょうか。この3社を採択まで第一候補として残したいと思います。それではこれで道徳についてはよろしいでしょうか。

委員一同

はい。

地図

竹内教育研究所長

地図の答申及び答申資料のご説明をいただきます。地図は、東京書籍、帝国書院です。委員のみなさまは、お手元の答申資料をご覧ください。ご答申は市川選定委員にお願いいたします。それでは、教育長よろしくお願ひいたします。

阿形教育長

市川選定委員、地図の答申及び答申資料のご説明を、東京書籍から順にお願いいたします。

市川選定委員

選定委員の市川です。地図の答申をいたします。地図は2社ございます。選定委員会として調査・審議し、まとめた内容を1社ずつ申し上げます。

(東京書籍)

答申

イラストや写真が効果的に配置され、児童が興味・関心をもって活用できる教科書である。また、地図上の文字や記号、絵記号の大きさや色を工夫することで見やすい紙面になっている。学習者に見立てたキャラクターが随所に登場し、児童が楽しく学習することができるように工夫されている。

内容を具体的に説明いたします。まず、領土の問題です。16ページに択捉島を紹介し、別のページに尖閣諸島を紹介し、また別のページで竹島を紹介しています。日本固有の領土であり、不法に占領・占拠されていることが説明されています。97ページから99ページの折り込み3ページにわたり、日本の自然災害について写真と地図で記述しています。地震や津波の被害だけでなく、大きな被害があった水害、土砂災害、大雪等まで詳しく示し、児童の防災意識を高める工夫がされています。例えば29ページ近畿地方の地図を開いてみると、キャラクターの吹き出しの言葉が児童の学びのきっかけをつくり、また、クイズなどにより児童が主体的に学び進めることができるように工夫されています。また、地図上の地名を大きなはっきりした文字で、特産物も大きな絵で示し、児童にとって見やすく、読み取りやすい紙面になっています。紙の質もしっかりしていて、4年間の使用に耐えることができ、書き込みに対応できるというように工夫されています。以上が東京書籍です。

(帝国書院)

答申

初めて地図帳を手にした児童が興味・関心をもって活用できるように工夫された教科書である。また、土地の高低差を表す色使いや特産物を表す絵記号の大きさ、色を工夫することで、見やすい紙面になっている。情報量が豊富で地図に関連した資料等が多いため、様々な学習場面において補助資料として活用できる教科書である。

内容を具体的に説明いたします。まず、領土の問題です。31ページに北方領土、竹島、尖閣諸島について取り上げ、日本固有の領土であることや不法に占領・占拠されていることを記載しています。見開きで日本の領土について一目で分かるように表記されています。冒頭から12ページにわたり地図の使い方を丁寧に示しています。文字、図が大きく、3年生の児童が見やすく、親しみをもつことができる紙面づくりをしています。また、21ページから「広く見わたす地図」ということで、各県の名所、特産物、伝統行事等をイラストで示し、それぞれの県の特徴を大まかにつかむことができ、児童の興味・関心をひく工夫もしています。例えば45ページの近畿地方の地図を開いてみると、土地の高低差を表す色使いや土地利用を表す色使いを組み合わせ、その地域の特徴が一目でわかる工夫がされています。和歌山を見てみるとピンクで示された果樹園が多くなっていることがよくわかる表現になっています。109ページに年表と日本地図にページ数を示して、歴史学習の資料として地図帳を活用できるように工夫をしています。このような歴史関係の資料が随所にあります。地図としての活用だけでなく、資料集としても活用できるように豊富な資料が掲載されています。以上が帝国書院です。

阿形教育長

質問はございませんか。それでは、市川選定委員にはご退出いただきます。

地図の審議に入る前に事務局に伺います。教科書展示会において地図について意見はありましたか。

竹内教育研究所長

地図についてのご意見はございませんでした。

阿形教育長

それでは、地図の審議に入ります。委員お一人お一人がお調べくださったことや、お考えになったことをお出しいただき、ご審議ください。

森崎委員

帝国書院を推したいと思います。一番の特徴は、先ほどの特徴にもありました9ページから始まる、地図の約束、地図帳の使い方がとても詳しくて分かりやすいです。しかし、地方地図のところ、今近畿地方を見させていただいているのですが、東京書籍のほうが観光地などの詳しい図が入っていたり、例えば白浜のところにパンダが入っていたり、近畿地方の46、47ページ、アドベンチャーワールドのところにはパンダの絵が入ってあったり、伊根のところには舟屋のマークが入ってあったり、また世界地

図の見分け方のところでは、帝国書院ではヨーロッパ、アフリカが一緒に載っているのですが、東京書籍のほうは、ヨーロッパとアフリカは別々にというふうに、ほかのところでも同じようなところがございます。

地図だけのところを見ると、東京書籍のほうもいいのかと思います。地図の使い方等が詳しくあるということで、3年生からは良き学びになるであろうということで、帝国書院の方を候補として挙げたいと思います。

波床委員

だんだん私分からなくなっているのですが、地図というものが教科書の補助教材として、やはり土地とか海とかとの関係などで、どのような地形になっているのだろう。何がここにあるんだろう、川はどんなふうに流れているんだろう、というようなことがわかるのが地図だと思っておりまして、それに付加して歴史的な情報とか、あるいは特産品が書いてあるとか、そのようなことが本当に地図の本来的なあり方として求められているのだろうかという点がわかりません。

これまでは帝国書院のほうで、私がもう申し上げたような目的にどちらかというと、まだ準拠しているような気がしていると思っていたので、帝国書院のほうがいいなと思っていたのですが、今回帝国書院もかなり情報が多岐に渡っていて、何か見にくいと言いますか、地図を見たときに、このような高低差になっていたのか、あるいはこの平野はこういうふうな形になっているんだとか、そういうようなことがわかるのが地図じゃないかなと思っているものですから、迷いが生じているのですが、結論としては帝国書院のほうで、まだ私の目的からするとふさわしいのではないかなと思います。

藤本委員

私も前は帝国書院のほうで素晴らしいなと思ったのですが、今回帝国書院と東京書籍が近づいてきているというふうに感じました。東京書籍の53、54というところと、帝国書院の81、82、地球儀を扱った子供たちの作業で、距離を調べようとか、方位を調べようという、社会科でいう活動の場面が示されているのですが、この部分を見ても、かなり写真が分かりやすく子供たちの活動が写真で載っているのが東京書籍になっているわけなんです。そういった意味と、先ほど市川選定委員からもあったのですが、かなりこの紙質もものすごく良く4年間使えるものだというふうに発言されていたとも思うんですが、そういった意味で紙質も触ってみると、東京書籍のほうで上質なものを使っているのではないかなと思いました。

それと、内容的にこの地図2社とも同じような内容になってきているので、そういった意味で比べると、今回、私は東京書籍のほうを推したいなというふうに思っております。以上です。

石元委員

私は小さいときから使っていたのは帝国書院なので、見覚えあるなと思っていたら、みかんとか、こんなに地図帳って情報が必要だったのかなと感じています。逆に多すぎて、目がチカチカするなと思いつつながら見ていたのですが、見慣れているという面と、地図の最初に使い方、地図の約束事がしっかり分かりやすく書かれているという点と、歴史にも触れていて小学校の高学年に入ったときに、歴史の学習が始まると思うのですが、それにつながるような感じで触れているのも良い点だと思います。で

も どちらも本当によく似ていて、文字のフォント的には帝国書院のほうが目に優しく疲れにくい。見やすいのは帝国書院のほうかなと思いました。

阿形教育長

ありがとうございます。両方とも推されている先生方がいらっしゃいますが、まずはページ数が全く違う。帝国書院のほうがページ数が多くて、一つは、最初の使い方のところがあると思います。それから日本の周りの割と広く見渡す地図。例えばパンダでしたら、見渡す地図のアドベンチャーワールドでパンダがあったり、東京書籍の全体のもが入ってきているというところがあります。それから資料集的には、いろんな情報があるほうがいいのかと思いますので、私も帝国のほうが多いかなと思います。ただパッと見た感じの色合いとか、本来の地図を見たとき、例えば、平野といえば緑で、山の高く行けば茶色というのが普通なんですけども、そういった面を見たときに、東京書籍のほうが、目に入ってきてやすいような感じがします。東京書籍がかなり帝国書院に近づけてきているような気がします。

それからいろんな情報が多くて、例えば、果実の絵であるとか、歴史的なものとか、中学や高校になってくれば、そういうものは省かれている地図になっていくと思うんですけども、一番最初に初めて地図を使う3年生の子供たちというところを考えると、こういうイラスト的なものがあつたほうが見やすいのかなと思います。ですから、私は帝国書院のほうがいいのかなと思うんですけども、2社残すという形ではよろしいでしょうか。

藤本委員

私はどちらもいいと思って言っているので、皆さん4人が帝国書院だったら帝国書院でいいと思っています。

阿形教育長

私も、小学生が最初に使うのであれば資料集的にも、帝国書院かなと思っていたのですが、ただ、東京書籍もいろいろ工夫していて。特に地球儀のところなんかおっしゃったように、東京書籍のほうが分かりやすいような気がします。写真の使い方とか大きく使っているし、グリーンランドの面積などの違いもよく分かりますし、どうでしょうか。

森崎委員

紙質も全然違いますね。

波床委員

地図帳はどうしても社会科と一緒に使うと思うんですけども、仮に社会科が東京書籍になったら、地図帳も東京書籍に合わせた方がいいのか、そういう意味では地図については両方残しておいたほうが選択肢が残るということになるのではないのでしょうか。

阿形教育長

以前、東京書籍の社会科の教科書を使ったこともあります。その時に地図帳が東京書籍だったのかというのは調べないと分かりませんが、今、波床委員がおっしゃったようなこともありますので、より準

抛している可能性もあるので、2社残す形でよろしいでしょうか。

そうしましたら、2社東京書籍と帝国書院を残しておいて、またどちらが良いか調べて次回採択したいと思います。よろしいでしょうか。

委員一同

はい。

阿形教育長

それでは、これで審議を終了しますが、事務局から事務連絡等ありますか。

竹内教育研究所長

次回第2回採択審議についてご連絡申し上げます。第2回は、7月20日木曜日の定例教育委員会においてご審議をお願いします。ご審議いただく内容は、英語、家庭、算数です。よろしくをお願いします。

阿形教育長

それでは、本日はこれで閉会します。

第2回 教育委員会の教科用図書採択に係る会議

外国語、家庭、算数

会議録

1 日時

令和5年7月20日(木) 会議開始時刻18:25 会議終了時刻20:40

2 会場

教育文化センター2階 会議室

3 出席者

○教育委員

教育長	阿形 博司
教育長職務代行者	藤本 禎男
委員	森崎 陽子
委員	波床 昌則
委員	石元 和代

○教科用図書採択事務局

事務局次長	前北 博文	(学校教育部長)
事務担当課長	岩本 信哉	(学校支援課長)
	西谷 宣昭	(学校教育課長)
	竹内 圭	(教育研究所長)
事務局員	岩崎 朝蔵	(教育研究所専門教育員)

○選定委員

選定委員	尾上 利美
選定委員	岡部 美代恵
選定委員	梅本 優子

4 議事

阿形教育長

それでは、議案第17号について説明をお願いします。

前北事務局次長

これより、令和6年度に和歌山市立小学校及び義務教育学校前期課程で使用する教科用図書採択のための定例教育委員会 第2回採択審議をお願いいたしたく存じます。

本日も、本市の子供たちにとって最も適切な教科書を採択するためのご審議をお願いいたします。それでは、これより事務局説明を、教育研究所長 竹内に行かせます。

竹内教育研究所長

本日の採択会議日程についてご説明を申し上げます。これより、外国語、家庭、算数の順にご審議を

いただきます。ご答申は、選定委員から教科・種目ごとに、1社ずつ行っていただきます。その後、質疑応答のお時間を設けたいと存じます。質疑応答が済み次第、選定委員には退出していただきます。選定委員の退出後、教育委員の皆様にはご審議をお願いいたします。

外国語科

竹内教育研究所長

初めは、外国語科の答申及び答申資料のご説明をいただきます。外国語科は、東京書籍、開隆堂、三省堂、教育出版、光村図書、啓林館です。委員の皆様は、お手元の答申資料をご覧ください。ご答申は尾上選定委員をお願いいたします。それでは、教育長よろしくをお願いいたします。

阿形教育長

尾上選定委員、外国語科の答申及び答申資料のご説明を、東京書籍から順をお願いいたします。

尾上選定委員

選定委員の尾上です。外国語科の答申をいたします。外国語科は、6社ございます。選定委員会として調査・審議し、まとめた内容を、1社ずつ申し上げます。時間の限りがございますので、答申の後は、次の4点について特徴を述べます。

一つ目、教科書全体の構成にかかわること、これは答申資料の上の二つの項目あたりに相当します。二つ目、外国語の学習は、既習事項を何度も確認することが大切であることから、3、4年生、5、6年生での学習事項の取扱い、これは答申資料の上から四つ目の項目あたりに相当します。三つ目、デジタルコンテンツについて、これは答申資料の下から四つ目の項目あたりに相当します。そして、語彙の学習や自己表現活動に活用できるということから、辞書について、これは答申資料の下から三つ目の項目あたりに相当します。

(東京書籍)

答申

世界のことを知り、英語でコミュニケーションをしたいという児童の意欲と関心を引き出すために、多様な言語活動と多彩なデジタルコンテンツを配置した教科書である。見通しを持って学習に取り組むことができる構成になっており、スモールステップで繰り返し学習を積み重ねることができる。
--

一つ目の観点ですが、学年ごとに大きなテーマ、5年生では「日本でつながるわたしたち」、6年生では「世界とつながるわたしたち」が設定され、8つのユニットがさらに2から3のユニットからなる三つの小さなテーマに分けられています。小さなテーマの学習の学びを確かめるための「Check Your Steps」では、思考ツールなどを使って整理・発表し、定着を図る構成になっています。二つ目の観点ですが、5年生の最初に「Let's start」があり、4、5生の学習内容がまとめられています。別冊の Picture Dictionary にも、5、6年生で学習する主な表現をまとめたページがあり、二次元コードから各単元の

「Let's watch and think」の動画を見て復習ができます。また、3、4年生で学習した主な表現のリストもあり、こちらも二次元コードから音声聞けます。三つ目の観点ですが、208箇所の二次元コードからみられるコンテンツが678項目あり、内容等も非常に豊富です。例えば、文字指導映像、これは、文字の音と単語の音声を絵から変化する文字の形と連動させて定着させるアニメーションですが、視聴できます。四つ目の観点ですが、別冊のPicture Dictionaryが5冊あり、5、6年生を通して使用できます。また、「マイ単語」という箇所が紙面でもデジタル上にもあり、児童の興味・関心に応じて単語を追加することができます。また、二次元コードから個々の単語の音声を聞くことができます。

(開隆堂)

答申

主体的に学習する意欲を高めるために、児童が学習の道筋を見通し、学習の成果や課題を確かめることができる構成の教科書である。児童の共感を得るような題材と設定が工夫されており、豊富なデジタルコンテンツも多数配置されている。

一つ目の観点ですが、1年を見通す導入のページの後、3レッスンごとに「Let's Check」があり、児童が成長を実感できるように構成されています。「Let's Check」は年3回あり、学習したことがどのくらい身に付いているかを確かめることができます。この「Let's Check」は、「Question」による紙ベースの問題と、「Interview」のようなパフォーマンス課題で構成されています。各レッスンの「Let's watch and think」は、登場人物の成長を軸にしたストーリーがあり、児童の共感をもとに学びを後押しする工夫があります。そして、各レッスン末には、海外の生活や文化の紹介や読み物などがあり、それらを通してレッスンの学習を復習できる作りになっています。レッスンの最初のページにはGoalが示され、どのような順序で学習を進め、何ができるようになるのかが一目でわかるようになっています。二つ目の観点ですが、5年生用の教科書に、3、4年で学習したこと、6年生用は、5年で学習したことがイラスト付きで見開きの2ページでまとめられており、二次元コードから音声聞けます。三つ目の観点ですが、467のデジタルコンテンツがあり、アニメーションや資料動画などを見ることができます。四つ目の観点ですが、Word Bookが各学年で1冊ずつあります。二次元コードから、個々の単語の音声を聞くことができます。

(三省堂)

答申

単元末の言語活動に向けた目標を児童が自ら設定したり、学習過程を明示したりすることを通して、児童が見通しを持って主体的に学習に取り組むことができる構成の教科書である。ことばや世界に関心を持ち、楽しみながら学ぶことのできる工夫もされている。

一つ目の観点ですが、「HOP」「STEP」「JUMP」で、学ぶプロセスが明確になっています。各ユニットのテーマを設け、まず、「HOP」ではユニット全体の見通しを立てます。その後に2から3のレッスン「Step」を配置し、ユニットの最後には「JUMP」で、これまでのレッスンで学習したことを、目的・場面・状況を考えて表現する活動があります。例えば、5年生Unit 1「自己紹介をしよう」には、Lesson 1 My name is Jun. Lesson 2 I play soccer on Tuesdays. が設定されています。「HOP」のページには、ユ

ユニット全体で学習する内容の見直し図もあり、また、「JUMP」ではどんなことを伝えたいかを自分でゴールを設定する My goal を記入するところもあります。二つ目の観点ですが、5年生の初めには、「英語で言ってみよう」があり、3、4年生で学習してきた語句や表現に活動を通してふりかえることができます。また、6年生の初めにも同様に「英語で言ってみよう」があります。My Dictionary には、5年生、6年生で学習した表現をまとめたページがあります。三つ目の観点ですが、175箇所の二次元コードがあり、「話してみよう」のモデル動画、「聞いてみよう」の動画を見ることができます。四つ目の観点ですが、5、6年生を通して使用する My Dictionary があります。二次元コードからは個々の単語の音声聞け、絵を見て文字カードのつづりを選択する「単語ゲーム」やチャンツなども行えます。

(教育出版)

答申

児童にとってわかりやすい豊富なインプットとアウトプットへつながる言語活動が設定され、聞くこと・話すことを礎に、段階的に読むこと・書くことを学ぶ構成の教科書である。アレンジしやすいシンプルな紙面で、表現意欲を高める言語活動が配置され、巻末の教材も豊富である。

一つ目の観点ですが、表見返しにある1年間の「学びのロードマップ」で、各レッスンで何を行うかが示されています。3から4つのレッスンの後に、発展的な言語活動を行う「Let's Read and Act」、日本と海外の違いや共通点を学べる「Let's Look at the World」が配置されています。アレンジしやすいシンプルな構成です。各レッスンの最初に学習目標、ゴールが示され、レッスンの最後には学習を振り返る4つの設問があり、それらの三つは「知識・技能」に、一つは「思考・判断・表現」の観点に対応しています。「主体的に学習に取り組む態度」についても振り返りができるような工夫も紙面上にあります。巻末ワークシートがきめ細かくつけられています。各ワークシートの裏には「Final Activity をふりかえろう」があり、当該ワークシートを使って行う単元末の言語活動の振り返りができるようになっています。二つ目の観点ですが、5年生の初めに3、4年生の学習内容を、6年生の初めに5年生の学習内容を振り返る「Let's Start Together」があります。主としてアルファベットと語彙を復習するようなつくりです。三つ目の観点ですが、5、6年生全体で、二次元コードから177のデジタルコンテンツが利用できます。例えば、活動モデル動画や資料などを見ることができます。四つ目の観点ですが、各巻末に My Word Bank があり、二次元コードから、カテゴリー内の単語の音声を順に聞くことができます。

(光村図書)

答申

学習を通して何ができるようになるかを児童がよく理解して学習が進められるように、単元のゴールまでの流れが見える構成の教科書である。既習表現の活用を促すしかけや、楽しいストーリーと豊かな話題を通して学ぶ工夫がされている。

一つ目の観点ですが、ユニットのストーリーを中心に、学年の目標を達成できるよう、各学年をそれぞれ三つに分けてテーマを設定しています。例えば、5年生は自分のこと、身近な人のこと、地域のことです。それぞれのテーマの学習が終わった後にまとめのページ「世界の友達」「You can do it!」があります。学んだ表現を使って理解、発信する場面が設定され、パフォーマンス課題が配置されています。

各ユニットに5領域の中の重点化領域が設定され、テーマごとに少なくとも1回は各領域の評価の場面が示され、バランスのとれた指導と評価ができる設計になっています。巻末に「All About Me」のシートがあり、それに書き込んでいくことで学年末には自己紹介に使えるシートが完成します。二つ目の観点ですが、各学年の初めには「Let's Start」があり、5年生では3、4年生の学習内容を、6年生ではアルファベットの復習をします。各学年ともに「いつもたいせつ」や言葉の準備運動が掲載されています。Picture Dictionaryの中にも、5年用では、外国語活動と5年生で学習する表現、6年用では、5年生および6年生で学習する表現がまとめられています。いずれも二次元コードから音声を聞くことができます。三つ目の観点ですが、5、6年生で合計611点のコンテンツがあり、アニメーション、実写動画、音声、画像、PDFなどを見ることができます。四つ目の観点ですが、取り外しができるPicture Dictionaryが学年ごとに1冊ずつあり、二次元コードからカテゴリ内の単語の音声を順に聞くことができます。

(啓林館)

答申

学びの見通しが持てるように単元のゴールとそれにつながるめあてが明確に示され、スモールステップで語句や表現を使いながら身に付け、コミュニケーションを楽しむことができるような構成の教科書である。英語を学ぶ活動を通して考えることを促すしつけや、豊富なデジタルコンテンツがある。

一つ目の観点ですが、各学年一つのプレユニット、8つのユニットと、三つのレビューで構成されています。レビューでは、パフォーマンステストに使うことを想定し、評価の参考になるコミュニケーションのポイントが示されている「Try」とChallenge 掲示物、広告、グラフなどを見ながら音声を聞いて、質問に答える「Challenge」で構成されています。各ユニットの、とびらでは、「言葉を使う場面に出会い、考える」を設け、「考えることを」を促すように作られています。また、とびらでは、ゴールを確認し、各ステップで何を学習するのかが示されています。スモールステップで繰り返しながら学習できる作りになっています。二つ目の観点ですが、5年生のプレユニットは、3、4年生で学習した語句や表現に触れられます。6年生のプレユニットは、5年生の学習をふり返ることと、英語の語順について知ることがゴールになっています。三つ目の観点ですが、合計320のデジタルコンテンツがあり、内容も豊富です。リスニング問題の音声、ジングル、単語クイズ、世界の子どもたちが自分のことについて話す映像、言語材料の使用場面がわかるアニメーション、チャンツ、語彙リストから選択して英文を完成させ、その音声が聞ける「Hints」、単元末の活動のパフォーマンス例も見ることができます。四つ目の観点ですが、各巻末にWord Listがあります。二次元コードからは、各単語の音声を聞くことができます。以上6社についてご報告いたしました。

阿形教育長

ありがとうございました。ただいま報告していただいた内容について、ご質問等ありましたら、お願いします。

藤本委員

尾上選定委員に聞きたいのですが、51校、和歌山市に小学校があり、全て学校訪問はしてないので

すけれども、行った小学校で5年生とか6年生に聞いてみると、ライティングの書くことが入ってきて、学習指導要領ではI like とか見ながら、だいた練習してから、I like を書くということですから、教科書6社を見ると空欄があって、そこに自分で入れていくとスペルを間違えるとか、それから、Nice to meet you, too. とかというときに、やはりコンマが、発音だったら要らないのに、書くときになったらコンマが要ったり、そういうことで、今まで活動が好きだったのに、ライティングが入ったために苦手になってきた児童が多いんですけれども、6社から選ぶとしたら、ライティングで、どういうふうなところで選べばよいかというのを教えていただきたいと思います。以上です。

尾上選定委員

なかなか難しい質問をしていただいたのですが、書くことに関しては、どこの教科書会社も丁寧に扱うということをすごく心掛けてらっしゃるということが印象です。だいたい、5年生の最初の方は、アルファベットを書くということに、どこの会社も注力を置いてらっしゃるので、実際にどうするのかは、教科書会社によってそれぞれ違うのですが、アルファベットがだいたい書けたあとに文を書いていくということについては、いろいろやり方が違うと思っています。ただ、先生方に見ていただいたときに、教科書の書くスペースがちょっとしかないと思うんです。教科書に書き込むだけでは、子供たちはその1回の練習だけで、なかなか上手に書けるようにはならないと思うので、できたら授業の中で、子供たちが何回も書いて見られるような、ワークシートみたいなものがあれば、何回も書くっていうことが、上達にはつながるので、そういうのが補助的にあればいいと思います。コンマに関しては、おっしゃる通りだと思います。耳で聞いて、コンマって聞こえない。ただ、スペースしかないです。だから、それはやっぱり指導者が丁寧に、コンマあるよ、とか、最後はピリオドなんだよっていうことは指導していただけると、ありがたいと思います。

藤本委員

ありがとうございます。あとですね、I'm, I am って聞いたら分かるんだけど、I'm って言われたときに、書くようになったら、全然違いますよね。a が、なくなるんですよね。そういったところで、つまづいてしまう児童が見受けられるということで聞かせていただきました。

波床委員

小学校における英語教育の目標というか、各教科書がどのようなスタンスなのか、教えていただきたいのですが。例えば、小学校の教科書の英語教育、英語に初めて接するんですね。ただ、中学校以降、英語の教育は系統的に行われる。それで小学校の英語教育の目的が中学校の英語に接続するために基礎的な事柄を小学校の段階で理解させるという目的が強いのと、あるいは小学校の英語教育というのは、やはり英語がコミュニケーションツールとして、これからどんどん子供たちが学校教育を経て社会に出たときに使っていかなければならないということを念頭に置いた場合、英語に慣れ親しんで、小学校のうちに英語で物事を伝え合える、あるいはコミュニケーションをするのが非常に楽しいんだ、そういう基礎力というより英語に対する学びの意欲、そういうものを削がないようにするのが、小学校の英語教育のひとつの考え方じゃないのかなと、大きく分けると2つあるのではないかなと思うのですが、各教科書を拝見して、その辺りのスタンスが、少し比重の大きさが違うといえますか、もちろんその2つが全くないと、その教科書も言えないと思いますけれども、片一方に偏っているとも言えないと思うんで

すけれども、重点の置き方が違うと思うんです。何かその観点から、お気付きの点がございましたら、選定委員の先生からお教えいただければと思います。

尾上選定委員

はい、ありがとうございます。先生のおっしゃる通り、小学校の英語教育の目的って、ひとつはこれから英語を学んでいこうっていう意欲をしっかりと持ってもらうっていうことと、中学校の先の勉強っていうものがあるんで、それとうまくつなぐ2点だと思います。各教科書会社も、最初の意欲を引き出すっていうことについては、すごくいろんなことを工夫されていて、海外の子供たちが実際に話している映像をたくさん二次元コードの中に入れてたりとか、発信という意味でそれぞれのテーマを設けて、日本のことを紹介しよう、世界のことを紹介しよう、という風に出ることを子供たちに感じさせながら、自分たちが英語をやることによって世界とつながれるんだみたいなことも工夫されているっていうのが、各教科書会社にあると思います。東京書籍であるとか、Junior Sunshine や CROWN のところは、その先を見越しているのかな、っていうような形で、例えば辞書なんかを見ると、すごくたくさん語彙が入っていたり、あとはその二次元コードから音声聞けるんですけども、個々の音声が聞けたりするっていうのは、読めて書いて、それが使えるみたいなのが意識されているのかなっていうのを思います。索引がついてない Picture Dictionary もあるんですが、索引がついてるのはある意味、和英辞典的に使うことも想定しているんだなっていうのもあります。ですから、カテゴリーごとに、子供たちがこれ言いたい、あれ言いたいみたいな形で、言いたいものをカテゴリーの中からピックアップするときはカテゴリー別で構わないのですが、カテゴリーから外れて、例えば好きなものをいうときに、果物以外で、例えば教科の名前を言いたいみたいになったときに、例えば国語って言いたいときに索引で国語って見れば、どこのページに載っているよっていうのが示されているので、索引のつけ方とかを見ると、和英辞書的なイメージで作られているのもあるなっていうのがあって、それは New Horizon や Junior Sunshine や CROWN あたりは、意識されているのかなと思います。ただ、ご覧になって、小学校の教科書って英語の文字や本文があんまりないし、絵ばっかりだなんて思われると思うんですが、やっぱり音声中心にやるっていうことで、中学校の教科書に比べるとすごく、文字や本文がないなどお感じになられるかなと思います。あんまりお答えになってないかもしれませんが。

阿形教育長

ありがとうございます。ほかの方、いかがでしょうか。では二つ教えてください。1つは、6社でページ数が少ないのと多いのとで差があります。これはページ数は中身によると思うのですが、それともうひとつは dictionary が中に組み込まれているのと、別冊になっているのと、これは子供が使うときに、あまり差がない、どっちでも構わないのか、離れていたほうが見やすいのか、教えてください。

尾上選定委員

まず、教科書のページ数なんですけども、これは付録まで入れて何ページなのかということなので、付録がたくさんついているところはページ数が多くなっています。そんなに大きな差があるかなというようには感じませんでした。もう1点、Picture Dictionary が分かれているか、くっついているかですが、これは、授業の中でどんな風に使われているのかにもよるかと思うんですけども、離れていると、それを持っていろんな場所で使うことができるので、そういうメリットはあるかと思いますが、ただ、

どっかへいってしまうという恐れもあるので、それがちょっと心配なんですけども、どこの教科書会社も、子供たちが発信できる語彙っていう意味で、前は New Horizon しかついてなかったものを、今回はすべての会社が、何らかの辞書的なものをつけたっていう意味では、やっぱり学校から、辞書っていうものが使い勝手が良かったっていう声が聞こえていったのかなと思います。

阿形教育長

わかりました。ありがとうございます。ほかにございませんか。それでは尾上選定委員、ありがとうございます。

では、外国語科の審議に入る前に、展示会で外国語科の意見はありましたか。

竹内教育研究所長

外国語科についての意見はございませんでした。

阿形教育長

ありがとうございます。それでは外国語科の審議を行います。意見言っていただける先生方、よろしくお願いいたします。

波床委員

小学校の英語教育というのは、中学校に接続するから基礎力を養うという意味合いで、いろんなことを教えすぎるのは逆効果だと思っていまして、間違いがあってもいいので、とにかく英語を使ってみたい、話してみたい、楽しいというのを実感する教科書がいいと思っています。そういう観点から見たときに、今回の方針にもありましたけれど、楽しみながら学ぶことができる、コミュニケーションを楽しむことができる、と書かれているのは、答申を読んでみますと、三省堂と啓林館なんです。私は、啓林館を読んで特に思ったのは、写真が多くて、私はこれでいいと思っています。内容を理解しなければいけないみたいなプレッシャーを小学生の頃から与えて、何となく英語に対して徐々に使わなくなっていくよりは、写真を見て、誰々ちゃん教えてみたい、そんな写真の使い方ができたらいいなと思っております。

そういう観点からいきますと、私は第1順位として啓林館がよくできていると思っています。それで具体的な理由は、レベルが高すぎないということです。各ユニットの内容が簡単で、レベルが高すぎない。それから各ユニットのアクティビティで、英語をコミュニケーションツールとしてグループ活動で楽しく使うといっている。このスタイルが一番いいのかなと思いました。第2順位として、三省堂の CROWN JUNIOR を思っていたところでして、やはり各レッスンの内容がレベルが高すぎないという教科書になっていると思います。ただし、啓林館と比べた場合、課題がやや低レベルなのが多くて、英語に触れるという実感がひよっとすると子供たちが感じにくい可能性もあると思います。そういう意味で三省堂を第2順位にさせていただきました。こんなことを言いながら、繰り返し申し上げて大変恐縮ですが、小学校の英語教育の教科書の教え方が極めて重要だと私は思っていまして、先生方の普段からの準備で、授業で工夫をいろいろ実践していただく。これが極めて大事なことなんじゃないかと思っています。他方、小学校には、児童が英語の絵本や漫画を手にとって、英語に触れる機会、環境整備を行うのが更に重要になってくると思っております。こういったものを是非やっていただきたいなと思います。以上です。

石元委員

私は、英語という教科は同じ小学校の中でも、小さい頃から習ってすごくできている、分かっている子と、何のことか分からない子と、できるできないの差がある教科だと思っているのですが、その観点で考えたところ、ひとつは教育出版ですけれども、これは教科書の中の文字が少ないんですけれども、英語に慣れ親しむにはとてもとっつきやすく、巻末には各レッスンで使うアルファベットや絵カードが用意されていて、レッスンの幅を広げてくれると思います。文字が少ない分、先生の指導の内容が関わってくるかなと思うので、授業の進め方とかで、授業は変わってくるのかなと思います。東京書籍がいいなと思っている理由ですけれども、5年生からしっかりアルファベットを練習し、中学生の英語学習にスムーズに移行できるように、よくできた教科書だなと思いました。一番この中では難しいほうの教科書だなと感じていますので、これが小学生全員に合うのかどうかというところがちょっと心配です。でも、スモールステップで何度も繰り返し出てきて、何度も見て、聞いて、定着を図ろうとしているところが、いいなと考えています。あともうひとつは三省堂で、これは単語帳が別冊で付ついていて、子供にも親しみやすいピクチャーブックも付いていて、単語からイメージが湧くことができる。絵と文字のバランスがいいので、これもいい教科書だなと思っています。以上です。

森崎委員

和歌山市の児童は今、どれくらい力が付いてきているのか。速いスピードをもって高いところを目指すのであれば、開隆堂と東京書籍が良いのではないかと考えています。最初から2社とも言葉のやり取りが始まっています。また、開隆堂は5年から、東京書籍は6年ユニット4から物語を読むことが入ってきています。もう少し、易しくてゆっくり進めていいなと思ったのは、啓林館と光村図書でした。

阿形教育長

ありがとうございました。森崎委員は開隆堂と東京書籍がいいという事ですね。

藤本委員

和歌山市の児童の全ては見えていませんが、現状を見て、外国語が少し苦手になってきている状況の中で、6社とも素晴らしい内容でした。私は、I'm や I go の過去形 I went にするとかいうのではなく、やはりしゃべるという事を大切に、外国語を話そうとする児童を育てていかなければならないと思います。私の時代には、外国語を書かなくてはいけない、文法をしなくてはいけない、構文を覚えなくてはいけない時代から変化したのに、writingが入ってきたりして戻ることかと思っていました。先ほど波床委員もおっしゃられたように、楽しみながら英語を話して、中学校で楽しさを継続しながら writing などを行っていくほうがいいのではないかと思います。授業中に立って交流しながらでも、英語を話したり、好きなものを英語で話したり、そういう活動を取り入れることを考えれば、啓林館が一番良かったように思いました。ただ、外国語をきっちり学ばないといけないと考えるならば、中学校の東京書籍へつないでいくことや、小中連携を考えると東京書籍かなと思いますが、出てくる単語がすごく難しいです。小学校の先生は全部教えないといけないと思うのではないかと少し懸念しますが、力を付けるには東京書籍もいいです。

阿形教育長

ありがとうございます。A4サイズや写真の見やすさも含めて、三省堂もいいのではないかなと思います。開隆堂はいろんな活動があり使いやすいのではないかと。三省堂も見やすく、2次元コードなどもあり使いやすいのではないかと思います。皆さんから意見を聞いていますが、もう少し絞りたいと思います。

波床委員からは、三省堂や啓林館。石元委員からは教育出版や東京書籍や三省堂。森崎委員は開隆堂や東京書籍や啓林館。藤本委員は啓林館や東京書籍。もう少し絞ると、波床委員は啓林館、藤本委員は啓林館、石元委員は東京書籍、私は開隆堂とします。そうしますと啓林館、東京書籍が多いです。今開隆堂を使っておりますが、現場で使いにくいなど何か意見は出ていますか。

竹内教育研究所長

今のところ使いにくいなどの意見は聞いておりません。

阿形教育長

啓林館、東京書籍、開隆堂の3社が候補でよろしいでしょうか。皆さんありがとうございました。

家庭科

竹内教育研究所長

続いて家庭の答申及び答申資料のご説明をいただきます。家庭は、東京書籍、開隆堂です。委員の皆様は、お手元の答申資料をご覧ください。ご答申は岡部選定委員にお願いいたします。それでは、教育長よろしくお願いたします。

阿形教育長

岡部選定委員、家庭科の答申及び答申資料のご説明を、東京書籍から順にお願いいたします。

岡部選定委員

選定委員の岡部です。家庭科の答申をいたします。家庭科は、2社ございます。選定委員会として調査・審議し、まとめた内容を、1社ずつ申し上げます。

(東京書籍)

答申

題材の導入ページに、タイトル、導入発問、学習の流れや、児童の身近な家族や学校の場면을写真やイラストで大きく示すことにより、学習の見通しが立てやすく、自分なりの課題をもって学習に取り組めるよう配慮されている。全ての大題材を3ステップで展開することにより、問題解決学習ができる流れになっており、主体的に生活する力の育成を目指す教科書である。

東京書籍の3ページをご覧ください。家庭科の見方・考え方の視点が「家庭科の窓」として示されて

います。これは、各題材の導入でも示されているので、これらの視点を意識しながら学習を進めることができます。また、4ページの学習の進め方で示されているように、各大題材は3ステップで展開されており、そのステップを繰り返すことにより、問題解決学習ができる流れになっています。それぞれのステップには、ワークシートや動画などのデジタルコンテンツが用意されています。次に、6ページをご覧ください。この「成長の記録」は各大題材の学習後に記入することで、2学年のポートフォリオが完成します。教師が児童の成長をみとれるとともに児童自身が振り返りを行うことで成長を実感できると考えられます。安全への配慮や基礎的・基本的な知識や技能の定着のポイントについては、次ページの「いつも確かめよう」にまとめられています。巻末136ページからの「いつも確かめよう」には、手を載せて練習できる実物大の写真やミシンの技能については、145、146ページに扱い方について大きなイラストで丁寧に説明がされている。写真は、右利き、左利きの写真が掲載されています。

(開隆堂)

答申

各題材は「1気づく・見つける」「2わかる・できる」「3生かす・深める」の3ステップの流れで構成されており、児童が見通しをもって問題解決学習が進められるよう工夫されている。また、易しいものから難しいものへとスモールステップの段階を踏むことにより、知識及び技能の確実な習得が図れるよう配慮された教科書である。

まず、3ページをご覧ください。家庭科の生活の営みに係る見方・考え方が四つ葉のクローバーで表現されており、これが各題材の最初に配置されています。これにより、一連の学習過程の中で、「生活の営みに係る見方・考え方」を働かせることができるようになっていきます。また、10ページをご覧ください。各大題材の最初のページに掲載されている大きな写真やイラストを通して見通しができるようになっており、最後には児童が見つけた課題が記入できるスペースが設けられたり、資料を掲載したりすることにより、主体的に課題に取り組める工夫がされています。44ページや52ページにあるように、調理、製作実習の手順は全て見開きページで全体の流れが横流れで提示されています。これは、児童の視線の流れに沿っているものでいずれも学習、手順の流れがつかみやすい工夫がされています。家庭科における安全・防災については、142ページをご覧ください。特設ページとしてまとめられているので、常に確認することができる。基礎的・基本的な知識や技能の定着のポイントについても、同じく巻末に写真やイラストで丁寧に説明がされている。写真は、右利き、左利きの写真が掲載されています。デジタルコンテンツも全体的に配置されており、その中の「書きこみカード」は児童同士の意見が一人一台端末上で共有できるので、学びを深めていくことができると考えられます。

阿形教育長

報告いただいた内容について、質問等ありましたらお願いします。

藤本委員

調理生活、環境の部分について、売買契約の基礎について触れることと学習指導要領にはあります。触れることについては算数ならトンで、1トンは1000kgですと触れるということで良いというの

があるので、触れることということについては分かるのですが、売買契約についても、小学校においても知っておいたほうが良いのではないかと思います。スマートフォンで購入するボタンが付いています。両方とも見たのですが、見開きの1ページに売買契約がありました。小学校5、6年生の児童にとっても売買契約についても入らなくて良いのか教えてほしい。

岡部選定委員

売買契約については、消費者契約について小学校では二者間についての契約について指導要領で示されています。教科書では、開隆堂については、シミュレーションをすることがありました。東京書籍は、インターネットでの買い物に注意しようとなりました。その点を授業では触れるようにしています。それと今は、現金取引だけではなく現金以外のプリペイドカードなども教科書に載っているので、時間をとって子供たちに指導されていると思います。

波床委員

衣食住についての授業は当然、技量を身に付けるにあたり児童について気を付けていただきたいのは安全面についてです。例えば、包丁だと怪我をすることもあります。また、ガスコンロの使用だと大きな事故もあります。そのような安全面、衛生面で実習などすると中毒などある。さらには、人の生活では今後は生活循環型の社会となる。ゴミなどが出た場合どのような意識をするのかを教えていく必要があると思います。そのような視点に立った場合、東京書籍、開隆堂にはどういった特徴がありますか。

岡部選定委員

東京書籍は、安全面については、10、11ページで、紙面で紹介されている。また、子供たちは一人一台端末を持っているので、そこを読み取ると包丁の使い方についての動画があり、個人で学習することができるようになっていきます。また、このページを使って具体的に教員から指導をしています。開隆堂では142ページで安全と衛生について実習しようとなります。これもいつも確かめやすいように巻末に掲載されています。15ページの実習では、見開き横の流れで邪魔をしないように上のほうに注意しようとならされています。さらには、SDGsと持続可能な社会についてですが、環境に優しい後片付けについての視点、消費者側の責任についても指導要領に載っているので、それについても教科書に載せられています。

阿形教育長

ほかに質問等ないですか。それでは、岡部選定委員ありがとうございました。

阿形教育長

それでは事務局に伺いますが、展示会では家庭科について何か意見はありませんでしたか。

竹内教育研究所長

家庭科についての意見はございませんでした。

阿形教育長

ありがとうございました。家庭の審議に入りたいと思います。

波床委員

どちらもそれほど差がないように思います。どちらかといえば東京書籍のほうが良いのかと私は思いました。その理由は、一つは安全衛生、それから今後配慮した循環型生活に配慮した心構えについて東京書籍のほうが関心を抱かせやすいのではないかなと思うからです。もう少し具体的に言うと、東京書籍の8ページのところで、「いつもたしかめよう」で、まず安全衛生に注意を向けさせ、かなりのことを教えようとしています。それから、ガスコンロの使い方を学ばせるときにも改めて注意喚起をしている。まとまった注意のほかに各単元に生活の中でハサミの使い方などの注意喚起をしています。

それから循環型生活についても比較的早い段階から意識していると思います。42ページ、60ページ、132ページとか繰り返し出てきていると思います。そういう意味で、この教科書を使うことによって、安全衛生面、循環型生活の視点も関心を感じる機会が多いのではないかなと思います。そういう意味では東京書籍のほうが開隆堂よりも良いかなと思います。

石元委員

私は、児童が生活の中で必要なスキルや知識を得るためにどちらが良いのかと考えました。両方とも調理実習のメニューも似通っているのですが、私は開隆堂のほうがより良いのではないかなと感じています。5年生から始まる家庭科で子供たちは学校で何か作って食べるのを楽しみにしていると思います。その調理実習の時の写真を見比べてみたのですが、献立がとても美味しそうで、わくわくして作ってみたいなど意欲を感じてもらえると思います。あとミシンとか裁縫でも、イラストや写真があり、子供目線で詳しい説明があるのでとても良いなと思いました。また、3つのスモールステップで、気付いて分かって生かすという生活の流れで学習が進めていけるかなと感じました。

藤本委員

両方見させていただき、内容も部分ともかなり似通っていると感じています。今、石元委員がおっしゃったように、調理実習などの全て同じような対応なのですが、見ていて、初めて調理実習をするときに触れるまな板や包丁で切るような写真が大きいなと思います。それと、防災教育について、消費者のお金の使い方について、消費者のことについて、SDGsについて各部分の内容について見てみますと、私は東京書籍のほうが上なのじゃないかなと思いました。2社とも本当に接近しているがどちらかというと東京書籍のほうが良いのではないかと選ばせていただきました。

森崎委員

動画は2社とも本当に使いやすく活用できると思います。また、分かりやすいと思います。藤本委員がおっしゃったように、初めてそのものに触れるということについて考えると、8ページから11ページまで3ページにわたり、いつもたしかめようのページがあり、服装のこと、調理道具の使い方なことなど実習の前に気を付けること、地震が起こったときのこと、製作のときに気を付けることなどがあります。そして、調理が始まって計画調理、片付け、振り返りまでとても非常に丁寧に書かれているという部分で東京書籍のほうが良いのではないかと考えました。ただ、中には、今話してくださっていた見開きで分かるなど、干す内容、干し方等、100ページなどの選択のところでは開隆堂のほうが分かり

やすいなと思うところも多々ありました。以上です。

阿形教育長

私も両方とも比べて見させていただいて、最初の3ステップも一緒ですし、ほか場面は違いますが一緒でした。あとは家庭科の見方、考え方で学習の流れがどちらも見やすく分かりやすく甲乙付け難いと思いました。調理の手順の流れで言えば、開隆堂のほうが少し見やすく統一感があるのかなと思いました。それから巻末についてですが、どちらも写真も多く見やすいですし、気を付けることや2年間のまとめも載っています。若干、開隆堂のほうがいろいろと中学校へのつながりとかキャリアのこと、防災のこと、裏にものさしも付けてくれています、こういうのも何かのときにぱっと使いやすいとかがあり、私は開隆堂のほうが使いやすいのかなと今の時点では思います。2社しかないのですが、とりあえず2社残していいですか。

波床委員

少しいいですか。家庭科というのは小学校ではどれぐらいの時間数があるのですか。

竹内教育研究所長

標準授業時数は5年生で年間60時間、6年生で年間55時間です。1週間あたりの時数では、5年生が1.7時間、6年生が1.6時間になります。

阿形教育長

2週間で約3時間。2時間続きのところで実習をするとか、そんな形ですよね。昔は週2時間。今は、2週間で3時間程度と少し減っている時間数になっています。

2社しかないのですが、2社残して、次回1社に絞りたいと思いますがよろしいでしょうか。

委員一同

はい。

算数科

竹内教育研究所長

続いて、算数の答申及び答申資料のご説明をいただきます。算数は、東京書籍、大日本図書、学校図書、教育出版、啓林館、日本文教出版です。委員の皆様は、お手元の答申資料をご覧ください。ご答申は梅本選定委員にお願いいたします。それでは、教育長よろしくお願いたします。

阿形教育長

梅本選定委員、算数の答申及び答申資料のご説明を、東京書籍から順にお願いいたします。

梅本選定委員

選定委員の梅本です。算数科は、6社ございます。選定委員会として調査・審議し、まとめた内容を

1社ずつ申し上げます。6社ともに共通している事項として、配色・フォント等、ユニバーサルデザインに配慮しており、また教育の国際化並びに情報化を意識して、教科書の登場人物には、様々な国の子供たちが登場し、二次元コードを掲載し、家庭でも学習の参考になる情報に触れられるよう配慮しています。また、今日的課題であるプログラミング題材・問題解決学習における「PPDACサイクルの視覚化」、SDGs等を取り上げています。

(東京書籍)

答申

数学的な見方・考え方を働かせ、数学的活動を通して数学的に考える資質・能力を育成する単元構成・学習展開となっている。学習内容の習熟・定着ならびに次学年への学びの連動を意図したスパイラルな学習を重視し、単元構成・配列を工夫した教科書である。

内容につきまして、6学年は1冊、それ以外の学年は2冊の分冊。1学年は、入門期にA4判「はじめようさんすう」で1ページを開いてください。幼児期の体験や入学当初の学校生活の場から、算数の学びへとつなげていて、2ページから順にご覧ください。集合数と順序数の2単元を構成しています。入門期から、絵・教具・図・ことばを関連付けた活動を取り入れ、思考力・表現力を養う素地づくりが図られています。1学年で扱う数図ブロックは、当社のみ入門期から10個1列の型を使用しています。1学年の63ページをお開きください。1学年「繰り上がりのあるたし算」、「繰り下がりのあるひき算」では、計算の定着のため、丁寧に授業が展開されています。10のまとまりを作って計算する過程が、ブロック操作→丸を使った図→たす数を分解する図→式へと、板書並びにノート形式で示されています。66、67ページをご覧ください。数によって、被加数(たされる数)分解による計算方法を選択できる主体性を身に付けさせることを意図しています。繰り下がりのあるひき算でも同様の指導方法が展開されています。3学年「三角形と角」の導入は、3学年下81ページをお開きください。円周を12等分した12個の点と中心、合計13個の点から任意の3点を直線で結んで三角形を作る学習から始まっています。他社は全て棒を使った導入となっています。既習の円の性質を活用した学習となっており、5学年の「正多角形と円周の長さ」の導入の活動とも連動しているものと考えられます。児童の苦手意識が強い「割合」を重要単元と位置づけ、5学年の「単位量あたりの大きさ」の単元名に「比べ方を考えよう(1)」、「割合」の単元名に「比べ方を考えよう(2)」と明記し、両単元の連動性を可視化しています。「比例」と「変わり方調べ」も同様の扱いとなっています。5学年以前の学年では、「割合」の素地づくり・つまずきへの対応を考慮した単元がいくつか設定されており、児童に「倍の見方」「基準量」等を意識させる単元構成がされています。2学年下11ページをお開きください。2学年「かけ算」ではかけ算の意味理解の学習後、九九の学習前に「かけ算と倍の関係」の学習が設定されています。3学年「倍の計算」「分数とわり算」、4学年「倍の見方」、6学年「比」等も丁寧な扱いとなっています。東京書籍は以上です。

(大日本図書)

答申

主体的・対話的で深い学びを実現するため、具体的な紙面構成とし、数学的な見方・考え方を働かせながら思考力・判断力・表現力の育成を企図している。学校生活や日常生活の中から問題を見つけ、様々な数学的活動や充実した適用問題で、知識・技能の定着を図ることができる教科書である。

内容につきまして、2学年以上は1冊、1学年は入門期にA4判の分冊で、集合数・順序数・数の構成の3単元を構成しています。18ページをお開きください。集合数の学習時は、「5・5」2列のブロックを使用しています。また、学習の進め方が分かる工夫がされています。授業場面の写真やイラストで、児童の話し合いや発表の仕方・指導者の発問例・板書例等を示しており、児童だけでなく指導者にも参考となる紙面構成がされています。1学年66ページをご覧ください。1学年「たしざん」では、アプローチを含め6ページにわたり学習内容が詳しく展開されています。まず、答えが10になるたし算を考え、10のまとまりに着目させ、答えが10を超える繰り上がりのあるたし算の計算方法の習熟・定着を図っています。72ページでノート指導を行い、74ページで「数に応じて計算方法を選択する」という主体的な学びについて記述しています。繰り下がりのあるひき算も重点単元として、同様の紙面構成となっています。2学年「かけ算九九」は、当社のみ、2の段から学習しています。143ページをお開きください。かけ算の意味理解の学習後、九九2・5・3・4段の九九を学習して、151ページで「倍とかけ算」の学習を行っています。5学年「単位量あたりの大きさ」の単元アプローチでは、お買い得な商品や読書時間等、日常生活で体験する場面が取り入れられています。142ページをお開きください。鉛筆1本当たりの値段・1日当たり読んだページ数と生活経験から解決できそうな問いから→情報が不十分な問いで何を調べれば良いか問いかけ→本時の問題に入っています。学習が進む中で思考の拠りどころとなるページと言えます。150～152ページをご覧ください。単元終盤でも、生活に密着したテーマ、買い物や災害時の場面を取り上げ、難解なイメージのある割合が普段の生活に役立っていて、自分も活用していることに気付くことができる記述となっています。6学年「分数のかけ算・わり算」では、整数の場合と同じように考えたり、かけ算やわり算のきまり・比例の考えを活用したりして解決することに重点を置いて授業展開されています。99ページをお開きください。これまでのかけ算を振り返り、数直線を用いて整数と同じように考える・既習を活用して「まず、単位分数の場合で考えて」「かけ算の決まりを使って整数のかけ算・わり算にして考えて」等、丁寧に記述されています。他社に比べ、面積図は、「このような図でも表せるね」といった記述で止めています。大日本図書は以上です。

(学校図書)

答申

身近な事象や児童の興味・関心に応じた題材から児童自らが問題を見つけ、考え、解決していく学習の過程が可視化されている。算数科の学習の中で、問題を解決するとき、どのような見方・考え方をすればよいかということをも身に付けるとともに、身に付けた数学的な見方・考え方を今後の学習や生活の中で役立てていける児童の育成を企図した教科書である。

内容につきまして、6学年以外は、全て2冊の分冊。6学年は「中学校へのかけ橋」と題した別冊となっています。全学年ともA4判サイズ。1学年上2ページをお開きください。数の学習では、A4判

サイズの特性を生かしたダイナミックな紙面作りがされており、入門期の児童にとって見やすく、紙面上の操作もやりやすくなっています。入門期は、ブロックは5・5の2列を使用しており、繰り上がりのあるたし算・繰り下がりのあるひき算では10個1列を使用しています。全学年ともに、図や表を使って考える問題が多く取り上げられています。低学年では、ブロック操作や○を使った図、数直線・線分図等、問題に応じて扱っています。1年下10ページをご覧ください。10のまとまりを作る方法や操作の手順を唱えながらブロック操作したり、13ページでは、数に応じて計算方法を考えたりなど、丁寧な指導が示されています。繰り下がりのあるひき算でも同様の指導方法が提示されています。2学年下93ページをお開きください。「たし算 ひき算(2)」では、テープ図の書き方を5ページにわたり掲載しています。3学年の「倍の計算」では、テープ図と数直線とテープを組み合わせた図を使用しています。4学年上105ページをお開きください。「倍の計算(1)」では、数直線とテープを組み合わせた図とともに、2量の倍関係を表す関係図に似た4マス関係表を使用し、「倍の計算(2)」では、線分図も取り入れています。学年の発達段階に応じた図や表を活用した指導が丁寧に示され、5学年「割合」へのスムーズなつながりを図っています。5学年の「割合」では、「割合(1)」、「割合(2)」、「割合のグラフ」と単元を分割して配置し、年間を通して割合の意味や用法の定着が図れるよう配慮されています。巻末付録の教具が充実しています。2学年上64ページと巻末付録165ページをご覧ください。「ジャンケンレース」の3色テープは基準量が分かりやすく、同色をつなぐと3量を比較できるテープ図が完成します。本単元でのテープの扱いが、79ページの次の単元「図を使って計算の仕方を考えよう」につながっていきます。5学年巻末付録の「円周の長さ測定器」は直径と円周の長さの関係や正多角形の周りの長さとの関係が視覚化され、児童が扱いやすい教具となっています。その他の巻末付録教具も充実しており、指導者の教具作りの時間削減・不正確になりがちな児童の手作り教具の一助になると思われます。学校図書は以上です。

(教育出版)

答申

問題発見力・解決力・追求力を培い、数学的な見方・考え方を働かせて学び合う児童の育成を図っている。日常の場面や児童の経験から問いを見出し、協働的に解決し、新たな問いを生み出し、学びをつなげることで会得した確かな学力を学校や日常の場面に生かすことを企図した教科書である。

内容につきまして、1、5、6学年は1冊。2、3、4学年は2冊の分冊。1学年入門期は5・5、2列のブロックを使用し、繰り上がりのあるたし算・繰り下がりのあるひき算の途中から縦並びの10個1列になっています。2学年2ページをお開きください。各社とも2学年以上の巻頭に、算数の学び方が掲載されていますが、教育出版はペアやグループで活動している場面や1人学習の場面、タブレット活用の写真が大きく掲載されており、本文中にも多く示されています。1学年でも、カメラ機能を活用して記録する等、タブレットの使用場面が扱われています。学習形態の変化を促していると考えられます。2学年「分数」は、単元名を「1を分けて」とし、まとめのページでも小題を「1を分けた大きさ」と記しています。単元導入時の問題設定の場や単元のまとめの4コマ漫画でも、もとにする量の重要性を強調しています。3学年「わり算」は、当社のみ包含除から扱っています。6学年「分数のわり算」71ページをご覧ください。1mの重さを求めるイコール1当たり量を求める。それは、わり算で

求められる。つまり、わり算は1当たり量を求めるための式であるということを再確認しています。74ページでは、 $2/5 \div 3/4$ の、3通りの計算方法を板書の形式で分かりやすく提示しています。考え方や立式の根拠を書く位置も的確で整理されていて、意味理解の難しい分数のわり算の抵抗感を多少和らげていると言えます。5学年「割合」では、当社のみ、もとにする量を基準量、もう一方の量を比較量と記しています。教育出版は以上です。

(啓林館)

答申

日常生活を送る上で、基礎・基本となる数学的な知識・技能を習得するとともに、筋道を立てて考える能力を育て、ものごとを合理的に処理する思考力・判断力・表現力等が育成できる学びを企図している。数学的な見方・考え方を軸とした単元構成・学習展開が計画され、児童が主体となって学べるよう、対話的・協働的な授業が工夫された教科書である。

内容につきまして、5学年と6学年は1冊、それ以外の学年は2冊の分冊。1学年は、入門期にA4判「すたあとぶっく」で幼児期の体験や入学当初の学校生活の場から、算数の学びへとつなげています。集合数・順序数・数の構成・かたち遊びの4単元を構成しています。入門期から、身の回りのものや数図ブロックなどを操作する活動といった具体的・体験的な学びを通して、基礎的な知識・技能の習得を促しています。「すたあとぶっく」14ページをお開きください。1学年で扱う数図ブロックは、ケース入りの「5・5」の2列で、繰り上がりのある足し算でも、「5・5」の2列を使用しています。10の補数に着目できるようにとの考えだと思います。続いて65ページをご覧ください。足す数、加数のほうが10に近い場合も加数を分解して、足される数、被加数を10のまとまりにする加数分解という計算方法を主に置いています。81ページを開いてください。繰り下がりのある引き算でも、「まず10のまとまりから引いて、残りど引かれる数の分けた数を足す減加法」に重きを置いています。他社に比べ、繰り上がりのある足し算では加数分解、繰り下がりのある引き算では減加法に重きを置き、被加数分解や減々法の計算方法は算数ポケットのコーナーで「このようにしてもできます」といった扱いに止めています。全学年で、図を使って考える学習を大切にしています。4学年下32ページをご覧ください。「小数のかけ算」では、関係図を使って問題の意味を理解し、数直線とテープを組み合わせた図で問題解決の糸口をつかみ立式し、小数の場合はどうなるのか予想し、学習のめあてを決めて、33ページの本時の学習へと進めています。つまずきの多い内容を重点単元と位置づけ、系統性を踏まえた考え方を育めるよう、丁寧に構成されています。5学年の「割合」では、「割合(1)」、「割合(2)」、「割合のグラフ」と単元を分割して配置し、年間を通して割合の意味や用法の定着が図れるよう配慮されています。また、5学年の「割合」の学習がスムーズに始められるよう、2学年「何ばいとかけ算」・3学年「何倍でしょう」・4学年「割合」を丁寧に扱っています。5学年「面積」では、当社のみ三角形の面積を求める学習から始まっています。6学年「データの整理と活用」では、大縄とび大会の代表チームの決め方を考える問題設定で1単元を構成しています。106ページを開いてください。問題設定からデータの収集・整理、分析、結果のまとめ、結論、プレゼンテーションの仕方までを考える問題解決の方法、PPDACに沿った学びとなっています。他教科での学習にも生かせる単元学習になっています。啓林館は以上です。

(日本文教出版)

答申

数学的な見方・考え方を働かせた「わかる・できる・つなげる・いかす」数学的活動の充実により、児童の確かな資質・能力を育成することを企図している。算数の楽しさやよさを感じながら学習を進め、生活や学習の基礎となる力の定着を図ることができる教科書である。

内容につきまして、5学年と6学年は1冊で、しおりひもが付いています。それ以外の学年は2冊の分冊。1学年は、入門期にB5判の分冊で、表紙をめくってください。絵本形式でこれまでの生活が算数につながっていることやこれからの学校生活、算数の学習に期待を持たせるような紙面作りがされています。集合数・順序数・数の構成の3単元を構成しています。学習の流れが分かりやすい紙面作りがされています。6学年145ページを開いてください。単元導入前に、前学年の復習問題が右ページに準備されていて、次の単元アプローチで、問いを持つきっかけの場が左ページに設定されています。右ページで本時の問題に出会い、問いを持ち自力解決に取り組む。ページをめくって、解決方法が示されています。めあての近くに、見通しを持って考えるための数学的着眼点「見方・考え方」が記されています。また、難易度の高い問題では、まとめの裏付けとなるきまりや算数用語をまとめの上に記しています。1学年で定着させたい知識・技能に関する指導が丁寧に扱われています。61ページを開いてください。繰り上がりのある足し算での加数分解62ページ・被加数分解64ページの手順、繰り下がりのある引き算での減加法80ページ・減々法82ページの手順、数によって計算方法を考える理由84ページ、一の位と十の位の意味102ページ等、言語表現の未熟な1学年の児童に寄り添った記述となっています。日常生活や学校生活の中から見出された問題が多い中、めあてに焦点化した問題作りの工夫が見られます。5学年182ページ「円周と直径」で、直径が比例している3つの同心円と大きさの異なる2つの円が示されていて、「直径の長さを変えると何が変わりますか」という問題が出されています。直径と円周の関係に着目し、目的意識を持って数学的活動に取り組むことができます。4学年下15ページ「四角形」では、3種類の長方形と2種類の三角形を組み合わせて、いろいろな四角形を作る活動が取り上げられています。ここで作られた四角形を辺の並び方に着目すると、平行な辺の組の数によって仲間に分けることができます。算数の楽しさ・規則性に気付くことができる問題設定となっています。他社と同じく、5学年「割合」への抵抗を少なくするため、学年の系統性を重視した「倍の見方」の単元構成がされています。以上で、報告を終わらせていただきます。

阿形教育長

報告いただいた内容について、質問等ありましたらお願いします。

波床委員

聞くところによりますと、中学校や高校で数学嫌いな生徒や分からない生徒がいる原因の一つが、小学校高学年ぐらいの算数が理解できていないとよく聞きます。その観点からすると、算数の教科書は各社、どのような工夫をされているのかを整理して教えてください。

梅本選定委員

高学年の算数でつまづくということは考えられるんですけど、元をただせば、2年生のかけ算のところやいわゆる倍概念のところからつまづきが始まっています。そして、3学年で割り算を学習するときに、割り算は分ける計算だというふうに子供たちはインプットされていることが多い。割り算というのは、ただ分ける計算だけではなく、中学校でも学習をするが1あたり量、すなわち、1の時にあたる量を求めるのが割り算だよということを、低学年から取り扱っているのが特徴になります。先ほども申し上げましたが、一番の問題が5学年の割合の単元で、学力テスト等、本市以外でも他府県でも正答率が大変悪い結果となっています。そのことを考えた上で、2学年からの倍の考え方というのを、それぞれの発達段階において各社ともに工夫をしています。

阿形教育長

ほかに質問はございませんか。それでは、梅本選定委員にはご退出いただきます。ありがとうございました。

算数の審議に入る前に事務局に伺います。教科書展示会において算数について意見はありましたか。

竹内教育研究所長

算数についての意見はございませんでした。

阿形教育長

ありがとうございます。それでは、算数の審議に入りたいと思います。6社あって大変なのですが、できれば2社ないしは3社くらいに絞りたいと思うのですが、よろしくお願いします。ここがいいのではなど、意見を出していただくと有り難いです。

波床委員

中学、高校の数学嫌いになってしまいますと、数学的思考というのが、社会に出てからも非常に弱くなってしまって、この数学的思考というのが、論理性につながっている気がするのです。数学的な思考といいますか、数学嫌いになってしまいますと、語彙を書く際の論理性一つとってみても、論理のつながりが途中で欠けていたり、飛躍してみたりということが起こるのではないかと、そんな感触を抱いております。その意味で中学、高校で数学嫌いを起こさないように、小学校では算数を教える必要があるのではないかと思います。

そういう観点で各社の教科書を見たときに、やはり啓林館の教科書は、身近な生活上問題を取り扱いながらも、低学年は易しく丁寧に説明されていますし、高学年になると、かなり重点的につまづくような単元については、分量を割いて、繰り返し教える姿勢があって、非常に算数の力をきちんと小学生の時に付けて、中学高校につなげようとしているのではないかと、という意識を感じます。6年生のまとめのところで、中学への数学への架け橋というところも意識されているのが啓林館だったのではないかと思います。

それである各社ですけれども、第2順位として私が推薦するとすれば、東京書籍がやはりよくできているなという感覚は、いつもそうですけど。ただ、レベルがほかの教科書に比べてかなり高い気がいたしまして、先生の力量とか授業の準備の周到さ如何によっては、生徒が消化不良となる懸念もある教科書ではないかなと思います。ただ、東京書籍は内容としてはよくできていると私は思います。その意

味で第1順位啓林館、第2順位東京書籍という形でいきたいということで意見をまとめさせていただきました。

石元委員

私は、波床委員がおっしゃられたのですが、啓林館を第1の教科書に選びました。というのが、絵と文字のバランスがちょうどよく、余白も結構たっぷりあるので、子供が持って帰ってきた教科書を見てみると、余白に先生の説明とかメモとかを書き込んだりしているのも、そんなこともこの教科書ならできそうだなと思いました。あと、各所に登場しているキャラクターの絵も親しみがあってかわいいというのと、全学年とも図を使って考えることを大切にしているので、考える学習になるような教科書になっていると思います。高学年のところでは、つまずきやすいところもページ数をたくさん使われているので、そこもいいなと思いました。

あともう1社ですが、学校図書を選びました。ほかのところと比べて、本のサイズ、大きさが違うのですが、見開くと大きいサイズになるので、私もそうですが、算数ができない子供にとったら、大きいところに大きく書くというのが、字も大きく見えたり、あと、分度器とかもそうですが、小さいメモリまでしっかり映り込んでいるので、難しい問題でも少し気分的に易しく感じられるのかなと思います。あと、6年生以外は2冊構成になっているのも、ランドセルが重たい子供たちにとってはとてもいいかなというふうに感じました。

森崎委員

私の第1候補は東京書籍です。まず、文字が読みやすくきれいなのと、1年の1の内容が丁寧で分かりやすいと思いました。学年の始めに、「学びの扉」として、解決するときに必要なことがまとめられています。各章のまとめに「学習の仕上げ」として、「いかしてみよう」、「確かめよう」、そして、ふんだんに動画が使われていて、さらに「つないでいこう数学のとびら」など、大切な見方考え方が添えられています。深い学びにつながり、生活に生かす方法が示されているような気がします。

その次は、学校図書です。文字が読みやすく、とてもきれいだと思いました。最後に、見方・考え方をまとめている「考え方モンスター」がとてもわかりやすい。専門ではないので分かりませんが、2年生上の足し算の進め方や2年生の九九の表づくりが丁寧だと思いました。2年生から数字を使って数学を生活に生かす方法を学ばせていますし、3年生でも「生き物について考えよう」、それから、プログラミングも同様に数学を生活に生かす工夫がなされていると思いました。

もう一つ、第2候補として啓林館です。余計なことはなくて、数学に関する考え方、密度が非常に濃いと思いました。3年の上の考え方、進め方、考え方見方を深めようは、より応用した考え方をさせているように思いました。5年生以降は少し見方・考え方を深めようで、実際に紙を折りながら、どんな計算になるか考えさせたり、自由研究では自分たちが計算式を作っていくなど数学的な深い考え方に結びついているということ、それから先ほど申し上げた、6年生のデータ整理の活用の所では、分かりやすいことから難しい内容に、丁寧に結びつけてくださっていると思いました。

藤本委員

1年生から考えると、1年生は数図ブロックを机の上に7つ並べて出して、1列に並べるとすると、読むのが大変なんです。だから5つを2列にしているのです。視覚として見やすい。啓林館以外は0から始めている。0は自然数ではない。1、2、3、4…から始まって100が最後にきちんと収まる。そういうゲームでも、0点だったよという身近な感覚から始める。これはインドで初めて0という表し方をしたのです。それぐらい0は難しい数である。それを各社とも0から始めて100は見えていただいたら分かるように、3桁で表に付けている。それはやはり違うのではないかと。1、2、3は自然数だが、

0は整数だが自然数ではない。

3年生で違うのは、1メートルをはしたの数で習って、小数、分数を習っていくのですが、これをどちらから先に習わせるかということですが、なぜ、啓林館と教育出版は分数から始めているのか。そこに問題がある。3年生というのは小数第1位までしか習いません。3分の1は0.333…ですから、はしたの数では表せない。ですから、分数ではしたの数を表して、表わせないのは何かというとルートがついた無理数しかない。あと、無理数以外の有理数は全て分数で表すことができる。だから数学的に言うと、必ず分数から始まって、数直線の部分が埋まるところまでいく。埋まっていないのが無理数。そして、その特別なところに10分の1、1を10に分けた1個分が小数0.1だよと教える。特別の場合は小数だよと教える部分が大切。だから分数から入って小数を教える。

5年生の平行四辺形について、各社は横にずらして長方形にして、それを半分にして三角形の面積を教える。4年生で対角線を習う。平行四辺形を対角線で切った場合、三角形が2つ、合同な三角形ができる。そうしたときに、三角形の面積を2倍すれば平行四辺形の面積が求められる。いつも戻るのは、三角形があって、四角形があって、五角形の面積が求められる。三角形の面積を基準としなければならないのに、四角形から求めている。なぜかという、先ほども言いました小数もそうですが、子供たちは計算がしやすい。十進位取り記数法といって、その計算がやりやすいから小数から入っている。我々数学の者としては、ちょっとおかしい。6年生の順列組み合わせのとき、必ず順列から入る。高等学校での公式で順列、パーミュテーションを習って、そして組み合わせ、コンビネーションを習う。それは、コンビネーションを習う際にパーミュテーションの公式を使うから、高等学校では順列を習ってから組み合わせを習う。小学校、中学校は組み合わせの数が少ないものが子供たちにとって計算しやすいのは当たり前。ですから、組み合わせをやってから前半と後半に分ける、第1走者と第2走者に分けるといつて、それを入れ替えて教えていく。こういったことを考えると、私の感覚からいけば、啓林館以外の教科書は受け入れ難い。1番目に啓林館。2番目については、先ほどから述べさせていただいていることを考えると教育出版を候補とします。

阿形教育長

算数嫌いをつくらない。各社を見ると、啓林館がいいと思ってるのですが。生活に根ざしている。絵だけで結構なページになっている。あと、数の合成概念を大事にしている。割合が出てましたが、どこも大切にしている。特に啓林館は割合を意識している。教科書の表紙や裏表紙がとても楽しそう。いろんな意味で考えられている。啓林館が1番、2番目は東京書籍が使いやすいが、でもちょっと難しい。でも、2番手に入れたら東京書籍。

啓林館ともう1社とするなら、どうしましょうか。藤本委員は数学のご専門です。6社ありますが、教育出版を残しましょうか。東京書籍も紙面的にもよく作られている。皆さんの推薦の数から言ったら東京書籍ですので、啓林館と東京書籍を残します。

では、本市の子供たちのためにより適切な教科書という観点で、改めて後日の採択決議会で採択したいと考えます。ありがとうございました。

それでは、これで令和6年度に和歌山市立小学校及び義務教育学校前期課程で使用する教科用図書採択のための審議を終了します。事務局から事務連絡等ありますか。

竹内教育研究所長

次回、第3回採択審議についてご連絡いたします。第3回は、7月27日木曜日、18時からです。審議教科は、書写、図画工作、社会、生活、理科です。よろしく願いいたします。

第3回 教育委員会の教科用図書採択に係る会議

書写、図画工作、社会、生活、理科

会議録

1 日時

令和5年7月27日(木) 会議開始時刻18:00 会議終了時刻20:40

2 会場

教育文化センター 2階 会議室

3 出席者

○教育委員

教育長	阿形 博司
教育長職務代行者	藤本 禎男
委員	森崎 陽子
委員	波床 昌則
委員	石元 和代

○教科用図書採択事務局

事務局長	利根 功一	(教育局長)
事務局次長	前北 博文	(学校教育部長)
事務担当課長	岩本 信哉	(学校支援課長)
	西谷 宣昭	(学校教育課長)
	竹内 圭	(教育研究所長)
事務局員	岩崎 朝蔵	(教育研究所専門教育員)

○選定委員

選定委員	岩西 啓子
選定委員	宮本 信吾
選定委員	市川 圭造
選定委員	塩谷 通功
選定委員	坂本 雅城

4 議事

阿形教育長

それでは、議案第19号について説明をお願いします。

利根事務局長

これより、令和6年度に和歌山市立小学校及び義務教育学校前期課程で使用する教科用図書採択のための臨時教育委員会 第3回採択審議をお願いいたしたく存じます。本日も、本市の子供たちにとって最も適切な教科書を採択するためのご審議をお願いいたします。それでは、これより事務局説明を、教育研究所長 竹内に行かせます。

竹内教育研究所長

本日の採択会議日程について、ご説明を申し上げます。これより、書写、図画工作、社会、生活、理科の順にご審議をいただきます。ご答申は、選定委員から教科・種目ごとに、1社ずつ行っていただきます。そのあと、質疑応答のお時間を設けたいと存じます。質疑応答が済み次第、選定委員には退出していただきます。選定委員の退出後、教育委員の皆様にはご審議をお願いいたします。

書写

竹内教育研究所長

はじめは、書写の答申及び答申資料のご説明をいただきます。書写は、東京書籍、教育出版、光村図書です。委員の皆様は、お手元の答申資料をご覧ください。ご答申は、岩西選定委員をお願いいたします。それでは、教育長よろしくをお願いいたします。

阿形教育長

岩西選定委員、書写の答申及び答申資料のご説明を、東京書籍から順をお願いいたします。

岩西選定委員

選定委員の岩西です。これより「書写」の答申をいたします。書写の答申は3社ございます。選定委員として調査・審議し、まとめた内容を1社ずつ申し上げます。まず、東京書籍から説明させていただきます。

(東京書籍)

答申

課題解決型の学習過程や話し合い活動を通して書く力を育み、学びを生活や他教科に広げることができるように企図した教科書である。左右の利き手に対応出来るように配慮し、重要ポイントを押さえた内容と理解しやすい紙面構成で、支援を必要とする児童へのきめ細かな工夫が見られる。

3年生32、33ページをご覧ください。全学年を通し「書写のかぎ」をキーワードとして学習のポイントを示しています。学習の進め方は、①硬筆で「書写のかぎ」を発見し課題を共有する。②毛筆で大きく書くことで確認する。③硬筆で別の文字を書くことで定着を図る。④振り返る。自己評価をする。書写で学んだことを普段の生活や他教科の学習に広げる。という展開で、毛筆で使用する学習が硬筆で書く力の基礎となるように構成しています。①「見つけよう」の学習場面に話し合いマークがあり、話し合う活動が設定されています。低学年の自己評価は「わかった」の1項目、3年生以上は「考えた、分かった、書けた」の3項目で達成感を得られるように工夫しています。1年生4ページから7ページをご覧ください。鉛筆の持ち方や手の置き方が実物大で左右両方の利き手の写真が掲載されています。3年生からは左利きの児童への毛筆用具の置き方も示しています。1年生12、13ページをご覧ください。硬筆の練習では教材文字と書き込み欄を上下に配置して左手で教材文字が隠れないように配慮しています。見開きページに同じ学習過程は同じ場所に配置され、支援を必要

とする児童にも理解しやすい紙面構成になっています。1年生41ページをご覧ください。「三つ。ミシン」のように各学年、児童にありがちな課題のある例を出発点にすることで学びを自分事として捉えられるように工夫しています。「学びを生かそう」では1年間の学習をまとめ、はがきや手紙などの書き方や作品作りなどがあります。「生活に広げよう」ではノートや新聞など他教科や学校生活に生かせるように、「文字といっしょに」では国語科との関連教材や文字文化に触れ、伝統や文化を学ぶことができるように工夫しています。書写体操は歌付きの動画を見ることができ、楽しく体操ができます。

(教育出版)

答申

学習の流れが明確に示され、課題解決に向けて考える力や書いて伝え合う力を育めるように構成されている。書き方のこつや伝え合う楽しさを知り、習得した書写力を学校生活や学習活動に生かせるように関連教材を工夫している。

3年生28、29ページをご覧ください。学習の進め方は、①硬筆や毛筆で試し書きをしよう。めあてにそった文字の書き方を知ろう。試し書きと教科書の文字を比べて気を付けることを見つけよう。②めあてに気を付けているか確かめながら練習しよう。③まとめ書きをして試し書きと比べよう。めあてに気を付けて書けたか友達と伝え合おう。④学習した書き方をほかの文字にも生かそう。というように学習の流れが明確に記載されているので主体的に学ぶことができます。「試し書き」と「まとめ書き」を比べることで自分の課題が解決したところを伝え合い、友達の変容を認め合う活動を大切にしています。全学年「よくできた。できた。もう少し」の3段階評価で自己評価をすることができます。3年生14、15ページをご覧ください。筆の穂先の向きが理解しやすいように時計の針に例えたイラストや筆使いをクイズ形式にするなどして、理解しやすいように工夫しています。また、3年生11ページでは筆圧と線の太さの関係を写真や音の表記を使って分かりやすく説明しています。各学年の「レッツ・トライ」や「書いて伝え合おう」では、縦書きや横書きの教材をバランスよく配置してほかの学習や生活の中で生かせるように工夫した内容となっています。「知っておこう」では手紙や封筒の書き方、季節のあいさつなどが掲載されています。「学習のまとめ」では、既習してきたことの中からめあてを選んで書く活動を取り入れています。1年生6、7ページをご覧ください。鉛筆と箸の持ち方を比べることで共通点と相違点が理解しやすいように工夫しています。動画「えんぴつのもちかたのあいことば」は、楽しく正しい鉛筆の持ち方ができるように工夫しています。

(光村図書)

答申

児童が主体的に課題発見・課題解決ができるように学習の流れを明確にし、場面や状況に応じて適切に書く能力を育めるように設定している。ネコのキャラクターでポイントを分かりやすく示して基礎・基本を身に付けさせるとともに、楽しく学習できるように工夫している。

3年生38、39ページをご覧ください。学習の進め方は、①整った文字を書くための決まりを見つけよう。②書き方を確かめて毛筆で書こう。③学習したことを生かして書こう。という学習構成で主体

的に学べるようになっていきます。話し合い活動は、①の決まりを見つけたり②の書いた文字を確かめたりする場面で設定されています。自己評価は、「ふり返ろう」で本時のねらいに気を付けて書いたかをチェックするようになっていきます。1年生8、9ページ、3年生8ページをご覧ください。鉛筆や筆の持ち方、ひじの動かし方などをアップの写真やイラストで分かりやすく説明しています。左右の利き手の持ち方や用具の置き方は、動画で見ることができます。硬筆の練習では左手で文字が隠れないように縦にマス目を配置し、シンプルで分かりやすいレイアウトで支援が必要な児童にとっても学びやすい紙面です。6年生20ページではユニバーサルデザインの筆記具を掲載しています。3年生12ページをご覧ください。空書きの写真に掲載し、穂先の向きや書くときの動きを体感できるようにしています。空書きは1年生48ページにも掲載しています。4年生の「SDGsブック」では書写学習を通して理解を深めることができるように工夫しています。5年生12ページ「手書きの力」は、東日本大震災の翌日に新聞社が発行した壁新聞が掲載されており、手書き文字には活字とは別の力があることを感じられます。各学年の「書写広げたい」では原稿用紙の書き方や5年生の英語で書いてみようなど、学習したことをほかの教科に生かせるように構成しています。「もっと知りたい」では文字への興味関心を高め、「ことば」では国語科と関連した教材を扱い、書いて味わうことができます。書写体操と整理体操で書くための体づくりの動画を見ることができます。以上で書写の説明を終わります。

阿形教育長

ご報告いただいた内容について、質問等ありましたらお願いします。

ないようですので、岩西選定委員にはご退出いただきます。ありがとうございました。

阿形教育長

教科書展示会において、書写についての何か意見はございましたか。

竹内教育研究所長

書写についてのご意見は、ございませんでした。

阿形教育長

それでは書写の審議に入りたいと思います。ご意見ございましたら、よろしくお願いします。

波床委員

3社ともよく出来ていて、甲乙付け難いような気がするんですけども、文字に対する興味・関心を抱かせることとあわせて、美しい硬筆とか毛筆、こういった文字を書けるように練習する教材、プラスして、実用的な日常生活でも学んだ事を生かせるように、そういった観点を見たときに、今回の中でベターなのは、光村図書だと思います。ほかの教科書も見劣りするというわけではありませんが、シンプルさという観点から見たら、光村図書が1番シンプルで訴えかけるのが直線的な気がする。東京書籍もよく出来ていますが、盛り沢山の気がして、もう少し単純明快でも書写の場合は良いのかと思います。教育出版社もよく出来ていますが、やはり光村図書のほうがシンプルさでいうと、直線的で分かりやすいのかと。そういう意味で、光村図書を推薦させていただきます。

石元委員

私も3社とも、よく似ていると思いました。特に毛筆のところは、注意されているところも本当に似ていて、甲乙付け難かったのですが、東京書籍が気になりました。1年生の教科書では「鉛筆の持ち方」や、「美しい文字の書き方」や、「姿勢」など丁寧に説明されているという事と、あと練習のページが充分あり、書き込みして繰り返し練習するスペースがたくさんあるというところ。あと6年生の教科書では、分かりやすく伝える書き方を紹介して、実際に社会や理科等でポスターづくりをするのですが、その際の学習にもつながるようになっていて感じました。また、写真やイラスト、豊富なデザインのレイアウトも子供たちの興味をひいて、意欲的に取り組んでくれそうだと思います。東京書籍がいいなと感じました。

森崎委員

いろいろと見せていただいて、すごく分かりやすく、そして「書」に対する専門的知識もたくさん載せてあり、甲乙付け難いと感じました。私も東京書籍がいいのかなと思います。石元委員に加えまして、私は毛筆であれば「トン・タン・トン」という音、それから書き始めに「トン・タン・ピタ」等の、私自身毛筆の手入れをするのですが、私はリズムが大事であると考えていまして、そこを丁寧に扱っている東京書籍のほうを推薦させてもらいたいです。

藤本委員

委員が言われるように3社とも素晴らしい、本当にどれが選ばれてもと思ったのですが、光村図書の場合、国語もそうだったのですが、上のところにローマ字が3年生であって、下のほうには光村図書は載っていない。学習指導要領では3年生では必ずローマ字を習い、キーボードを打てるようなかたちになっている、少し載せている量が少ないと感じました。今回、光村図書の3年生のローマ字の指導、26ページを見ると、訓令式のローマ字は載っているがヘボン式が載っていない。訓令式よりもヘボン式のほうが多い。C・H・Iなど少し懸念される。なぜか分からないが、訓令式しか載っていないところが懸念される。あとの2社はヘボン式でも載っていました。残念だと思ったのが、1年生の3ページ「文字たんけん」というところで、挿入写真の札幌市立星奥東小学校のところ、校長室、体育館、教室、その小学校だと考えられるが、その学校の校長先生が著者になっているわけなんです。一番後ろのページを見てください。札幌市立星奥東小学校の著者が、自分のところを撮ってもいいが、著者が校名を出すということは、それはどうなのかと思ったんですけども、県立の美術館等、そんなのだったらいいが、今回はそういったところに懸念があります。東京書籍の「自分の課題」、6年生ですが、岩西選定委員も言ってくれたが、6年生の20ページや用紙に合った文字の大きさ、「アイウエ…」というところで、良い例と良くない例を表して、自分で課題をもって、どこが悪いのか、どこがいいのか、そういったところを鑑賞して、どこの部分がいいのかやってから、自分の「めあて」を持って、一度書いてみようというところに、1年から6年まで徹底した問題解決学習がされているなど。懸念されるところは、盛り沢山の部分がある、30単位時間しかない部分、多いかなと思ったが、東京書籍を選ばせていただきました。以上です。

阿形教育長

私も東京書籍がいいなと思っています。理由としては、書くところがたくさんあって、説明も「とめ・

はらい」など、かなり丁寧です。横書きを使っている。皆さんおっしゃるとおり、1年生から6年生の統一性の問題とか流れがある。若干、盛り沢山ではあるが、丁寧なのかなと思い、私も東京書籍を推させていただきます。ほかに付け足し等ございますでしょうか。

それでは東京書籍を推される委員が多いので、書写につきましては、東京書籍を選定させてもらいます。

図画工作科

竹内教育研究所長

図画工作の答申及び答申資料のご説明をいただきます。図画工作科は、開隆堂、日本文教出版です。委員の皆様は、お手元の答申資料をご覧ください。ご答申は宮本選定委員にお願いいたします。それでは、教育長よろしくお願いたします。

阿形教育長

宮本選定委員、図画工作の答申及び答申資料のご説明を、開隆堂から順にお願いいたします。

宮本選定委員

選定委員の宮本です。図画工作の答申をいたします。図画工作は、2社ございます。選定委員会として調査・審議し、まとめた内容を、1社ずつ申し上げます。

(開隆堂)

答申

「やってみたい」気持ちを大切に、児童にとって楽しく、興味や関心の高まる題材をそろえた教科書である。各題材の左下についている二次元コードから見られる動画は、題材の導入・オリエンテーションが短時間で分かりやすく、制作意欲をかきたてるように示され、学習のねらいが方向づけられるように工夫されている。この動画からの導入はとても有効であると考えられる。また、児童の作品数も多く、教科書に掲載されている作品を見ているだけで制作意欲が湧いてくるように工夫されている。

特に特徴のあるところを読み上げます。造形感覚や感性を働かせ、自主性や積極性を促す、児童にとって楽しく、興味・関心の高まる魅力ある題材をそろえ、個性や創造性、自己肯定感を培うよう配慮されている。各学年の教科書の題字は、小枝や毛糸・モール、貝がら・紙粘土等、図画工作の材料になるようなもので描かれていて、見ているだけでも楽しくなる表紙になっている。また、目次の横には、それぞれの題材の活動風景が写真で紹介されており、目次を眺めるだけでも各題材への興味・関心が高まるように工夫されている。各学年の「造形あそび」を扱った題材のめあては、「知識及び技能」については、あえて明確に示さず、あいまいな表記になっていた。これは、造形表現を「色」や「形」「イメージ」といった学習指導要領の「共通事項」に示されているものだけに留めず、子供の活動の中から生まれてくる興味や関心を尊重し、造形活動の広がりを意識した題材設定になっているからだと考えます。一人

一台端末も用具の一つととらえ、学年に合った内容で「タブレットたんまつを使おう」のページが設定され、子供が自主的、主体的に学習できるように工夫されている。以上のことを、もう少し短い文章で申しますと、開隆堂の教科書は「子供の造形への興味・関心を高め、主体的な活動を尊重し、造形活動の拡がりを応援する」教科書だと言えます。

(日本文教出版)

答申

作品をつくるための力を育てるのではなく、つくることや見ること、感じたことを伝え合うこと等を通して、多様な考えを尊重し、創造する力を育むことを大切にしている教科書である。各題材は、「ものの動き」や「形や色のおもしろさや美しさ」等から、発想の手がかりとなる「視点」が紹介されており、さらに構想段階での考えや作品鑑賞の視点などを、時間の流れとともに、写真と吟味された吹き出しで表している。教科書を使って導入したり、学習計画を立てたりすることを十分意識したレイアウトになっている。

図画工作の領域である「表現」と「鑑賞」が一体的に学習できるように、題材の配列が工夫されている。また、「共通事項」に示された「色」「形」「イメージ」を教科書全体で取り扱うとともに、活動と共通事項が結びつけられるように、「活動のヒント」や「鑑賞のヒント」が設けられている。図画工作では、創造的な発想を促す方法、学習のスタートの方法として、「これで、何ができるかな」これは表現1、主に造形遊びでされるスタートの方法と、「これになるように何をつかおうかな」。これは表現2、主に絵や立体・工作のときに使うスタートの方法です。二つの学習展開によって、つけたい力が全く違ってくるといわれている。掲載されている題材がこの二つ方法のいずれかであることがはっきりと識別できるため、学習のねらいがぶれる活動が生まれにくいことが予想される。さらに教科書の題材名の下のリード文で、学習のスタートの仕方、単元を通して大切にしたいこと等が示されているため、ねらいが焦点化され、本題材でつけたい力を確実に育成できるようになっている。各学年、表現したい主題がよく分かり、発達段階に即した子供らしい作品が掲載されています。また、各学年の最初のページには、保護者向けに図画工作科の目標や学習活動への理解や協力をお願いしたりしているのも本教科書の特徴である。日本文教出版の教科書をもう少し短い文章で申しますと、「共通事項で示された色形イメージとかわかり、図工科の特性を生かして、大切にしたい学びを実現することをめざした」教科書と言えます。以上、図画工作2社の答申です。

阿形教育長

ありがとうございました。ただいま宮本委員からご報告いただいた内容について、ご質問等ございましたらお願いします。

ないようですので、宮本選定委員にはご退出いただきます。

阿形教育長

それでは事務局に伺いますが、教科書展示会で図画工作についての意見はございましたか。

竹内教育研究所長

図画工作についての意見はございませんでした。

阿形教育長

それでは、図画工作についての審議に入りたいと思います。委員の先生方、それぞれお調べになったことやお考えになったことをお出しいただき、ご審議ください。

藤本委員

宮本選定委員のおっしゃられたとおり、両方とも非常に素晴らしい内容だなと思っております。ただ、1・2年生の上を見させてもらうと、幼稚園などとの連携、接続をものすごく考えているなというのが、日本文教出版だったので、そこは素晴らしいなと思いました。それで、内容的にも文字が少なく、大きな写真・イラストがあるので、児童たちにとってはいいんじゃないかなと思いました。それと、評価のことでですけど、宮本選定委員がおっしゃられたように観点別評価の3観点の部分ですけど、表現と鑑賞というのが一体に学習はしているんですけども、3観点を5つの項目に分けて評価している。というのは、知識と技能を分けている。それから思考・判断・表現のときに表現と鑑賞を各学年とも分けて設定している。こういった意味で、日本文教出版のほうがいいのではないかなと思いました。それと、小・中・高の連携というのを考えたらいいのではないかなということで、私は日本文教出版を推させていただきます。以上です。

森崎委員

私はちょっと差を感じたということです。候補としては日本文教出版のほうが1・2年の上では、「かみをやぶいて」や、「すなやつちとなかよし」等、すごく大胆で、そして図工の見方、画像が一人一台端末ですごく大きく見えるんですね。これは驚きました。また、面白いなと思ったのは、「こころすっきりたいそう」や「ぼーっとするたいそう」等の発想や想像を豊かにするような、そういう工夫もされている。それから下のほうでは、体で付ける色・形という全身でアートを感じる、そのページレイアウトも素敵だなと思いました。3年生は、銑鉄の作品を入れて、これもすばらしい本物を見せてくださっている。正しく、表現と鑑賞ともに、子供たちの心を促して、そして、表現に対して意欲的に取り組めるような、感性を豊かにしてくれるような教科書だなと思いました。以上です。

波床委員

私も日本文教出版がいいと思うのですが、ちょっと脇道に入ったようなことを申し上げますと、先日、川端龍子賞の時に選考委員長が、講評として選考理由を述べられた際に、「図工や美術、書道などといった教科については、これまで副教科として位置づけられてきて、主教科との間で、どうも教育上差があるのではないかと、しかし、この在り方というのは、総合的な人間力をつけるということを考えたときに、非常に問題があるんだ。」というご指摘をなさって、私は発言をお聞きしていて、改めてそうだなと思ったんです。そういう意味合いで、主教科は知性を開花させる教育っていうんですかね、そういう力点があるとしたら、こういった図画工作なんかは豊かな情操力を育て、それで主教科では達成できないような人間力を補完していくという、そういう位置付けになるのかなと思いました。そういう意味合いで、児童が図画工作を学んで、今後、人間力を総合的に高めていく、そのきっかけとして小学校で図画工作

を勉強するとしたら、まず大事なのは、児童が楽しみながら創造性を開花させる。その工夫がどれだけなされているかということ。それから、自分の創造力、創造性の開花だけではなくて、ほかの児童の創作物に対する鑑賞力とか、あるいは世間一般に美術館だとか博物館にあるような創造物の鑑賞力を高めていくことも併せて必要となってくる、そう思いました。それで、そういうようなことを頭に置きながら2社を比べてみますと、日本文教出版のほうが、ややそういう観点からすると、勝っているのではないかと思います。例えば1・2年生の下の18ページの「わっかでへんしん」というのは、非常に楽しみながら自分の創造性を開花させるにはいいアクティビティなのではと思いますし、それから鑑賞力を高めるという意味合いでは、選定委員もご指摘になっておられましたけれども、5年生・6年生の上の6ページ、感じたことを伝え合うとか、あるいは56ページの「美術館に行こう」、「友だちと作品を見て話そう」というページを見ますと、やはり鑑賞力を高めて、かつほかの児童たちにも意見を聞いて、お互い伝え合って、それで自分たちの鑑賞力を自覚的なものとして、それで刺激を受けようという視点で貫かれておりますので、そういう意味合いで前半述べました総合的な人間力を育てる情操を育むという観点では、やや日本文教出版のほうが勝っているのではないかと考えた次第です。

石元委員

私は図画工作という教科は子供たちの創造性を引き出して、自由な発想や表現力を育成するための内容になっている教科書が良いと思い、2社を比較してみました。1年生の教科書では、色水づくりや、大きな紙に絵具を使い大胆に自分を表現して、子供たちがやってみたい、楽しみながらスキルを身につけることができそうです。また、3・4年生では彫刻刀や釘の使い方など子供目線で技術や手順を分かりやすく解説されています。また、全学年を通して廃材や家庭にあるもの、身近なもので工作ができるようなヒントがあり、持続可能性とリサイクルの考えが取り入れられていていいと思います。このようなことを総合的に見て、日本文教出版が良いと感じました。

阿形教育長

ありがとうございます。なかなか甲乙付け難いと思いました。例えば、開隆堂でしたら、写真が大変素敵ですし、子供の活用が分かりやすい、さらに、レイアウトが結構統一されていて使いやすいものではないか、表紙のデザイン、題名も含めていろいろと工夫されているのではないかと思います。また、日本文教出版はこれも先ほどおっしゃってましたけれども、やっぱり幼・小のつなぎ等が大変丁寧かと、最初、1年でどんなことを、一番最初どんなこと好きになったかなという幼稚園、保育園の活動を想起できますし、それから写真も指先を写しているのも割と多くて、丁寧さがあるのかなと思いました。活動内容が多く掲載してくれているので、どのような支援が必要だったか、そんなことも詳しいのかなと、本当に甲乙付け難いと思うのですが、私も日本文教出版のほうがいいかなと思います。

ほかに特にございませんか。皆さん日本文教出版のほうを選んでいただいているように思いますので、日本文教出版を選定させていただきます。

社会科

竹内教育研究所長

社会科の答申及び答申資料のご説明をいただきます。社会科は、東京書籍、教育出版、日本文教出版

です。委員の皆様は、お手元の答申資料をご覧ください。ご答申は市川選定委員にお願いいたします。それでは、教育長よろしくお願いいたします。

阿形教育長

市川選定委員、社会科の答申及び答申資料のご説明を、東京書籍から順にお願いいたします。

市川選定委員

選定委員の市川です。社会科の答申をいたします。社会科は、3社ございます。選定委員会として調査・審議し、まとめた内容を、1社ずつ申し上げます。

(東京書籍)

答申

4段階の学習のすすめ方を通して問題解決に至る学習過程が提示されている。また、児童が社会的な見方・考え方を働かせることができるポイントをキャラクターが示している。イラストや写真・図表がバランスよく配置され、色使いも美しく、見やすい紙面になっている。

内容を具体的に説明いたします。まず人権についてです。6年生歴史編82ページに江戸時代の身分ごとの人口の割合のグラフで、「百姓や町人とは別に、身分上厳しくされた人々」を示しています。83ページでは「厳しく差別されてきた人々」についてページの下部に囲みで記述し、「身分」ということばについて丁寧に説明しています。和歌山の地域教材は、6年生歴史編116、117ページに「ノルマントン号事件」「エルトゥール号の遭難」、4年生90ページの「地震から暮らしを守る」では和歌山県と和歌山市の取組を見開きの2ページで紹介するなど地域の教材を掲載しています。学習での活用的一面から見ますと、例えば、4年生34ページをご覧ください。「つかむ」として児童の生活を想起させ、35ページでさらに上水道の学習での学習問題づくりをさせています。学習問題を解決するために「調べる」のページ38ページから45ページまで学習をすすめ、46ページ「まとめる」48ページ「いかす」で発展的・体験的な学習を促しています。最後に、全体的に見て、写真やイラストがバランスよく配置され、児童が興味をもって学び進めることができるよう配慮している教科書であるということが言えます。また、5、6年生については分冊になり、児童にとっては扱いやすいです。以上が東京書籍です。

(教育出版)

答申

「この時間の問い」が示され問題解決に至る一貫した学習過程を重視している。単元の導入では、大きく見やすいイラストや写真・図表を示し、児童が興味・関心をもつことができるように工夫している。選択教材や発展教材が掲載され、地域・学校の状況に応じて活用することができる教科書である。

内容を具体的に説明いたします。人権問題の記述について説明します。6年教科書146ページには

江戸時代の身分ごとの人口の割合のグラフで「公家・僧・神官、百姓・町人とは別の身分とされた人々など」とまとめて示しています。ほかの会社は「百姓や町人とは別に、身分上厳しく差別されてきた人々」などとして、「公家・僧・神官」などとは別に示しています。194ページ日露戦争後の日本と世界のなかで、日本人の間には、朝鮮や中国の人々を下に見る意識がしだいに広がっていきました。と記述されています。地域教材は、6年生の184ページに条約改正に関連して、「ノルマントン号事件」、「エルトゥール号の遭難」、「陸奥宗光」を4ページにわたり紹介し、203ページで発展教材として「南方熊楠」を紹介するなど和歌山の地域教材を掲載しています。学習での活用の面から見ますと、例えば、4年生18ページを開くとページの左側に「つかむ」「調べる」「まとめる」というようにタブで問題解決の筋道を示しています。3・4年生の教科書では「この時間の問い」に対して毎時間、学習活動を3段階で示し、見通しをもって学習ができるようにしています。また、1時間の最後には「次につなげよう」という問いかけがあり、学習を次時につなげることができるように促しています。以上が教育出版です。

(日本文教出版)

答申

児童の問いから始まり、調べ、解決し、まとめ、生活に生かすという社会科の問題解決学習の学習過程が示された教科書である。また、児童の交流場面を随所に示し、対話的な学びを促している。和歌山の地域教材が多く採用され、児童が親しみをもって活用できる教科書である。

内容を具体的に説明いたします。まずに人権についてです。6年生142、143ページには江戸時代の身分差別について、「幕府は、百姓や町人などに対しては、身分のちがいをもとに支配をかためたんだね。」という記述があり、武士の支配のために都合のよい制度だったことが述べられています。また、173ページには「解放令」の記述があり、自ら解放を求める運動が各地で行われてきたことを記載しています。和歌山の地域教材を多く記載しています。6年生の258ページでは「エルトゥール号の遭難」について後日談も含め2ページにわたり詳しく説明しています。4年生106ページから「津波による災害」として、濱口悟稜と和歌山県の取組を6ページにわたり紹介、また156ページには「自然を守る運動」として南方熊楠を4ページにわたり紹介し、159ページでは華岡青洲、川端龍子も同時に取り上げています。また、5年生では112ページから「くだもの作りのさかんな和歌山県」として有田のみかん作りを4ページにわたって取り上げています。学習での活用という観点で、5年生92ページ水産業で説明します。児童の問いから学習問題の設定、学習計画を立てる過程が記述されています。続いて94ページから問題の追究である調べ学習の内容を、100ページから学習内容を深める内容を、105ページにはまとめ伝える内容を記載しています。このように児童が見通しをもって主体的に学ぶことができる問題解決の流れを大切にされた教科書です。以上が日本文教出版です。

阿形教育長

報告いただいた内容について、質問等ありましたらお願いします。

藤本委員

6年生を重点的に見たんですけども、6年生の教育出版と日本文教出版が政治の部分から入っているの、それから後に歴史ということになっていますけれども、歴史と国際編を分けているんですけども、教える先生方にとってどちらのほうが使いやすいとかあるのかなと思うんですが、メリットとかデメリットとかあれば教えていただきたいんですけども。

市川選定委員

現在はどの学校も政治からやっております。東京書籍であれば、政治・国際からやっています。2冊に分冊しているのは、以前であれば、かなり分厚いですよね。ランドセルに入れたときに重いと思いますが、現在どの学校も社会科については、学校に置いているという習慣がついていると思います。重さということでは、問題は特にないとは思いますが、もちろん薄いほうが扱いやすい、馴染みやすいというのがありますが、その分冊が大きな影響があるとは私は思いません。

藤本委員

東京書籍でやっていて、政治をやっていて、もしかしたら歴史に戻るとか、融合するとかはないと考えていいですか。要するに一つの教科書だったら政治をやっても、「ここだよ」と憲法ができたころの時代に戻れますよね。でも、こっちだったら歴史編を持たないで、こっち先にやるよと片方だけを持ってくる。すると児童がほかの時代に戻れないということがありますよね。

市川選定委員

そこは 教員が意識していれば学校へ置いておりますから。

阿形教育長

教室の後ろに取りに行ったりとかありますよね。

森崎委員

東京書籍のほうは「まとめる」と言って、5年上からは児童自身が記入する欄があります。社会の場合は別にノートを作っているのでしょうか。

市川選定委員

そうですね。全員ノートは持っております。教科書は今までもそのような形で、「まとめる」みたいなところはありましたが、ほとんど教科書に書き込むということはしません。地域教材を特に、中学年は使うことが多いので、教科書そのままと言うわけにはいかないの、こういうようなことを子供に問うて、こういう書き方をさせると、参考にするというのはあると思います。また、教師が参考にしてプリントにしたり、ノートに書くようにしたりというような形をとります。

波床委員

新しい指導要領ですと、社会科については、暗記が中心の教え方から、考えさせるといいますか、問題発見をしたり、応用させたり、そういうふうに舵が取られているわけですけども、この3社を見比べたときに、そういう目的から見た3社の特色、何か差がありますでしょうか。

市川選定委員

東京書籍と日本文教出版については、同じように問題解決の流れを大まかに示しながらやっています。教育出版については、より丁寧です。1時間の中で、次にこう示していると示されているので、使いやすいといえば使いやすい。教科書を使った学習はしやすいです。ただ先ほども申しましたように、中学年というのは、地域教材を使いますので、教員が教材開発をしなければならない。子供もそれに対応しないといけないので、問題解決の筋道をきっちり示している教科書のほうが適切だと思います。一つ一つ丁寧に学習するものよりも。

森崎委員

3年の時には和歌山市のこと。4年には和歌山県のことをされる。その副教材を使われるということですか。

市川選定委員

3年生の副教材は、和歌山市については、教育委員会で予算立てをしていただいて、全員に無償で配っております。和歌山市には小学校社会科教育研究会というものがあまして、そこで作って、3年生に無償で配っています。県のほうは和歌山県社会科研究会が作成し、有償で配っています。

森崎委員

では、教科書はほとんど使われないのですか。

市川選定委員

3年であれば、教科の導入の時期ですので、地図記号であるとか、地図の見方であるとかでは使います。4年生はもうちょっと広い範囲でいろんなものを見ていくところがあるので、副読本と同時に使っていきます。5年、6年ほどは使いませんがという感じです。

阿形教育長

ほかに質問はございませんか。それでは、市川選定委員にはご退出いただきます。

社会科の審議に入る前に事務局に伺います。教科書展示会において社会科について意見はありましたか。

竹内教育研究所長

4件のご意見がありました。資料4「令和5年度教科書展示会に関するアンケート結果」の1ページ、5、6ページ、10ページ、13ページのご意見です。

阿形教育長

それでは、社会科の審議に入ります。委員お一人お一人がお調べくださったことやお考えになったことをお出しいただき、ご審議ください。

波床委員

結論的には東京書籍がいいのではないかと考えております。理由は、教育手法が明確で一貫しているという点が強く出ているのが東京書籍で、例えば、学びのポイントを設定した上で、「つかむ」「調べる」「まとめる」「広げる」という観点で一貫している。先ほど選定委員からも一つの単元を念頭において丁寧に説明があったように、これらの観点が具体的に十分展開されて、考えられている教科書であると思います。見やすさ、読みやすさという点においても東京書籍がなかなかよくできているのではないかと思います。それから6年生が政治国際と歴史に分冊されているという点については、分冊されているということを積極的に評価していいのかなと考えています。双方の連関を考えさせるというのであれば、教員が児童に指示をして両方の教科書を持って来させればいいのではないかと思いますし、内容的に6年の教科書のレベルということであれば、東京書籍はほかの2社よりかなりよくできている、際立っているように思います。東京書籍は地図帳も発行しておりますので、そういう意味合いでも仮に東京書籍が選定されるのであれば、地図の利用という観点でのメリットも生まれうるのではないかなと考えております。教育出版も教育手法という観点からすると東京書籍と同じ手法が一貫しております、新しい指導要領に沿った暗記科目からの脱却といいますが、問題を発見して考えて発表するというそういう能力を育てるという点ではよくできた教科書だと思います。ただちょっと、東京書籍と教育出版を比べた場合に、まとめるという非常に大事な箇所が東京書籍ほど充実していないのかなと思います。日本文教出版のほうは、6年生でも漢字のルビが多用されていて、却って読みにくくなっているのではないかと感じさせる所がありました。以上です。

石元委員

私は日本文教出版が良いように感じました。社会は社会の問題に対して適切な知識を学ぶ、日本や世界の歴史や文化を学ぶ大切な科目だと思いますが、子供たちがより興味を持ちやすく自然に学習に参加できるようにされている教科書が良いと思いました。教科書の写真や文字のバランスがちょうど良いということと、社会の学習の進め方や教科書の使い方が丁寧に記されているという点と、各テーマごとにキャラクターが問題提起をして何を学ばよいか考えさせたり、二次元コードも細かく随所についていて、調べたいときにすぐ見られるように工夫されたりしていると感じました。また、各学年の教科書の巻末にあるSDGsのシールを使って学習を振り返ることができるという所も良いと感じました。以上です。

森崎委員

波床委員と同じように考えました。「つかむ」「調べる」「まとめる」「広げる」。そして「まとめる」の所で教材を生かすということで掘り下げられている。同じように教育出版も「つかむ」「調べる」「まとめる」「もっと知りたい」ということで東京書籍と同様の進め方を行っているように感じました。少し盛りだくさんで大変なのかなと心配しておりましたが、まとめ方の道標として第1候補は東京書籍として推薦したいと思います。

藤本委員

委員の話をお聞かせいただいて、やはり私自身も東京書籍と日本文教出版のどちらかなというふうな考えていたところです。ただ懸念しているのが、6年生の歴史、東京書籍18ページを見てもらえ

ますか。東京書籍が、18ページのところが、納得いかないところがあって、巨大古墳と皇族というところの下から4行目に大阪府堺市、仁徳天皇陵古墳（大山古墳）となっておりますよね。仁徳天皇陵は、昔は私の時分では、仁徳天皇陵古墳は前方後円墳と習ったのですが、今のところ仁徳天皇がいる、いないというのが分からないので、後の2社は、大仙古墳というふうに明記して、特に教育出版は、仁徳天皇の「仁」もないわけです。そして日本文教出版のほうは大阪府堺市にある大仙（仁徳天皇陵）古墳となっております。そういった意味で、厩戸の君とか聖徳太子のこともいろんなところで名前が変わってきたこともあって、真実に近いところ。鎌倉時代がいい国つくろうの1192年よりももっと早かったのではないかとされているところで、縄文からいい写真を撮って、大きな写真が各社よりもあるんですけども、そういった表し方で懸念がありました。

それともう一つ、なぜ日本文教出版を選んだかと言いますと、先ほどの市川選定委員がおっしゃったように、中学年から高学年になってきますとやはり身近な教材が散りばめられているというところを考えると、東京書籍は和歌山の内容が本当に少ないということが懸念するところです。静岡県、兵庫県があってすぐに九州になってしまって、割合、近畿というものはないんです。4年生、5年生、6年生に和歌山県の内容が一つもない。私の見落としかもしれないですけども。そういったことから考えれば児童が、3年生だったら、みかんであったり、避難タワーの串本のことがある。4年生では南海トラフとの関連で濱口梧陵がある。南方熊楠。それから和歌山城。川端龍子のことも。和歌山市や和歌山県の内容が入っています。そういった意味で甲乙付けるとしたら、和歌山市、あるいは和歌山県の内容のことがあるということで、若干、日本文教出版のほうがいいかなと思っております。以上です。

阿形教育長

ありがとうございます。私は、日本文教出版、東京書籍どちらかがいいかなと思いましたが。教育出版もよくできていると思うんですけども。東京書籍は、オーソドックスな内容で、標準は完全に満たしているという感じがします。流れもよく分かりますし、見やすさ、読みやすさそれぞれあると思います。日本文教出版は、問題解決学習で子供の疑問から入って、進めて、まとめる。いわゆる主体的、対話的な内容になっていると思います。甲乙付けるとしたら、藤本委員がおっしゃったように、かなり和歌山の内容が盛りだくさん入っているの、どちらかといえば、私は日本文教出版のほうをと思っています。現在のところ、東京書籍をお二人が推しているの、社会科は、日本文教出版と東京書籍の2社を残すという形で再度審議していただくという形でよろしいでしょうか。後日の採択会議で1社にしたいと思います。

生活科

竹内教育研究所長

続いて生活科の答申及び答申資料のご説明をいただきます。
生活科は、東京書籍、大日本図書、学校図書、教育出版、光村図書、啓林館です。委員の皆様はお手元の答申資料をご覧ください。ご答申は塩谷選定委員にお願いいたします。それでは、教育長よろしくお願いたします。

阿形教育長

それでは塩谷選定委員、生活科の答申及び答申資料の説明を東京書籍から順にお願いします。

塩谷選定委員

選定委員の塩谷です。生活科の答申をいたします。生活科は6社ございます。調査・審議し、まとめた内容を1社ずつ申し上げます。まず初めに、生活科の特性についてお話しします。生活科は、国語や算数などの教科とは異なり、教科書を使っての学習はあまり行われぬ教科です。それは、生活科は、具体的な体験や活動を通して、良き生活者として求められる能力や態度を育てることをねらいとしており、子供が体全体で身近な環境に働きかけ、そこでの活動の楽しさや気付いたことなどを表現することを大切にしている教科だからです。ですから座学が中心ではなく、活動を主体としている教科になります。では、東京書籍から答申いたします。

(東京書籍)

答申

各単元の学習において、学習活動や活動のめあてを明記するとともに、主な評価基準を分かりやすく示し、指導と評価の一体化を図っている。

また、学びを深める場面では、学びを促進するための学習環境(対話、掲示資料等)について具体的に例示している。

上巻38、39ページをお開きください。各単元の扉ページは、見開きで写真も大きくダイナミックで、子供たちの表情も笑顔あふれるいきいきとしており、38ページ下のつぶやきにもありますように、知的好奇心を刺激するものとなっています。39ページ下部にありますように、季節によっては保護者に対し、熱中症予防を呼びかける箇所があったり、活動によるアレルギーへの注意喚起もしています。54ページから57ページにかけての「むしをさがそう」「むしとなかよくなろう」の部分では、子供が実際にやってみたくなるような具体的な活動が掲載されていて、ワクワク感を持って活動ができます。また、小単元名の下には、「!」や「?」マークがあり、子供が抱くであろう思いや疑問を大切に、問題解決学習を促しています。下巻36、37ページをお開きください。子供が生活科における見方・考え方を生かして学習している様子が、写真や吹き出しで具体的に例示しています。吹き出しの内容は、子供たちの思考を助けるものとなっています。下巻74、75ページをご覧ください。生活科は活動や体験を重視していますが、このページにございますように、単元のまとめには友達との交流を通して児童が学びを深めていく様子が示され、ICT機器を活用した表現活動や意見交流の具体例、板書例もイラストで示されており、教師の指導の際ヒントにもなっています。このような具体例が各所に示されています。上巻60ページにある「やってみよう」では、単元を通して身に着けた力を使って、主体的に行える活動が紹介されていて、個に応じてではありますが、活動を広げられるようにもなっています。先ほど申し上げたアレルギーへの注意喚起がページ下部に掲載されています。

(大日本図書)

答申

観察日記をはじめ、どんな場面でどのようなまとめ方をすればよいか、子供がかいたワークシート例を多数掲載している。また、観察の仕方などをイラストや動画で紹介するとともに、学びの振り返りをきもちマークで表すことが出来たり、ワークシート内の耳や目などのマークで表現したりすることができる。

単元が春夏秋冬の季節の暮らしに合わせて展開されていて、左ページ上部の色が季節によって統一されています。また、表紙、内表紙、目次ページ、上巻28・29ページをご覧くださいますとお感じのように、様々なタッチのイラストで構成されているのが特徴です。上巻50ページから始まる「なつとなかよし」という単元を例に挙げますと、上巻52ページの上部に登場するキャラクターが、問題解決学習を促す意味で、吹き出しにあるような投げかけをし、課題解決を図っていく構成になっています。上巻54、55ページでは「さいばい」の単元の振り返りをしますが、発達段階を考慮し、「きもちマーク」に表情を書き込むことで、満足度や心の動きなど、子供の気持ちを表現しやすいように配慮されています。上巻60ページ「かぞくとなつをたのしみたいね」114ページ「かぞくだいすきだよ」下巻46ページ「みんなで食べるとおいしいね」といった「家族」をテーマにした記載が出てまいります。家族に関しては、昨今家庭環境の違いにより様々な配慮が求められています。また、家族間で命を落とすような事件も毎日のように報道されています。そのような世の中だからこそ、今一度、「家族」にスポットを当て自分自身に問うことは意味がある。そんなメッセージが込められているのではと考えます。

上巻53ページ「せいかつことば」97ページ「きらきらことば」が紹介されており、生活に関わりのある言葉や人との関わりが深まる言葉などを取り上げるにより、言語能力の育成を図るとともに、友達とのより良い関係性を構築するための支援が見られます。

(学校図書)

答申

「みる」「さわる」「たとえる」「くらべる」「よそうする」など、学習対象に働きかけるポイントを示したり、その時の気持ちを「顔マーク」で表現したりするなど、活動に取り組んだ自分を振り返り、自己評価につなげられるようにしている。

上巻1ページにありますように、あおい、りんたろう、ゆい、そうたの4人のキャラクターが登場します。単元ごとに中心となるキャラクターが設定されており、その中心となるキャラクター追っていくことで子供たちが学びを進めていくストーリー性があるのが特徴です。34、35ページをご覧ください。学びを進める上で大切にしている「みる」「さわる」「たとえる」「くらべる」「よそうする」といった対象に働きかけるポイントが示されています。128ページの「まなびかたずかん」にも、これらの点について詳しく解説しています。また、そこに記載されているワークシートには、その時の気持ちを「顔マーク」で表現するなど、自己評価につながるようにしています。上巻70ページからの「生きもの大すき」では、モルモットを中心に上げています。命の大切さを感じる対象として、73ページの「なかよくなるひみつ」で接し方を写真や解説で紹介するとともに、二次元コードを読み取るにより動画でも紹介しています。また、アレルギー対応で上巻72ページ上部に「てあらい・うがい」を促すマークも必要に応じて明記するなど丁寧です。上巻では、単元末は76ページにあるような「もっ

と〇〇したいな」のページがあり、子供たちの活動が生活科の時間内にとどまらず、自分の生活の中にも続いていくことを期待する構成になっています。ほかにも、子供たちが自分で個別に学習を進めていけるヒントとして、90ページ「ものしりノート」や86ページ「ものしり図鑑」など掲載されています。下巻では、さらに、72、73ページのように「ふりかえろう」のページがあり、様々なまとめや表現方法を紹介したり、友達との交流する場面も示唆しています。教科書サイズが、若干小さいサイズとなっています。

(教育出版)

答申

問題解決学習を促すために、学習場面に応じて、「わくわくスイッチ」「はっけんろど」「ぐんぐんはしご」など、子供たちの興味・関心を喚起する工夫が見られる。2年間を通して、2人の主人公の会話や記録、作品などから成長が感じられるようにしている。

上巻40ページをご覧ください。各単元の扉ページには、「わくわくスイッチ」や二次元コード「わくわくシート」が設けられており、経験や意欲の差異によらず、子供たちが自然な形で活動に入っていけるように配慮されています。また、扉ページ下部には「はっけんろうど」があり、目次とリンクするように現在学習している単元の位置づけが示され、1年間の学習の見通しが持てるようになっています。単元の最後には、48ページ「なにをかんじたかな」のページで、49ページ上部「わたしの〇〇」を見付けるなど、活動の振り返りができるようにしています。この流れは、どの単元も共通であり、使いやすくなっています。58ページをご覧ください。単元の流れとしては、学習目標を達成できるよう、左ページ上部に、学習のめあてがあり、その隣のサイコロマークがあり、育みたい資質・能力が示されているため、教師にとっては指導や評価のヒントになります。問題解決学習を促す意味で、キャラクター「いぐら」や「はてな」を登場させて、子供たちが学習を進めていく上でのヒントとなるよう、子供たちの思いや願いを引き出すような言葉かけをしています。各ページの吹き出しは、分かち書き、文節改行、20字程度で読みやすく、観察日記などの子供の作品や写真も豊富に掲載されています。二次元コードには、動画、図鑑、ワークシートなど、どのような内容なのかが、一目で分かるようにマークが記載されている。下巻にはSDGsの扱いページが多いです。

(光村図書)

答申

各単元ともに、導入では学習材と子供の写真をダイナミックに配置し、学習材との出会いを魅力的に演出している。学びを深めていく様子を写真や吹き出しで示し、イメージを持ちやすくしたり、学び方のポイントをヒントとして示したりしていることで、学習の流れが分かりやすい。

表紙と裏表紙をご覧ください。お気付きのように、ヨシタケシンスケ氏が企画段階から参画し、イラストを多用しているのが特徴です。上巻23ページ「こんなこともあるかもね」、27ページ「こんなのもいいかもよ」、45ページ「どうしてだろう なんでも」等、子供が共感しながら学びを進めていけるよう、親しみやすいイラストを随所に配置している、そういう構成になっております。上巻30ペー

ジをご覧ください。単元の導入ページは、見開き2ページでダイナミックな写真が使われており、子供たちの学習への意欲を喚起します。上巻36ページを例に、1時間の学習を想定した場合、左ページ上部に「学習課題」、見開き2ページに「活動の写真や学びを支援する吹き出し」、右ページ下部には「振り返り」を掲載し、問題解決学習を意識した構成になっています。また、子供たちの見方・考え方につながる試行錯誤のポイントを、「学び方のヒント」として六角形の囲みで各ページに示しています。また、子供たちの学習アイテムとして、巻末の「ひろがるせいかつじてん」が、上下巻ともに別冊となっています。また、上巻では、「〇〇のなかまたち」が切り離して、携帯して活用できるのが特徴です。「保護者の皆様へ」が随所にあり、学習活動を円滑に進めるために、学習のねらいや、子供の学習に保護者も積極的に関わりをもってほしいという願いから声かけのヒントなども紹介されています。

(啓林館)

答申

子供の主体的な活動を促す写真やイラストが多く、「わくわく・いきいき・ぐんぐん」という3段階構成である。問題解決的な学習が展開できるような構成で、子供にとって学習の見通しが立てやすい。デジタルコンテンツも豊富で、個別学習にも対応できる。

上巻22ページをご覧ください。各単元の左ページ上部に色分けで示されていますように、「わくわく・いきいき・ぐんぐん」の3段階で構成されており、子供にとって学びの見通しが立てやすいものとなっていますし、指導する教員にとっても指導のヒントとなる構成となっている。32ページの「ぐんぐん」のページでは、学習のまとめ方や友達との交流の仕方などがイメージできるように工夫されています。33ページの上部には、「できるかなできたかな」では、この単元での自己評価の視点を示していたり、同ページ下部の「ひろがるきもち」では、次の活動への意欲につながるようにしています。72、73ページ、104、105ページをご覧ください。このように、グループワークなど協働的な学びを進めていく様子が例示されており、一人一台端末を持って出かけたり、電子黒板を活用した発表場面、板書や資料の掲示などイラストで具体的に示されていて、学びを深める一助となっている。二次元コードが豊富に用意されていて、上巻78ページでは虫の声が聞けたり、108ページではけん玉の技の紹介、101ページではおもちゃの作り方、78ページではデジタル探検ブック等、個に応じて1人学習も可能なほど充実しています。啓林館においては、スタートカリキュラムに関連するページが多く掲載されており、保幼小のつながりも大切にしています。教科書サイズは、6社の中で一番小さいサイズとなっています。6社全てにおいて、フォントや配色にユニバーサルデザインを意識したものとなっています。以上です。

阿形教育長

ありがとうございました。何か塩谷委員にご質問ございましたらお願いします。

波床委員

低学年の児童たちに体験を積極的にしてもらって、意欲的にいろんなものを吸収していただく積極的な活動を刺激するという側面は非常に大事ですけども、低学年であるがゆえに安全性ですね、いろんな

活動をしたり、いろいろ行動したりする際の安全性についての注意喚起といますか、そういう観点から見たときに今回の6社の教科書の中に軽重はございますでしょうか。

塩谷選定委員

安全性という面で言いますと、恐らくコロナ禍で編集されたものであると思われるので、各社ともに手洗いの部分であったり、アレルギー対応の部分であったりとか、活動に応じた内容で注意喚起を図るような状態になっているかなという印象がございます。

阿形教育長

ほかにないでしょうか。それでは塩谷選定委員ありがとうございました。

阿形教育長

それでは審議に入る前に展示会での生活科について何かご意見はありましたか。

竹内教育研究所長

生活科についてのご意見はございませんでした。

阿形教育長

それでは生活科の審議に入りたいと思います。委員お一人一人のご自分が考えられたことを出していきたいと思います。6社ございますので、できれば2社くらいに絞りたいかなと思っておりまして、第1に、第2にというふうにも、集中して出していただいても結構だと思います。

森崎委員

2社と申しますと、第1候補に学校図書、第2候補に啓林館を挙げたいと思います。生活科の目標としましては、1番目に社会を良くし、自然との関わりについて考えるとともに、それらの良さや素晴らしさと自分との関わりに気付き、地域に密着し、自然を大切にというのがあるんですけども、32ページを見てくださいますか。上です。芽が出る様子を書かれておりますが、ほかのものにはない、土の中からもりもりと出てくるところを5つに分けて書かれており、それから遊びの展開の内容が非常に多い。それは風や幹、氷、光に関する理科につながる遊びの展開がありました。また社会につながるころも、下のほう、14ページに町がどのように安全に暮らせるかという工夫がなされていたり、バスや電車の方法が書かれてあったり。幼児教育は遊びの中で展開されていて、その中で子供が育つようになっています。自然として5領域がなされているわけですが、小学校に上がる前に10の視点で、幼児に育てほしい10の姿ということがあるのですが、ほとんど生活科の中につながる内容になっています。そういうことから関係して、遊びから教科につなげる。その段階として遊びの中で、観察力を上げたり、洞察力を上げたり、そして遊ぶ工夫があったり、発見や見方だったりということを、ちょうど社会や理科につながっていくのでいいのではないかと感じました。第2候補の啓林館は、上のほうでは生き物や草花のことについてとても詳しく解説されていて、さすが啓林館だと思いました。理科につながる内容の割合が多いように感じました。戻って悪いのですが、学校図書でもう一つ良かったのが、全てのものへのありがとうということが書かれていることでした。自然や生き物に関する感謝や自分の身の回りの

人々に対する感謝、ありがとうなどいっぱいという言葉が多く使われていて、これはやはり自然に感謝、そして身近なものに感謝、感謝ということで、最終的には私のこと、私の成長もみんなありがとうにつながって、全てのものにありがとうという言葉がつながっているのも、とても思い入れがいいなと思いました。啓林館に戻ります。上下共にとても「生命の大切さを」みたいに大きく載せてあって、26ページには自分の作った野菜に対して愛情、「大切な命をいただきます」という表現があったり、主に町のこと家のこと、自分のことが書かれている分野では地域の人たちや家の人たちと対応して、自分がいると感じられます。とてもシンプルでそして大切なことだけをきちんと載せてあるという感じがしました。この二つを候補に挙げます。

石元委員

私は第1候補に啓林館。啓林館が1番いいと思ったんですけども、小学校1年生が「1番好きな科目何。」と聞かれたときに、よく挙がるのが、生活が好きという子供が多いそうです。日常で役立つ実践的なスキルを学ぶための教科書として、また家庭や社会で必要とされている生活能力を身に付けるための学びや活動が自然とできるようなものがない教科書だなと思いました。啓林館は季節を意識したページ作りになっていて、日本人として大切にしたい季節、四季を、季節ごとの生き物や植物を通して学ぶことができるような作りになっていると感じます。上の「学校大好き1年生」では、保護者向けの内容もあり、学校入学後の生活を詳しくイラストや写真を使い示していて、親子で一緒に読み、学校生活の話をする良いきっかけとなると思います。また写真がたくさん使われていて、文字のフォントのバランスがとても良くて、子供たちがやってみたい、読みやすいというわくわくするような作りになっていると感じました。次に東京書籍を第2希望とさせていただきますが、こちらは写真も大きくて文字は少なめなのですが、その文字が少ないのが、かえって子供たちから自由な意見がたくさん出やすい教科書作りになっているかなと感じます。下の「やってみよう」では、教科書から離れて活動を促すアクティブな学びにつながると思い、この教科書もいいなと感じました。以上です。

波床委員

私は、第1順位は光村図書でして、第2順位は啓林館とさせていただきます。アクティブないろいろな体験を積ませて身近な生活について関心興味、豊かな学びにつなげて自立した生活ができるようにする。そういったことはどの教科書も共通して重点が置かれていますので、これは差があると思わないのですけれども、私が少し気になるのは、低学年の児童というのはまず通学があるわけですね。それで、4月5月くらいは非常に事故にあたりることが多い時期で、やはり生活の教科書としてはその辺りを意識して、重点を置いて取り上げて、また先生も指導すべきであると思っております。そういう観点から見たときに、それなりの重点が書かれているのが光村図書だと私は思いました。例えば、上巻の26ページから29ページとかですね。あるいは広がる生活辞典というところにもありますけれども、その2ページは繰り返し教えるようになっていると思うんです。この光村図書を第1順位に挙げさせていただく理由としては、児童の安全面、この安全教育に、少しほかの教科書と比べた場合に光村図書が優れているかなと思ったからです。啓林館も光村図書とほぼ同じで、安全面についての意識がかなりあると思います。「いかのおすし」なんかもありますし良いと思います。ただ、ちょっと判が小さいのがやや見づらい感じが私はこの教科書にはありまして、内容的には光村図書とそれほど遜色はないかなと思うのですけれども、そういう観点で啓林館を第2順位にさせていただきます。以上です。

藤本委員

私は6社見させていただきまして、生活科は教科として平成元年に社会科2時間と理科2時間を足して3時間になって、1時間は国語科へいき始まりました。生活科がもっと身近にということで、活動を大切に教科にしようということでありました。そのときには評価の観点は「気付き」というものであったんですけども、秋見つけとか春見つけで活動はあるんだけど本当に知識・理解として1年生でも2年生でもついているのかどうかというのが懸念された教科なんです。だから、総合的な学習の時間のように、活動はあるんだけど本当に深い学びになっているのかに焦点が当てられて、文部科学省でも社会科、理科に戻そうという動きがかなり強かったそうなんです。それをやはりきちんとした教科だということに戻すためにされたことは、学習指導要領で平成29年にスタートカリキュラムというものが出された。このスタートカリキュラムで生活科を中心に各教科と共に小学校へ上がってきた児童が生活を大切にしていこうというのを、5月あるいは6月まで、そういったところを大切にしていこうということでこの教科が存在しているわけです。そういったところをみると、先ほど森崎委員がおっしゃられたように、私はスタートカリキュラムの話をする観点をきちんと分けてやっているのは東京書籍と啓林館なのじゃないかなと思っています。そこで、「育ってほしい10の姿」というのを考えて保育所、あるいは幼稚園でどんな活動をしたのかというのをきちんと理解できていて、教科書をいろんなところで使っていく。「こういう遊びをしたね」「芋掘りしたね」とか、そういった活動や、やったことがきちんと載っているところが、私がこの2社を選んだところであります。だから、第1候補としては啓林館を挙げて、第2候補としては東京書籍で考えています。

それと、もう一ついいですか。重箱の隅をつつくようなことで悪いんですけども、学校図書の20ページの上、光村図書の22ページ、私、経験上11年校長をやっていて、児童が学校探検に来たときに校長としてどういうふうな態度をとるか。この2社、児童は立って話しているのに対して、校長は握手するのも座って、それから、子供が言っているのを座って聞いているという写真がありますよね。私だったら入ってきた時にすぐにさっと席を立つのが当たり前じゃないかなというふうに思うんですね。だから、こういったところ、写真を大きく載せてしまっているという配慮、子供たちは「校長先生何してるのかな。」と分かりづらい中で、そういった意味の写真が載っていることは残念だなと思いました。これは個人の考えで申し訳ないですけども。そういったことも付け足しておきます。以上です。

阿形教育長

ありがとうございます。生活科は選定委員もおっしゃっていましたが、活動を主体とした教科ですし、活動すること自体が目標であって内容であると。その中で失敗したり、試行錯誤を繰り返して、子供の気付きを広げたり感じたりすることを重視している。それからスタートカリキュラムも大事だと思います。そういったことからいくと、啓林館と東京書籍が良いのかなと思っています。啓林館のほうがよりスタートカリキュラムが丁寧ですし、わくわく、いきいき、ぐんぐんという三つのパターンで分かりやすく、写真も生き生きしている、保護者の学びも重視しているということで、第1順位を啓林館とさせていただいて、第2順位を東京書籍とさせていただきたいと思います。第1順位、第2順位とあるんですけども、啓林館を皆さん挙げておられますので、一つは啓林館で残しておこうと思います。あと、第1順位では学校図書と光村図書が挙がっております。それから、東京書籍は第1順位ではないですが第2順位で3人の方が挙げられております。どうしましょう。2社に絞れたらと思うんですけど、それ

か3社でも良いかなと思うんですけども、できれば2社にできればと思うのですが。3人の方からお名前が挙がっている東京書籍にするか、それか第1順位で挙がっている学校図書と光村図書にするかですが。第1順位に挙がっているほうを残すという方法もあるのですが、どうでしょう。

波床委員

東京書籍でよろしいのではないのでしょうかね。

阿形教育長

そうでしょうか。それでは啓林館と東京書籍を残させていただくという形でよろしいでしょうか。

委員一同

はい。

阿形教育長

それでは、啓林館と東京書籍に絞って、今回の選定を終わりたいと思いますので、よろしくお願ひします。後日の選定会議で、この2社について選定を行いたいと思いますので、よろしくお願ひします。それでは生活科の審議を終了します。

理科

竹内教育研究所長

続いて、理科の答申及び答申資料のご説明をいただきます。理科は、東京書籍、大日本図書、学校図書、教育出版、啓林館です。委員の皆様はお手元の答申資料をご覧ください。ご答申は、坂本選定委員にお願ひいたします。それでは、教育長、よろしくお願ひします。

阿形教育長

坂本選定委員、理科の答申及び答申資料のご説明を、東京書籍から順にお願ひします。

坂本選定委員

選定委員の坂本です。理科は5社です。選定委員会で審議した内容を1社ずつ申し上げます。まず、各社の共通部分について7点申し上げます。1点目、問題解決の過程を1本の学びのラインや色使い等でつなぐことで、今、何を学習しているのか、学びの流れが捉えやすく見通しが持てるようになっていて、最終的に深い学びへと導いています。2点目、問題をつかむ、調べるページと調べた結果、まとめ、考察のページが別々になって見えないように工夫されているので、主体的に取り組めるようになっています。3点目、ペアやグループでの話し合い、意見交換の場面を随所に掲載し、協働的に問題解決に取り組むように仕向けています。4点目、学習の進め方、ノートの取り方、話し合いの進め方、観察・実験道具の使い方など丁寧に説明を記載しています。5点目、各社ともプログラミングの記載はあります。プログラミングを体験できるようになっています。取扱いの量には違いがあります。全ての学年で取り扱っているのは、東京書籍と啓林館です。あとは、6年での取扱いです。6点目、ユニバーサルデザイ

ンを取り入れ、UDフォントや配色、図、レイアウトを工夫し誰にでも分かりやすい教科書になっています。7点目、理科とSDGsとの関わりを記載し、より良い環境を残していくために私たちにできることを意識させるように、この単元や資料は17目標の何に関連しているかを表示しています。それでは答申です。

(東京書籍)

答申

教科書サイズは大きく、単元はじめの写真は迫力があり、学習導入ページとしてインパクトがある。また、文字、表、挿絵、写真など大きく表現されていて、児童の興味・関心を引くように工夫されているのが特徴である。児童が主体的に学習を進められるように、学習の流れを一本の線をつなぎ、深い学びへと導いている。

単元末などに「広げよう！理科の発想」「理科の世界たんけん部」「こんなところにも！理科の世界たんけん部」を設定し、学習してきたことと関連のある職業人や発展的な知識が記載されています。それぞれに、興味・関心を広げ、深い学びへとつなげることができます。デジタルコンテンツが豊富で、充実しています。巻末に「デジタルコンテンツで学びを広げよう」で二次元コードの種類ごとに説明が記載されていて、予習や復習、発展的な学習の内容を動画や写真で見ることができます。児童主体の問題解決学習を手助けしてくれています。

(大日本図書)

答申

教科書サイズがA4判であることで、写真やイラストをダイナミックに見せたり、情報量を豊富に記載したりできている。また、二次元コードもページ下に整理され説明もついているので利用しやすいといった特徴がある。問題解決の過程がシンプルに「見つけよう」「調べよう」「伝えよう」の大きく三つに分けられ、主体的に学習を進めやすくなっている。

各単元には見方・考え方の着目点、ここに注目を記載し、「理科の見方」につながる点を示すことで、主体的に問題を見つける過程をサポートし、「理科の考え方」を無理なく働かせながら、見通しをもって観察・実験をすることができます。

(学校図書)

答申

単元はじめのページでは大きなインパクトのあるものを提示し、興味・関心を引く。問題提示の場では課題が把握しやすいように比較できる写真や図をふんだんに使っている。チェックシート形式で今何をしているかを確認しながら、スモールステップで丁寧に進められることが特徴的な教科書である。

単元の末等の「やってみよう」では、学習したことを活用した観察・実験の場面が設けられており、学んだことをより深めるための活用的・発展的な学習をすることができます。時間配分も幅を持たせて

います。配当時間に予備時間を設けています。

(教育出版)

答申

写真や図表の取扱いが豊富である。観察・実験で扱われる事物・現象は安全面、扱いやすさ、種類、入手しやすさ等において適当である。教科書の裏表紙には理科の安全の手引きがあり、注意事項を簡単に確認できるようになっており、安全面が大切に扱われているという特徴がある。

児童が自ら問題解決の方法を考え、解決することを導くようにデジタルコンテンツは観察や実験で注意することや発展的な資料等に限り、二次元コードの数を最小限に抑えている。実験器具等の使い方、調べ方、ウェブずかん等。5年で動画29本、ウェブずかん等39個 合計68個用意されています。思考の邪魔にならない配慮がされている。理科の見方・考え方を働かせた子供の発言例には「カギマーク」と「マーカー」が付けられていて、注目できるように工夫されています。そのことで、視点が焦点化され、児童の意見がぶれずに、つながり深まるようになっています。

(啓林館)

答申

問題解決の流れに沿い、分かりやすい構成である。また、学習内容と生活とのつながりが分かるように、身の回りの様子が写真で取り上げられている。教科の特性から、継続的な観察や予定通りに進まない部分を予備時間として、柔軟な対応ができるのが特徴である。

問題解決の鍵となる「理科の見方・考え方」にマーカーを付け、ヒントを見える化し、児童の深い学びを無理なくサポートしています。単元導入で身近な事象が取り上げられ、比較や関係づける写真提示が鮮明で、児童が主体的に取り組みやすくなっています。また、配当時間にも予備時間を設け、児童の実態に応じて融通を利かせることができる時間配分になっています。また、和歌山近隣の資料の量も多く記載されています。

阿形教育長

ありがとうございました。報告いただいた内容について、質問等ありましたらお願いします。ないようですので、坂本選定委員にはご退出いただきます。

阿形教育長

事務局に伺いますが、教科書展示会で理科についての意見はございましたか。

竹内教育研究所長

理科についての意見はございませんでした。

阿形教育長

それでは理科の審議に入りたいと思います。理科については5社ございますので、2社ぐらいに絞れたらと思います。では、お調べになったこと、考えたことを出していただけたらと思います。

森崎委員

私は、啓林館を第1だと考えました。第2を東京書籍、教育出版と考えました。理由は、啓林館は必要な内容をきちんと網羅しており 問題解決の筋道がすごく分かりやすく、特にまとめのノートのところが 各單元ごとに書かれており、本当に分かりやすかったです。第2候補の東京書籍は大判を活用した写真の活用や問題解決のまとめの方法は啓林館とよく似ており丁寧でした。もう一つの教育出版は4年生の人間の体のところについて表現方法に興味があるのですが、とても大きなものが載っているんですね。6年生30ページから内臓や消化器の内容が書かれています。等身大の内臓が描かれていることに驚きました。体に興味・関心を示す子供もいるんじゃないかなと感じましたので、採用にらせていただきました。以上です。

石元委員

私は1社だけ申し上げます。啓林館を選びました。理由としましては豊富なイラストや写真を使用して科学的な概念や現象をより具体的に理解することができ、また子供たちが 理科に興味を持って取り組みやすいようになっている点がいいと思いました。また見つける・調べる・まとめる、問題を見つけ解決するまでの過程がスムーズに示されていてよくまとまっていると感じました。また巻末にあるワクビットという問題が付いていますが、映像を見てクイズに答えることにより、単元のまとめや自主学习に活用でき子供たちが進んで学習してくれる教材になっていると感じました。また、算数につながる理科の窓というところも状況に応じて活用できそうだなと感じました。このような理由で啓林館です。

波床委員

私は 第1順位が東京書籍、第2順位が啓林館といたしました。啓林館は非常に使いやすい教科書かつ分かりやすい教科書だと思います。いずれも学習指導要領に沿って学習が進むようになっていますので、どちらが優れているとはいえないのかもしれませんが、第1順位に東京書籍を推しますのは、日本の国力がだんだん落ちている原因の一つとして 理科系の人間のレベルがだんだん低くなっているという指摘があります。東南アジアの国々、台湾を含めまして、国力を上げるためには、理科系の人間を育てようという意識が強い。日本もある時期、大学教育は理系だけでいいんじゃないかという話がありました。そんな極端なことは言うべきではないと思いますが いずれにしても小学校の理科という科目は地力を育てるために小学校の時代から大事にすべき科目だと私は思っております。そういう観点から、いろいろなことを考えさせて、少し幅を広げようという態度で物事を見たときに、東京書籍のほうの方が優れているだろうと思います。そういう意味もあって、和歌山の子供たちには将来日本の国を背負ってもらえるぐらいの人材になってほしいと思っています。理科系の興味を根強く持たせるためにも東京書籍のほうの方がベターかなという気持ちがございます。以上です。

藤本委員

私も二つ選ぶとすると、啓林館と東京書籍を考えています。まず現場のほうで私が教科担任制というところ、あるいは専科制を考えると、音楽か図画工作か体育にしようかと問われても、理科にして

ほしいという先生が多いです。私は理科と数学の教師なので、理科を自分でしないのかと思うんです。かなり物理と化学の部分が苦手だという先生が多いと知りました。教科書においても6社一緒だと思うのですが、2分野を先にして1分野を後にもっていく。児童に対しても物理や化学という所の内容が理解しにくいというところが、波床委員も今おっしゃられたように、理科離れが起こってしまっているのが現状かなと思います。そういった意味で、私が啓林館を挙げているのは吹き出しの中で理科の見方・考え方にマーカーを付けて丁寧に問題解決的な学習に必要な比較とか関連付け、とくに理科では比較が大切になってくるわけで、そういった意味をきちんと丁寧に教科書の中に書かれているところが良かったと思います。東京書籍は、少し啓林館より難しいのですが、問題解決の流れがページを超えてでもラインできちんと示している。先生方もこういうふうに流していけば実験観察もできるんだなというところが非常に東京書籍は良くなったな、と私は感じました。甲乙付け難いのですが、1番に啓林館、2番に東京書籍と考えました。以上です

阿形教育長

ありがとうございました。私は、問題解決能力、科学的、見方・考え方、調べてみる、生活の中にどのようにつながっているかを重点的に見ました。そんなところから啓林館と東京書籍が良いのかなと思いました。特徴的な部分としては、東京書籍は先ほど藤本委員もおっしゃいましたが、流れを一本の線でつないでいる、字も大きいし、内容は豊富ですが、使いやすいというか、流れがわかりやすいのかな。かなり写真とかインパクトがあります。デジタルコンテンツもかなり充実していると思いました。啓林館は、実験の手順とか写真とセットで分かりやすいですし、各学年の始めに理科の楽しみ方、学びの中でICTを活用してみようなどありますし、そういった面でこちらのほうが問題解決をしていく上で分かりやすく、使いやすい構成だと思いました。あとは、こちらのほうが和歌山県、和歌山市のことはたくさん載っています。順位として第1順位は啓林館で、第2順位が東京書籍とします。どの委員も啓林館と東京書籍を挙げておられますので、次の選定はこの2社で選定したいと思います。よろしいでしょうか。

委員一同

はい。

阿形教育長

それでは、これで令和6年度に和歌山市立小学校及び義務教育学校前期課程で使用する教科用図書採択のための審議を終了します。事務局から事務連絡等ありますか。

竹内教育研究所長

次回、第4回採択会議についてご連絡いたします。第4回は、8月1日火曜日、18時からです。これまでのご審議を踏まえ、各教科・種目でご採択いただく1社を決議していただきたいと思います。

次回改めてご審議いただく教科書会社名を確認させていただきます。お手元の資料「選定候補教科書一覧」をご覧ください。

音楽、教育出版、教育芸術社。国語、東京書籍、光村図書。保健、東京書籍、大修館、光文書院。道徳、東京書籍、光村図書、日本文教出版。地図、東京書籍、帝国書院。外国語、東京書籍、開隆堂、啓

林館。家庭、東京書籍、開隆堂。算数、東京書籍、啓林館。そして、本日も審議いただいた、書写東京書籍。図画工作、日本文教出版。社会、東京書籍、日本文教出版。生活、東京書籍、啓林館。理科、東京書籍、啓林館。こちらで間違いございませんか。連絡は以上です。

阿形教育長

それでは、本日はこれで閉会します。

第4回 教育委員会の教科用図書の採択に係る会議

令和6年度使用

和歌山市立小学校及び義務教育学校前期課程

教科用図書 採択審議

会議録

1 日時

令和5年8月1日（火） 会議開始時刻 18：20 会議終了時刻 20：00

2 会場

教育文化センター 2階 会議室

3 出席者

○教育委員

教育長	阿形 博司
教育長職務代行者	藤本 禎男
委員	森崎 陽子
委員	波床 昌則
委員	石元 和代

○教科用図書採択事務局

事務局長	利根 功一	（教育局長）
事務局次長	前北 博文	（学校教育部長）
事務担当課長	岩本 信哉	（学校支援課長）
	西谷 宣昭	（学校教育課長）
	竹内 圭	（教育研究所長）
事務局員	岩崎 朝蔵	（教育研究所専門教育員）

4 議事

阿形教育長

議案第20号について説明をお願いします。

利根事務局長

これより、令和6年度に和歌山市立小学校及び義務教育学校前期課程で使用する教科用図書の採択のための臨時教育委員会 第4回採択審議をお願いいたしたく存じます。

これまで、3回にわたり教科用図書採択会議を開催し、13の教科・種目についてご審議のうえ、選定していただきました。これまで選定いただいたそれぞれの教科・種目の教科書について、本日改めてご審議いただき、本市の子供たちにとって最も適切な教科書をご採択いただきたくお願いいたします。

それでは、これより事務局説明を、教育研究所長 竹内に行かせます。

竹内教育研究所長

本日の採択会議日程について、ご説明を申し上げます。委員の皆様には、先にご選定いただきました教科書について、再度研究を深めていただいたところです。つきましては、その内容をもとに、本市が育てたい子供像を実現するにふさわしい教科書であるかを改めてご審議のうえ、1社をご採択いただき

たくをお願いします。また、本日ご採択いただいた教科書については、その採択理由を明らかにし、おま
とめいただきたくをお願いします。なお、採択教科書及び採択理由については、採択期間が終了する8月
31日以降、公開する予定でございます。

阿形教育長

ただ今、事務局から説明がありましたが、教科書は、学校における子供の学習用として供されるもの
であり、本市が育てたいと願う子供像を実現するために重要な役割を果たすものです。そのことに鑑み、
我々は、教科書の採択権者として本市の子供の実態と、教育基本法及び学習指導要領に示された内容を
踏まえ、確かな学力を身に付け、豊かな人間性を育成するための教科書を、責任を持って採択せねばな
りません。改めてその責任の重さを認識し、本日の採択に臨みたいと思います。よろしくをお願いします。

(1)【審議：国語】

竹内教育研究所長

本日は、教科書目録の掲載順に沿って、国語から順にご審議をお願いいたします。国語は、東京書籍、
光村図書の2社をご選定いただいております。

阿形教育長

それでは、国語の審議に入ります。東京書籍、光村図書の2社について再度審議し、1社を採択しま
す。委員お一人お一人が改めてお調べくださったことやお考えになったことをお出しいただき、ご審議
ください。

藤本委員

私はやはり東京書籍も光村図書もすばらしい教科書だと思うんです。光村図書のいいところは読み物
教材が充実してるのがいいなと思うんです。思うんですけど東京書籍の新しいところを取り入れて、古
いところも残しつつ新しい教材を載せている。もう一つは、説明文のところですけど、1年生から6年
生まで学年の段階に応じて1年間に4か所説明文があるんですけど、ここでも段階に応じて教えている
のがいいなと思いますので、私は東京書籍を選びたいと思います。

波床委員

私も東京書籍を支持したいと思います。両方の6年の教科書に共通する「海の命」という物語ですが、
選定委員が差異についておっしゃってましたとおり、表題の「命」というのが漢字で書かれているのか
ひらがなで書かれているのか違いがあります。それから文章として割愛されているものがあって、その
部分は光村図書では割愛されていないと。私が調べたところでは、本文に「命」というのが漢字で書か
れているのとひらがなで書かれているのがあって、光村図書は全部漢字で書いていて、東京書籍は全部
ひらがなで書いています。原文をデフォルメすることが好ましいことなのかどうか分からないですけど、
この教材を取り上げて児童がいろいろ考えたりするとすれば、「海の命」の「命」はやはりひらがなのほ
うがいいのではないかと思います。原文もそうです。なぜなら、この「命」は単に生物の即物的な意味
ではないからです。しかし、「命」を漢字で書いた場合、どうしても生き物の命を考えがちでして、海に
命がある、海自体に命がある発想にはならない。立松和平さんのいのちのシリーズの本がいくつもあり

まして、そこは全部、命はひらがなになっています。それから、立松和平さんの思考について考察した専門家の中には道元の宗教的な考えが立松さんの中にあるのではないかという研究者もいるようです。そんなことも考え合わせてみますと、「命」はやはりひらがなで書くべきで、課題としてどうして漢字の「命」になっていないのか、どうしてひらがなのままになっているのか考えてもらうのもいいことだと思います。それから、省略されている部分があるということなんですけど、これは選定委員もご指摘にありましたけど、「母が毎日見ている海はいつしか太一にとっては自由な世界になっていた」という一文です。この一文をなぜ東京書籍は削ってあるのか。私が思うに、この表現が立松和平さんが書いた主題に非常に即した文章だったからではないかと思います。したがって、これを削って、こういうふうな思考が著者にはあるんだよと考えさせるためにわざと東京書籍は落としたんじゃないかと思うんです。そういう意味合いからすると、原文をこういう形で削除するのはいいのか悪いのかは別の問題はあるかとは思いますが、この教材を効果的に使うために東京書籍はよく考えているなと思います。それで、東京書籍の「海のいのち」でいえば、課題のところで、199ページですが「考えたことを伝え合う例」ということで、男の子と女の子が会話してまして、女の子の発言の中に「海の命は漁でとる魚たちやクエだけを表しているのではないと思ったよ、与吉じいさんと太一にとって海で生きるということは・・・」となっていて、こういうことを課題として設定して考えさせる。非常によくできている課題設定だと思います。課題の設定の仕方として、光村図書は、東京書籍の問題からみるとやや淡泊といえますか、この文章であればもう少し考えさせられるのになと私は不満が残ります。「海の命」だけを取り上げてこんなことを申し上げるのは早計かもしれませんが、東京書籍のほうが非常によくできていると思っております。

森崎委員

私は光村図書を推させていただきます。一番の理由は学習指導要領の目標のところに「日常における人とかかわりの中で伝え合う力を高める」「思考や創造力を養う」とあるのですが、光村図書のまとめのところでは全てのところに読み終わった後、問いをもとと呼びかけられています。自分の考えや思いをもつことから始まる。答申にあるように「聞く・話す・伝え合う」内容が非常に多く、工夫されています。1年生の始めから文字の書き方のあとに、26ページぐらいから相手の話を聞いて、自分の意見を言うというところから始まって、4年生以降からグループ活動から発表形式と、スピーチ形式につながるように丁寧に構成されていると思います。以上の2点から、子供が主体的に考える活動をとても大切にしている。東京書籍もこの間は、第1候補として挙げさせていただいたのですが、よく読んで考えてみますと、光村図書の良さがよく見えてきたということで第1に挙げさせていただきます。

石元委員

私は、東京書籍がいい教科書だと思いました。教科書のデザインがとても分かりやすく、児童たちにとっても使いやすく魅力的なものになっていると感じました。例えば、どちらの教科書も4年生の上、38ページでは漢字辞典の使い方を説明しているんですけど、子供たちが漢字辞典を実際に持って行って、授業の中で先生の説明を聞きながら調べる授業があるんですけども。この漢字辞典の使い方は実物より少し大きく表示されている感じで、児童が内容を理解しやすいように説明の配置も工夫されているように感じます。同じく4年生のローマ字の表があるんですけど、東京書籍では巻末にすぐ開けるページに配置されていて、児童が簡単に授業中にスムーズにページを開ける形になっています。こういう工

夫がされているのがとても良いなど感じまして、また学年を通して、「見通す・取り組む・振り返る」などの学習の手助けとなるポイントをかわいいキャラクターを配置しながら示していて丁寧に説明して導いているところも良いと感じました。また、家庭で本読みをするヒントとして利用することもできてより学習の理解が深まる内容になっていると感じましたので、東京書籍が良いと感じました。

阿形教育長

今、東京書籍のほうが多いんですけど、私も東京書籍のほうがいいかな、使いやすいかなと思っています。説明文が系統的になっている、課題設定も視点が結構豊富で現代の課題にあったものが多いかなと感じましたので、東京書籍と思っています。東京書籍のほうが多いので、光村図書は読み物が充実しているとか丁寧に構成されていますが、教育委員会としては東京書籍を選定したいと思います。理由としましては、説明文のこと、さらには課題設定それから教材が効果的に使われている、分かりやすい配置がいいとかいろいろな理由がでておりました。最終採択理由につきましては、次の教育委員会でまとめさせていただきます。

(2)【審議：書写】

竹内教育研究所長

続いて、書写についてご審議をお願いいたします。書写は、東京書籍1社をご選定いただいております。

阿形教育長

それでは、書写の審議に入ります。東京書籍の教科書について再度審議し、採択します。委員お一人お一人が改めてお調べくださったことやお考えになったことをお出しいただき、ご審議ください。

前回、東京書籍では、書く場面が多いとか、説明が丁寧、さらには文字に対する関心や「鉛筆の持ち方」や「美しい文字の書き方」や姿勢などの説明が丁寧で東京書籍を選んでいますが、東京書籍でよろしいでしょうか。

委員一同

はい。

阿形教育長

それでは、東京書籍を選定したいと思います。

(3)【審議：社会】

竹内教育研究所長

続いて、社会についてご審議いただきます。社会は、東京書籍、日本文教出版の2社をご選定いただいております。

阿形教育長

それでは、社会の審議に入ります。東京書籍、日本文教出版の2社について再度審議し、1社を採択

します。委員お一人お一人が改めてお調べくださったことやお考えになったこととお出しいただき、ご審議ください。

藤本委員

2社とも甲乙付け難い内容で、問題解決学習で素晴らしい資料あるいは見開きで問題が解決できる教科書になっていて素晴らしいです。社会科や理科というのは、身近な課題、教材が和歌山県、和歌山市のものがあるということで興味・関心が湧く。そこから、日本、世界へ広がると考えてます。そういう点で日本文教出版を選ばせていただきました。

波床委員

前回、東京書籍を推したと思うんですけど、今回改めて日本文教出版を拝見しますと、こちらのほうが教えやすいかなという気がしますので、東京書籍を第1順位としたのを撤回したいと思います。日本文教出版でいいのではないかと思います。大きな理由は、6年で東京書籍は2分冊になっており、日本文教出版は1冊のまま。東京書籍の場合、どういう順序で教えるのだろうか。1冊には政治国際編があって、もう1冊には歴史編となっている。仮に政治国際編を先やって、それが終わって歴史編へいくとなるとちょっと順序が違うのかなという気がします。日本文教出版では日本の政治社会の基本を先に教えて、そのあと、こういう仕組みが出来上がったのは歴史に基づくこういうふうな経過があるから、現在このような政治体制が出来上がっているんですよ。それを理解した上で、世界の中の日本として国際編に移る。そのほうがすっきりとした順序ではないかと思いました。また、戦争に関する記述を見比べてみたんですけど、日本文教出版はどうして満州国建設のような方向性に日本は歩んだのかということ、戦争前の経済的な停滞、日本の経済情勢が悪くなったので海外に活路を見出して、生き延びるために満州国に目がいったのではないかという切り口で出発し、その結果、戦争を起こしてしまって、非常に悲惨な結末となり敗戦を迎えてしまったということが筋を通して書かれています。東京書籍は、戦時下の生活が非常に大変だったけども、どんなことがあったか調べてみましょうということで入っていて、どうして日本が大東亜戦争に突入していったのかという切り口が私には見いだせなかったんです。もちろん、いろいろ考えているうちにそういうところに行き着く教科書になっているのかもしれませんが、もう少し直截的な投げかけをするべきではないかと思いました。そして敗戦の後、日本国憲法が出来上がって、選挙権、女性にも選挙権が与えられたりということも起こりますので、そういう連続性も日本文教出版では1冊の中で非常によく教えられると思います。そういう理由で、日本文教出版が好ましいという結論に至りました。

森崎委員

前は東京書籍のほうが良いとしていましたが、もう一度教科書を見まして、1点は3年生は和歌山市のこと、4年は和歌山県のことを副教材が使われていること、5年6年になって和歌山に関する題材が取り上げられ、世界につながっていることを確認しました。もう一点は、教育振興計画の中に持続可能な社会の担い手の育成ということがありますので、未来につなげる私たちのSDGsとして強調されていることから日本文教出版に変えさせていただきます。

石元委員

私も日本文教出版がいい教科書だと思いました。どちらの教科書も内容が似ていて、東京書籍も和歌山市のことを扱っていて魅力的ですけど、日本や世界の歴史と情報や文化を学ぶ大事な科目ですので、子供たちがこの教科書を見たときにより興味をもって、自然に学習に参加できる教科書の方が良いと思いついて、比較してみました。その結果、日本文教出版のほうが写真や図、文字のバランスがいいということと、各テーマごとにキャラクターが問題提起をして何を学ばいいかということを考えさせてくれたり、二次元コードも細かく随所に付いていて、調べたいと思ったときにすぐ見られるように工夫されていると感じましたので、日本文教出版がいいと思います。

阿形教育長

私も皆さんと同じで日本文教出版がいいと思います。問題解決的な学習に使いやすい、身近な和歌山に関するものが多いので、子供がより興味・関心をもって学習に取り組んでいけるのではないかと思います。それでは日本文教出版を選定したいと思います。理由としては、身近な教材が多く、教えやすいのではないかと。東京書籍のほうは2分冊で教え方の順序などもあるのですが、1冊のほうがいいのではないかと。また戦争の記述の問題、SDGs、写真や文字のバランス、いろいろなことから日本文教出版で選定させていただきます。

(4)【審議：地図】

竹内教育研究所長

続いて、地図についてご審議いただきます。地図は、東京書籍、帝国書院の2社をご選定いただいております。

阿形教育長

それでは、地図の審議に入ります。東京書籍、帝国書院の2社について再度審議し、1社を採択します。委員お一人お一人が改めてお調べくださったことやお考えになったことをお出しいただき、ご審議ください。

藤本委員

私は、東京書籍を推させてもらったんです。というのは、帝国書院の良さというのは地図ということで、いらぬものは載せないということだったんですけど、特産物などかなり地図帳の中に載せていて、それだったら、東京書籍のほうがいいかなと思ったんですけど、皆さんの意見を伺ってみて、近畿のところ、30ページと45ページを見たんですけど、やはり帝国書院のほうが見やすいなと思いましたので、帝国書院に移らせていただきます。

石元委員

私も帝国書院が見やすいと思いました。楽しく学ぶのタイトル通り、明快で分かりやすい説明とビジュアルがとても児童が関心をもって活用できそうだなと感じました。あと、特徴的なのは地図の高低差の色使いがはっきりしていて分かりやすいと思います。情報量が豊富で、地図に関連した資料も多く掲載されています。社会以外でも活用できると感じましたので、帝国書院を推させていただきます。

森崎委員

前回お話をさせていただきましたが、「地図の世界へようこそ」から始まって、詳しい使い方が分かりやすく書かれていると感じました。また、長く使えるのではないかと思いますので、帝国書院のほうをお願いいたします。

波床委員

私も帝国書院でいいと思います。前回も言いましたが、地図帳というのはあまり余計な情報を盛り込みすぎないほうがいいと思っています。国土とか世界的地理なんかとも関連付けていろいろ調べられるんだという意欲も分からなくはないのですが、本来の地図帳とはやはり違うのではないかと思います。その意味で帝国書院を推させていただきます。

阿形教育長

それでは帝国書院を選定してよろしいでしょうか。理由としましては、分かりやすく使いやすい、見やすい、それから使い始めの丁寧さとか長く使えるとか。両方ともいろんな情報が入ってるんだけど帝国書院のほう子供にとって使いやすい、便利な地図というような理由でまとめさせていただきます。

(5)【審議：算数】

竹内教育研究所長

続いて、算数についてご審議いただきます。算数は、東京書籍、啓林館の2社をご選定いただいております。

阿形教育長

それでは、算数の審議に入ります。東京書籍、啓林館の2社について再度審議し、1社を採択します。委員お一人お一人が改めてお調べくださったことやお考えになったことをお出しいただき、ご審議ください。

波床委員

改めて見てみましたが、数学を学ぶことになる中学、高校生の中に数学は捨ててしまう子が多いという現実がある。これは非常に大きな問題だと思っております。そういう危険性が、啓林館のほうが少ない教科書ではないかなと思っております。東京書籍はレベルが高いため、一旦、分からなくなると小学生の時からついていけなくなるような子を生みがちに気がします。もちろん、先生の使い方によってそういうことが起こらないということも十分考えられますが、教科書自体の選定となれば教科書だけを見て決めるしかありませんので、そういう意味で啓林館を推したいと思います。

石元委員

前回、啓林館がいいと言わせてもらったのですが、やはり今回も同じで、ビジュアル的に子供たちがどっちが好きになってくれそうかなと考えたときに、啓林館のほうが、イラストと写真とのバランスが良く、絵もかわいらしくて、十分余白もあって、聞いたことをメモできるスペースがあったりするので、啓林館が良いと感じました。

森崎委員

2番目に啓林館を推薦させていただいていたのですが、もう一度見て、3年の考え方、進め方、4年、5年、6年と生活に生かせる算数として基本を土台にしながらか実に生活に生かせるようなところで、第1を啓林館にさせていただきます。

藤本委員

教材の配列が東京書籍と啓林館は違うんですけど、子供にとって分かりやすい、納得できる教材であるという点で啓林館を推させていただきます。

阿形教育長

私も啓林館がいいと思います。分かりやすいこと、図も大変きれいで良いと思います。それでは、啓林館を選定してよろしいでしょうか。理由としましては、イラストと写真のバランス、書くスペースのこと、基本を土台に生活に生かせること、教材の配列が子供にとって分かりやすい、そして何より数学嫌いを作らないということで啓林館が良いということだと思いますので、そのようにまとめます。

(6)【審議：理科】

竹内教育研究所長

続いて、理科についてご審議いただきます。理科は、東京書籍、啓林館の2社をご選定いただいております。

阿形教育長

それでは、理科の審議に入ります。東京書籍、啓林館の2社について再度審議し、1社を採択します。委員お一人お一人が改めてお調べくださったことやお考えになったことをお出しいただき、ご審議ください。

森崎委員

前回同様、問題解決の道筋が分かりやすく、また、まとめノートとして出されているのが分かりやすいので啓林館をお願いしたいと思います。

波床委員

理科が一番悩んだんです。改めて啓林館を拝見しますと、非常に教えやすい教材だろうと思います。ただし、東京書籍と啓林館を比べた場合、東京書籍のほうがいろんな問題意識を持ったり、ほかとの関連を考えてみたりと実力をつける教科書としてはこの教科書がいいのではないかと思います。どちらを重視するかということになってきますが、小学生の理科はやはり基本となる教科でありますので、基礎が出来ていないと中学校以降の理科につながっていかないと思いますので、算数と同じ、基礎を固めるという観点からいくとあまり盛りだくさんにならない方が良いでしょう。迷いましたが、啓林館でいいのかなと思います。

石元委員

私もはじめ啓林館を第一候補にさせていただいたんですけど、両方の教科書を見てみますと、東京書籍も詳しく説明が載っていたりしてとてもいい教科書で悩むんですけど、子供たちが理科嫌いを作らないようにどちらがより興味を持って取り組んでくれるかという視点でみると、イラストとか写真がたくさんあり配置がすっきりしていたり、見つける・調べる・まとめると問題解決を見つけて、解決するまでの道筋が非常に丁寧に示されているなど感じましたので、第1を啓林館とさせていただきたいと思います。

藤本委員

私も啓林館を推したいと思います。教材の流れ、児童の分かりやすさという部分がすごくあるなど。先生にとっても教えやすい教科書であるなど思うので、啓林館を推させていただきたいと思います。

阿形教育長

私も啓林館がいいと思います。生活科からのつながりが多いこととより教えやすいかなと問題解決的な能力を作る上でいいのかと思います。まとめノートが分かりやすくて、先生が使いやすい、より基礎を固める、問題解決の過程が丁寧、教材の流れが分かりやすいといった理由で啓林館を選定してよろしいでしょうか。

委員一同

はい。

(7)【審議：生活】

竹内教育研究所長

続いて、生活についてご審議いただきます。生活は、東京書籍、啓林館の2社をご選定いただいております。

阿形教育長

それでは、生活の審議に入ります。東京書籍、啓林館の2社について再度審議し、1社を採択します。委員お一人お一人が改めてお調べくださったことやお考えになったことをお出しいただき、ご審議ください。

藤本委員

やはり生活科とスタートカリキュラムということで、他教科と関連付けて、子供たちが育ってきた幼保連携も考えて素晴らしい写真を載せているということで啓林館がいいなと思いました。

石元委員

私も啓林館がいいと感じます。まず、表紙からして啓林館のほうが引き込まれる。東京書籍もいい教科書で内容的にも似ているんですけど、子供が一番好きになる教科が生活科ですので、読んでみてやってみたいなどより興味を持ってくれるのが啓林館。イラストとか写真の使い方とか進め方が啓林館かな

と思われましたので、第一候補とさせていただきます。

森崎委員

上のほうでは、草花の内容などがとても詳しく説明されていて、啓林館が理科や社会につながる内容かなと思いました。下のほうでも、命の大切さ、大切な命をいただきますということで、ただ理論でいくだけではなく、人間的な内容も大事にされているところで啓林館をお願いしたいと思えます。

波床委員

私も啓林館でいいと思えます。安全面に対する配慮は生活科に大事なことだと思っております。そういう観点からみると啓林館がいいと思えます。学年が上がってくると、生活科の観点は理科と関係してくるところもあり、そういうところからも接続がしやすいかなと思えました。

阿形教育長

私も啓林館と思えます。スタートカリキュラムは東京書籍もあるのですが、啓林館のほうがより写真とか子供の表情とか生き生きしているし、いいのかなと思えました。子供にとって意欲を持って取り組める教材がたくさんあるということで、啓林館を採択させていただきたいと思えます。理由としてスタートカリキュラムが充実している、他教科との関連、理科、社会に接続しやすいのではないかと、子供が興味を持ちやすい写真やイラスト、安全面の配慮など、そういった面で啓林館のほうがいいということですね。

(8)【審議：音楽】

竹内教育研究所長

続いて、音楽についてご審議いただきます。音楽は、教育出版、教育芸術社の2社をご選定いただいております。

阿形教育長

それでは、音楽の審議に入ります。教育出版、教育芸術社の2社について再度審議し、1社を採択します。委員お一人お一人が改めてお調べくださったことやお考えになったことをお出しいただき、ご審議ください。

阿形教育長

私は、教育芸術社がいいと思えました。基礎・基本がしっかり学べて、スモールステップで1、2年生の進め方が丁寧かなと思えました。教育出版もダイナミックな写真があつたりとかいい部分もたくさんあるかなとは思いますが、そういうところから教育芸術社のほうがいいと思っています。

石元委員

私も教育芸術社がいいと感じました。2社とも内容がよく似ていて、甲乙付け難いですが、教育芸術社では教科書の印として考える・見つける・歌う・演奏する・つくるの絵のついたマークがとても子供たちにとっては視覚的にはっきりして分かりやすく、何を目的に学ぶかが一目瞭然だという点。あと、

写真の掲載の仕方にも1年の鍵盤ハーモニカ、3年のリコーダーなど写真がとても大きく掲載されていて、イラストとのバランスもいいということ。あと、余談なんですけど、1年から6年の裏表紙には、地域の文化、芸能が掲載されてますけれども、これも地方の伝統文化を知ることができて、児童の視野を広げてくれる読み物となってくれるかと感じまして、教育芸術社がいいと感じました。

森崎委員

私も教育芸術社のほうです。各歌には、必ず、「見つける」、歌の特徴を見つけられるように、そして「考える」、情景や心情を理解、イメージできるように、そして「歌う」「演奏する」これは技術的なことでして、教える側にとっての視点、歌う側にとっても一つ一つ確認しながら、その上で心情を入れながら進めていきやすい教科書と考えました。

波床委員

私も教育芸術社だと思います。何よりもこちらのほうが楽しいのではないかという感覚があります。音楽とはやはり、みんなで楽しむ、それが基本だと思いますので、教育芸術社がいいと思いました。

藤本委員

私は前回も言いましたが、教育芸術社がいいと思いました。共通教材が折り込みになっていて素晴らしい配置、そして素晴らしい写真があったのが教育出版でした。6年生の冒頭に辻井伸行さんの印象があるので、リストが好きで同じ弾き方を真似するのではなく、辻井さんの弾き方があるんだということが述べられて、それを聞いてくださいということに感動して、ほれ込んでしまったので大変反省しています。みなさんと同じで教育芸術社でお願いします。

阿形教育長

それでは教育芸術社を選定したいと思います。理由としては、まず楽しい教科書ではないか、活動内容が進めやすい、それから視覚的な写真やイラストが効果的で、また地域の文化芸能も効果的に載せられているということでまとめたいと思います。

(9)【審議：図画工作】

竹内教育研究所長

続いて、図画工作についてご審議いただきます。図画工作は、日本文教出版1社をご選定いただいております。

阿形教育長

それでは、図画工作の審議に入ります。日本文教出版の教科書について再度審議し、採択します。委員お一人お一人が改めてお調べくださったことやお考えになったことをお出しいただき、ご審議ください。

藤本委員

スタートカリキュラムのことで1・2年生の上では、幼稚園や保育所との接続を考えて、文字が少な

く大きな写真、イラストがあるということ、それから児童の作品が載せてあるということで、興味・関心を湧かせることができるので日本文教出版を推させていただきます。

波床委員

私も日本文教出版でいいと思います。自分の創造性を積極的に引き出すためにも、上手に作れるかではなく、意欲的に挑戦できるかということ育てるのが大事だと思いますし、ほかの人が作った創作物の鑑賞力を高めることも大事だと思います。そういう面について、日本文教出版のほうが創意工夫がなされていると思います。

森崎委員

日本文教出版をお願いしたいと思います。1・2年生の上のほうでは、紙を破ってや土や砂となかよしの表現はすごく大事だと思います。図工の見方、画像のタブレットがすごく大きく見えて、同じように3・4年では体につける形・色で全身でアートを感じる、そのページレイアウト自体が素晴らしいなと思いました。日本文教出版をお願いしたいと思います。

石元委員

私も日本文教出版がいいと感じました。子供たちの創造性を引き出して、自由な発想や表現力を育成するためにいい教科書だと思います。2年生の色水づくりでは、大きな紙に絵の具を使って、自分を大胆に表現することができたり、3・4年生では釘の使い方を子供目線で手順を分かりやすく解説されていて工夫されています。また、廃材や家庭にあるものを使って、身近なもので工作できるようなヒントがたくさん盛り込まれていて、持続可能性とリサイクルの考えも取り入れられているところもいいと考えました。そのような理由で日本文教出版がいいと感じました。

阿形教育長

私も日本文教出版がいいと思います。創造性を引き出す、子供たちが意欲的に取り組めるような写真なども多いかなと思います。それでは、日本文教出版で選定したいと思います。理由としては、スタートカリキュラムも優れているということ、作品が子供の作品が多かったり、子供目線で身近なものを使ってたくさん示されている。自由な発想でいろいろできるものが示されているので意欲を育てるのにいいんじゃないか、そういった理由でまとめさせていただきます。

(10)【審議：家庭】

竹内教育研究所長

続いて、家庭についてご審議いただきます。家庭は、東京書籍、開隆堂の2社をご選定いただいております。

阿形教育長

それでは、家庭の審議に入ります。東京書籍、開隆堂の2社について再度審議し、1社を採択します。委員お一人お一人が改めてお調べくださったことやお考えになったことをお出しいただき、ご審議ください。

藤本委員

私は東京書籍を推したいと思います。全ての大きな題材を3ステップで展開している。そして、見つめよう・計画しよう・実践しよう、生活に生かそう、新しい課題を見つけようということで、課題解決学習の流れが上手く一つの題材で流れているところで東京書籍を選びました。ただ、教える内容として、少し盛りだくさんで大変かなという懸念があります。

波床委員

私も東京書籍がいいと思います。開隆堂もいい教科書だと思うんですけど、やはり安全、衛生面でも配慮がなされていますし、循環型生活への配慮という観点から見ても、東京書籍がよくできていると思います。

森崎委員

見つめよう・計画しよう・実践しよう、生活に生かそうということではっきり分かりやすく、また、3ページにわたって、確かめようで、最初に安全面であったり、器具の使い方であったりなどあって入りやすいと思いました。調理のところも、計画、調理、試食、片付け、振り返り、特に片付けが丁寧に書かれているのが印象的でした。

石元委員

前回、開隆堂がいいと思ったのですが、両方比べてみまして、東京書籍を推させていただきたいと思います。巻末にある制作実習技能ページのところがよくまとまっていたり、包丁の使い方、写真が大きく子供たちにもとても理解しやすいと感じました。児童が生活の中で必要な様々なスキルとか知識を学ぶための教科書として東京書籍のほうが理解しやすく先生も教えやすいと感じました。

阿形教育長

私も迷ったのですが、開隆堂も使いやすい教科書かとは思いますが、東京書籍のほうがステップが3つではっきりしていること、写真やイラストが大きく示されていて分かりやすいかと思いますので、東京書籍がいいと思います。それでは家庭科は、東京書籍を採択してよろしいでしょうか。理由としましては、課題解決学習の流れが分かりやすい、安全面、衛生面について示されている、循環型社会にマッチしているのではないかと、それからステップが分かりやすい、巻末を含めてまとまっているなどでまとめさせていただきます。

(11)【審議：保健】

竹内教育研究所長

続いて、保健についてご審議いただきます。保健は、東京書籍、大修館書店、光文書院の3社をご選定いただいております。

阿形教育長

それでは、保健の審議に入ります。東京書籍、大修館書店、光文書院の3社について再度審議し、1

社を採択します。委員お一人お一人が改めてお調べくださったことやお考えになったこととお出しいただき、ご審議ください。

藤本委員

前回、東京書籍を推させていただいたのですが、3、4年生の2年間で8時間、5、6年生で16時間ということで、教科書が終われるのか懸念していました。選定委員から資料として家庭へ持ち帰って話す、一日の生活のリズムを考えてみるということだったので、それなら1番に大修館書店のほうがいいと思いました。

石元委員

私も大修館書店がいいと感じました。5・6年生の事故やケガの起こり方、ケガの防止のために大きな絵の地図を掲載していて、あらゆる場面での事故やケガの予測を立てるのにとっても役立っていると感じました。また、最近インターネットによる犯罪が多いですけども、トラの巻として、「とら」トラブルはすぐに相談する、「の」載せない、「ま」守ろう、「き」決めようと子供たちにも分かりやすいキャッチフレーズで工夫された内容になっていると感じました。総合的に考えまして大修館書店を第一候補とさせていただきます。

波床委員

私も大修館書店がいいと思います。藤本委員がおっしゃったように、全てを限られた時間数で教えたり、実際にやってみたりするのは無理があると思います。かなりの部分は資料的な意味を持たせるしかないと思います。そういう観点からいくと、一番利用しやすい、しかも資料的にも充実しているのが大修館書店だと思います。先生方が是非この中からエッセンスを取り出して指導してもらえればと思います。

森崎委員

私も大修館書店の資料がとても詳しいと思います。3、4年生の思春期の体の変化、それから成長のところで38ページ、骨と運動との関係などはなかなか載っているところは少ないのです。それから43ページの睡眠のリズムと成長ホルモンの関係もとても詳しく書かれています。5・6年生の手当の方法が具体的に子供たちでもできそうな内容で書かれています。何より、5・6年生では「体育の窓」というのがあって、運動やスポーツの経験と心の発達との関係など大修館書店ならでの内容だと思います。答申では、運動と健康の関連について、具体的な考えが持てるように工夫している、その通りだと思います。48ページの感染症に関しても、とても詳しく載せてあり、資料としての価値が高いと思います。

阿形教育長

私も大修館書店がいいと思います。シンプルですし、資料も適切で使いやすいと思いますので、大修館書店でいいと思います。それでは大修館書店を選定してよろしいでしょうか。理由としては、資料が詳しく充実している。事故やケガのこと、感染症のこと、最近よくあるネットトラブルなど身近なことがよく取り上げられているなどでまとめさせていただきます。

(12)【審議：外国語】

竹内教育研究所長

続いて、外国語についてご審議いただきます。外国語は、東京書籍、開隆堂、啓林館の3社をご選定いただいております。

阿形教育長

それでは、外国語の審議に入ります。東京書籍、開隆堂、啓林館の3社について再度審議し、1社を採択します。委員お一人お一人が改めてお調べくださったことやお考えになったことをお出しいただき、ご審議ください。

波床委員

啓林館のほうがいいと思います。理由は、小学生の英語は、コミュニケーションを楽しんだり、英語に触れることの楽しさを感じたりして、中学校からの本格的な英語教育につなげていくことに眼目があるのではないかと思います。ほかの2社はどちらかというと、盛りだくさんな感じがして、少し、小学生、教える側にも圧迫感が出てくる可能性があると思います。私は、小学生の場合は教科書がなくても英語教育はいいのではないかと思います。その意味では、啓林館のほうが、楽しんで意欲的にコミュニケーションツールとして英語を使っていこう、いろんなものを吸収していこうという気持ちが起きやすい教科書ではないかと思います。

森崎委員

私も啓林館のほうが、いいと思います。小学校の英語の目的をもう一度、学習指導要領で確認したのですが、コミュニケーションにおける見方・考え方を働かせるとあります。聞いて、話し言葉が中心で、そうすると啓林館の一番最初にあるコミュニケーションが一番大切なこと、話し方を工夫する、聞き方を工夫する、やり取りの相手の言葉を繰り返して言う、相槌を表現するというのもこの教科書に書かれてあるんです。内容が、聞く、話す、そして発表や集団での意見交換につながっていて、忠実に話すこと、聞くこと中心にされていると思います。ほかの2社はそれに加えて、書く、読むが取り込まれ、やや盛りだくさんになっているのではないかと思います。啓林館のほうでお願いします。

石元委員

前回は、東京書籍を第1候補にしていたのですが、今回は啓林館を第1にしたいと思います。東京書籍はよくできた教科書で、これができたらスムーズに中学校に移行できるかと思うのですが、やはり英語嫌いになられるのが一番怖い、小学校では間違ってもいいから生き生きと発言してほしいと感じます。そうなってくると啓林館は文字の量も抑えめで、写真やイラストもきれいな配色で圧迫感がなくて、難しいとあまり感じないので、この教科書を使って、いっぱい英語を使ってほしいなと思いましたので、啓林館を第1候補にさせていただきます。

藤本委員

子供たちが分かりやすいのは啓林館かなと、だけど東京書籍のレベルの高いのも和歌山市の児童に取

り組んでほしいなと思ったのですが、現状を考えますと、啓林館のほうが分かりやすいと考えました。

阿形教育長

私もコミュニケーションを大事にしているということで啓林館です。それでは啓林館を選定してよろしいでしょうか。理由としては、コミュニケーションを楽しむということで、聞いて話すを中心にして、分かりやすいということでまとめさせていただきます。

(13)【審議：道徳】

竹内教育研究所長

続いて、道徳についてご審議いただきます。道徳は、東京書籍、光村図書、日本文教出版の3社をご選定いただいております。

阿形教育長

それでは、道徳の審議に入ります。東京書籍、光村図書、日本文教出版の3社について再度審議し、1社を採択します。委員お一人お一人が改めてお調べくださったことやお考えになったことをお出しいただき、ご審議ください。

石元委員

日本文教出版がいいと思います。イラストや写真も大きくて、豊かなビジュアルで子供たちの学びの手助けとなっていると感じます。また、道徳の教科書は、日本の価値観と道徳観を教えるために日本の文化、社会、歴史などの文化的な背景がバランスよく配置されていると感じました。また、重要テーマとして「いじめの防止」で「心のベンチ」で複数の教材と組み合わせて繰り返し、いろんな場面で課題を通して学ぶことができるというのがいいところだと思います。また、多様な視点を尊重して、社会の多様性に反映するよう努めている点、和歌山県の郷土資料が多いという点についても魅力的に感じました。

藤本委員

私も日本文教出版がいいと思います。一つ一つの教材の中で、中心発問のところのイラスト、写真がすごくマッチしている、中心発問がきちんとしているので、補助発問も使える。徹底した道徳的価値を付けられる教科書ということで日本文教出版がいいと思います。

波床委員

私も日本文教出版がいいと思います。いいところは石元委員や藤本委員と同じです。ただ、少し命の大切さに対する訴えかけが弱いという面があります。理屈のいらぬ当然わきまえておく道徳というのがあって、これはどうやって育むかと言えば、人間の感情に根ざすものとして、自然に成長とともに身に付けていくことも必要で、そういう観点からみたら、少し弱い気がします。そこが弱いとほかのところも弱くなってしまうので、日本文教出版の教科書を使う場合は、先生方は補充しながら使う必要があるかと思っています。道徳の教え方ですが、先生と児童の対話はもちろん必要ですが、児童同士の議論は道徳力を磨く大事な手法だと思います。それをやりやすいのも日本文教出版だと思います。

森崎委員

私も日本文教出版がいいと思います。気づく・考える・感じる・見つめる・生かすとあり、学年ごとの「心のベンチ」がいいと思います。1年生では仲間がいる、喧嘩したときの気持ち、2年になったらあなたのクラスのだれが、3年になったら心の声に耳を傾けて、そして最終学年になったらいじめはやめられていると中心人物からブログの中でいじめについて考える、そして162ページ、風の電話とてもよかったです。

阿形教育長

私も日本文教出版です。「心のベンチ」がよくつながりがあり、子供たちが考えやすくてとてもいいと思います。それでは、日本文教出版を、選定してよろしいでしょうか。理由としては、イラストや写真が学習の手助けになりそうなものが多い、中心発問とマッチしている、和歌山の郷土資料も多いこと、「心のベンチ」が大変生きているのではないかと。ただ、命の大切さということでは少し弱いのではないかとという意見があることを付け加えておきます。しかし、先生方が補充しながら工夫して使っていくことで、子供たちの議論を深めていくことで日本文教出版が優れていると思います。道徳は、日本文教出版ですね。

阿形教育長

それでは、これまで13の教科・種目の教科書について審議し、これで令和6年度に和歌山市立小学校及び義務教育学校前期課程で使用する教科用図書の採択が終了しました。再度確認し、決議したいと思います。国語、東京書籍。書写、東京書籍。社会、日本文教出版。地図、帝国書院。算数、啓林館。理科、啓林館。生活、啓林館。音楽、教育芸術社。図画工作、日本文教出版。家庭、東京書籍。保健、大修館書店。外国語、啓林館。道徳、日本文教出版。

以上、13教科・種目を採択してよろしいでしょうか。

委員一同

はい。

阿形教育長

それでは、これで本日の採択会議を終了しますが、事務局から事務連絡等ありますか。

竹内教育研究所長

次回、第5回採択会議についてご連絡申し上げます。第5回は、8月10日金曜日13時30分からの定例教育委員会においてご審議をお願いします。内容は、9月1日からの公開にあたり、これまでの採択会議録、採択結果及び採択理由について、事務局でまとめた案を報告させていただき、ご審議いただくものです。よろしくお願いいたします。

阿形教育長

それでは、本日はこれにて閉会とします。

第5回 教育委員会の教科用図書採択に係る会議

令和6年度使用

和歌山市立小学校及び義務教育学校前期課程

教科用図書 採択決議

会議録

1 日時

令和5年8月10日(木) 会議開始時刻14:00 会議終了時刻14:20

2 会場

市役所 11階 教育委員室

3 出席者

○教育委員

教育長	阿形 博司
教育長職務代行者	藤本 禎男
委員	森崎 陽子
委員	波床 昌則
委員	石元 和代

○教科用図書採択事務局

事務局長	利根 功一	(教育局長)
事務局次長	前北 博文	(学校教育部長)
事務担当課長	岩本 信哉	(学校支援課長)
	西谷 宣昭	(学校教育課長)
	竹内 圭	(教育研究所長)
事務局員	岩崎 朝蔵	(教育研究所専門教育員)

4 議事

阿形教育長

それでは、議案第24号について説明をお願いします。

利根事務局長

先の8月臨時教育委員会において、第4回採択会議を開催し、令和6年度に和歌山市立小学校及び義務教育学校前期課程で使用する教科用図書についての審議を深め、採択図書を決定していただいたところです。本日は、採択理由をご審議いただきたく存じます。それでは、これより事務局説明を、教育研究所長 竹内に行かせます。

竹内教育研究所長

本日の採択会議日程について、ご説明を申し上げます。本日は、令和6年度に和歌山市立小学校及び義務教育学校前期課程で使用する教科用図書の採択理由についてご審議いただき、採択教科書及び採択理由を決定していただきたく存じます。加えて、教科書採択に係る資料公表の日程案についてのご承認をいただきたく提案させていただきます。それでは教育長、よろしくお願いたします。

阿形教育長

それでは、先に行われた4回の審議を受けた採択理由について、事務局案を報告してください。

竹内教育研究所長

教科・種目ごとに採択理由の事務局案を申し上げます。資料2をご覧ください。順に申し上げます。

国語	東京書籍	新編 新しい国語
学習のめあてや流れ、ポイントとなる視点が明確に示され、児童も教師も見通しをもって学習を進めることができる構成である。また、単元の学習課題や教材文が工夫されており、児童の深い思考を促したり系統的に言葉の力を育んだりすることができる。		
書写	東京書籍	新編 新しい 書写
児童の生活に寄り添った課題や対話的な活動、他教科と関連した活動が設定され、児童主体の問題解決的な学習過程を重視している。また、左右の利き手への対応や紙面のスペースに余裕があることなど、児童の実態に応じた丁寧な配慮がみられる。		
社会	日本文教出版	小学社会
児童の疑問をきっかけにした学習過程や対話的な学びが示されており、児童主体の問題解決的な学習を重視している。また、選択単元や和歌山県に関わる地域教材が充実しており、地域や学校の実態に応じた学習展開が可能である。		
地図	帝国書院	楽しく学ぶ 小学生の地図帳
地図の使い方の指導が丁寧で、土地の高低差や特産を分かりやすく示す工夫がされており、児童が地図に興味をもつことができる。また、地図情報と共に豊富な資料が掲載されており、様々な学習場面において補助資料として活用することができる。		
算数	啓林館	わくわく 算数 (別冊「わくわくさんすう1 すたあと ぶっく」)
数学の系統性を軸とした単元配列によって基礎・基本が大切にされており、児童にも教師にも分かりやすい内容及び教材順である。また、児童がつまづきやすい内容についての単元配置を工夫し、繰り返し丁寧に学習して定着を図る構成になっている。		
理科	啓林館	わくわく理科
科学的な問題解決の過程が丁寧に示されており、理科の見方・考え方や基礎・基本が重視されている。また、児童にとって身近な事物・現象や和歌山県に関わる資料が取り上げられており、児童や地域の実態に応じた学習展開が可能である。		
生活	啓林館	せいかつ
幼小接続や他教科との関連が重視された写真や活動が多く、スタートカリキュラムの内容が充実している。季節を感じることや生命の大切さについての学びも充実している。また、安全面で丁寧な配慮がみられ、児童の生活を支える力を育むことができる。		
音楽	教育芸術社	小学生の音楽
表現教材と鑑賞教材を関連付けた単元配列で、各単元の題材を通してどのようなことを学ぶのが分かりやすく示されている。また、指導事項の系統性を重視した構成で、スモールステップで学びを広げたり深めたりすることができる。		

図画工作	日本文教出版	図画工作
表現と鑑賞が一体となった題材構成で、スタートカリキュラムや対話的な学習活動が重視されている。また、多くの児童の作品や楽しそうな表情、全身を使った活動などが紹介されており、児童の自由な発想や学習意欲を引き出すことができる。		
家庭	東京書籍	新編 新しい家庭
学習過程が明確な3ステップで示されており、児童が見通しをもって問題解決的な学習を進めることができる構成である。また、循環型社会におけるくらしや衛生面、安全面など、現代的な課題についての内容が充実している。		
保健	大修館書店	新 小学校保健
身近な生活から課題を引き出す学習過程や豊富な資料、対話的な活動を通して児童が主体的・対話的に学習することができる構成である。また、運動と心の関係に着目しながら健康についての学びを深めることを重視している。		
外国語	啓林館	Blue Sky elementary
コミュニケーションを楽しむことが重視された構成で、児童が意欲的に学習することができるよう工夫されている。また、単元のゴールとめあてが分かりやすく示され、スモールステップで活動を繰り返しながら語句や表現を身に付けることができる。		
道徳	日本文教出版	小学道徳 生きる力（別冊「道徳ノート」）
いじめの防止に重点が置かれ、発達段階に合わせて多面的・多角的に繰り返し学習することができる構成である。また、「心のベンチ」や中心発問に応じた効果的な挿絵や写真によって、内容項目についての学びを広げたり深めたりできるよう工夫されている。		

以上が、採択理由の事務局案です。お諮りください。

阿形教育長

ただいま、事務局から採択理由についての案がありましたが、ご意見ございませんか。

波床委員

道徳ですが、「いじめの防止に重点が置かれ」で文章が始まってありますが、「発達段階に合わせて多面的・多角的に繰り返し学習することができる」というのは、いじめに関することについてだけという意味ですか。

竹内教育研究所長

いじめに関することに重点を置いているという意味です。

波床委員

それだけを大きく取り上げるのは道徳に関してはどうでしょうか。もう少し、日本文教出版にはあったと思うのですが。確かにいじめは、重点を置かれていると思いますが、それ以外の教材も充実しているのではないのでしょうか。

竹内教育研究所長

委員がおっしゃるように、重点はいじめについてだけではないので、構成を少し変えて「発達段階に合わせて多面的・多角的に繰り返し学習することができる」とともに、いじめの防止にも重点が置かれている」とします。

藤本委員

生活科の冒頭の部分ですが「幼小接続」となっているのですが、保育が入っていないんです。これは、幼保小と入れたほうがいいのでしょうか。

森崎委員

幼児教育と考えればどうでしょうか。

藤本委員

なるほど。

竹内教育研究所長

我々も幼児教育として、保育所やこども園も含めた幼小接続と考えています。

阿形教育長

文言としてどうでしょうか。「幼児教育との接続」として、分かりやすい形にしてみましようか。

波床委員

社会科の「選択単元や和歌山県に関わる地域教材が充実しており」とありますが、「選択単元が充実している」とはどういう意味ですか。

竹内教育研究所長

例えば中学年の社会科では、選択単元というのが必須になっておりまして、消防や警察などの学習のどちらを選んでも充実しているという意味です。

阿形教育長

それでは、採択理由について、一部修正をしたうえで、事務局案のとおりとしたいと思いますよろしいですか。

委員一同

はい。

阿形教育長

それでは議案第24号について、採決を行いたいと思います。原案どおり承認してよろしいですか。

委員一同

はい。

阿形教育長

それでは原案どおり承認します。

阿形教育長

採択理由について、皆様にご承認いただいたということで、令和6年度に和歌山市立小学校及び義務教育学校前期課程で使用する教科用図書を再度確認いたします。

国語	東京書籍	新編 新しい国語
書写	東京書籍	新編 新しい 書写
社会	日本文教出版	小学社会
地図	帝国書院	楽しく学ぶ 小学生の地図帳
算数	啓林館	わくわく 算数(別冊「わくわくさんすう1 すたあと ぶっく」)
理科	啓林館	わくわく理科
生活	啓林館	せいかつ
音楽	教育芸術社	小学生の音楽
図画工作	日本文教出版	図画工作
家庭	東京書籍	新編 新しい家庭
保健	大修館書店	新 小学校保健
外国語	啓林館	Blue Sky elementary
道徳	日本文教出版	小学道徳 生きる力 (別冊「道徳ノート」)

以上を採択結果とし、採択理由と共に決定いたします。

竹内教育研究所長

続きまして、令和5年度教科書採択に係る資料公表の日程についてのご承認をいただきたく存じます。資料3のとおり、採択結果と理由、選定委員及び調査員の氏名については令和5年9月1日金曜日をめぐりに、また、議事録、選定委員会答申資料及び調査員調査結果資料については、9月定例教育委員会において公表資料の確認と承認をしていただいた後に、公表させていただきたく存じます。公表は市庁舎1階資料コーナー及び市ホームページにて行います。ご審議のほどよろしく願いいたします。

阿形教育長

ただいま、資料公表の日程等について説明がありましたが、よろしいですか。

委員一同

はい。

阿形教育長

それでは、事務局案のとおり公表することとします。

阿形教育長

これをもちまして、令和6年度に和歌山市立小学校及び義務教育学校前期課程で使用する教科用図書についての採択審議を終了いたします。